

麦の需給に関する見通し(案)

平成20年3月

農林水産省

目次

麦の消費に関する動向

- 1 麦の消費量の動向 1
 - (1) 麦の主な用途
 - (2) 小麦の消費量
 - (3) 大・はだか麦の消費量
 - (4) 食料消費において麦が占める割合
- 2 麦製品の生産と価格の動向 4
 - (1) 麦製品の生産量
 - (2) 麦製品の価格動向
 - (参考1) 麦製品の輸入動向
 - (参考2) 麦製品の輸出動向
- 3 製粉企業の状況 8
 - (1) 大手製粉企業及び中小製粉企業の動向
 - (2) 製粉企業の取組

麦の生産に関する動向

- 1 国内産麦の生産状況 10
 - (1) 小麦
 - (2) 大・はだか麦
 - (3) 基本計画に掲げた課題の改善状況
 - (4) 品質・生産性向上に向けた取組
- 2 国内産麦の品質状況 14
 - (1) 農産物検査
 - (2) 品質評価
- 3 国内産麦に対する支援 15
- 4 新品種の開発状況 16

麦の需給に関する動向

- 1 麦の流通の概要 18
 - (1) 小麦
 - (2) 大・はだか麦
- 2 世界の穀物需給と価格の動向 19
 - (1) 穀物の国際需給の動向
 - (2) 穀物の国際価格の動向
 - (3) 輸出規制の状況
- 3 外国産麦の輸入状況 22
 - (1) 麦の安定供給のための対策
 - (2) 小麦
 - (3) 大麦
- 4 外国産麦の売渡価格 24
 - (1) 外国産麦の売渡制度
 - (2) 19年4月以降の外国産麦の売渡価格
- 5 外国産麦の販売状況 26
 - (1) 小麦
 - (2) 大麦
- 6 国内産麦の流通動向 27
 - (1) 取引の概要
 - (2) 流通の動向
 - (3) 国内産麦を利用した製品の動向
- 7 国内産麦の価格の動向 30
 - (1) 20年産の入札価格の概要
 - (2) 20年産小麦の産地別銘柄別入札価格の動向

20年度の麦の需給見通し

1 需給見通し策定の考え方 32

2 20年度需給見通し 33

参 考 付 録 34

参 考 統 計 表 61

麦の消費に関する動向

1 麦の消費量の動向

(1) 麦の主な用途

麦は、我が国の食生活において、パン・めん・菓子・みそ・押麦（麦ごはん）など多様な用途で使用されています。

小麦粉は、たんぱく質の含有量によって薄力粉（菓子用）、中力粉（うどん用）、準強力粉（中華めん用）、強力粉（パン用）に分類され、原料となる麦の種類・銘柄が異なります（表 - 1）。

また、二条大麦はビールや焼酎、六条大麦は押麦や麦茶、はだか麦は麦みそ等の原料になります（表 - 2）。

表 - 1 小麦の主な用途

小麦粉の種類	主な用途	たんぱく含有量	主な原料小麦（（ ）内は略称）	
強力粉	食パン	11.5% ～13.0%	カナダ産ウェスタン・レッド・スプリング（CW）	アメリカ産ダーク・ノーザン・スプリング（DNS）
準強力粉	中華めん ギョウザの皮	10.5% ～12.5%	オーストラリア産プライム ハード（PH）	アメリカ産ハード・レッド・ウィンター（HRW）
中力粉	うどん、即席めん ビスケット 和菓子	7.5% ～10.5%	国内産 オーストラリア産スタンダード・ホワイト（ASW）	
薄力粉	カステラ、ケーキ 和菓子、天ぷら粉 ビスケット	6.5% ～9.0%	アメリカ産ウェスタン・ホワイト（WW）	
デュラム・セモリナ	マカロニ・ スパゲッティ	11.0% ～14.0%	カナダ産デュラム（DRM）	

表 - 2 大・はだか麦の主な用途

大・はだか麦の種類	主な用途	主な原料麦	備考
二条大麦	ビール 焼酎	国内産 オーストラリア産	6列ある麦の穂のうち、2列のみに大粒の実が稔る麦。大粒大麦ともいう。
六条大麦	押麦 麦茶	国内産 カナダ産	6列の麦の穂全てに小粒の実が稔る麦。小粒大麦ともいう。
はだか麦	みそ	国内産	大麦の中でも、子実の外皮が剥がれ易く、粒が裸になる種類の麦。

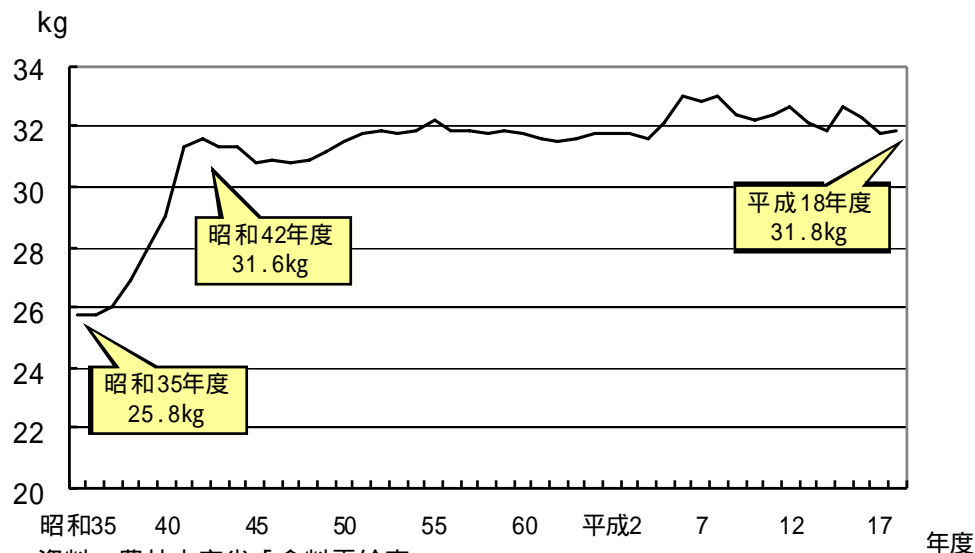
(2) 小麦の消費量

小麦の総需要量は、近年620万トン程度で推移しています。

1人当たりの年間消費量は、昭和42年度まで増加傾向が続いた後、32kg前後で概ね横ばいで推移しており、平成18年度では31.8kgとなっています(図 - 1)。

なお、食料・農業・農村基本計画の「平成27年度における望ましい食料消費の姿」では、小麦の1人当たりの年間消費量が31kgとされており、現在は概ねこれに沿った水準となっています。

図 - 1 小麦の消費量の推移(1人1年当たり)



資料：農林水産省「食料需給表」

注：1) 1人1年当たり供給純食料の値である。

2) 18年度の数値は概算値である。

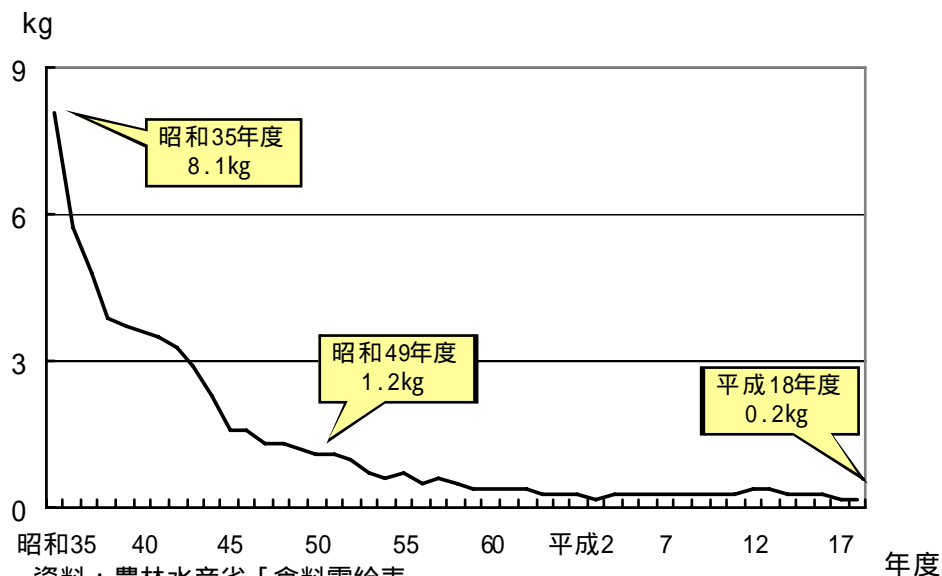
(3) 大・はだか麦の消費量

大・はだか麦の総需要量は、近年230万トン程度で推移しており、このうち主食用(押麦等)の需要は6万トン程度となっています。

1人当たりの年間消費量は、米の代替品として消費されていた昭和40年代と比べると大きく減少しています。近年は0.3kg前後で概ね横ばいで推移しており、18年度では0.2kgとなっています(図 - 2)。

なお、基本計画の「平成27年度における望ましい食料消費の姿」では、大・はだか麦の1人当たりの年間消費量が0.3kgとされており、現在は概ねこれに沿った水準となっています。

図 - 2 大・はだか麦の消費量の推移(1人1年当たり)



資料：農林水産省「食料需給表」

注：1) 1人1年当たり供給純食料の値である。

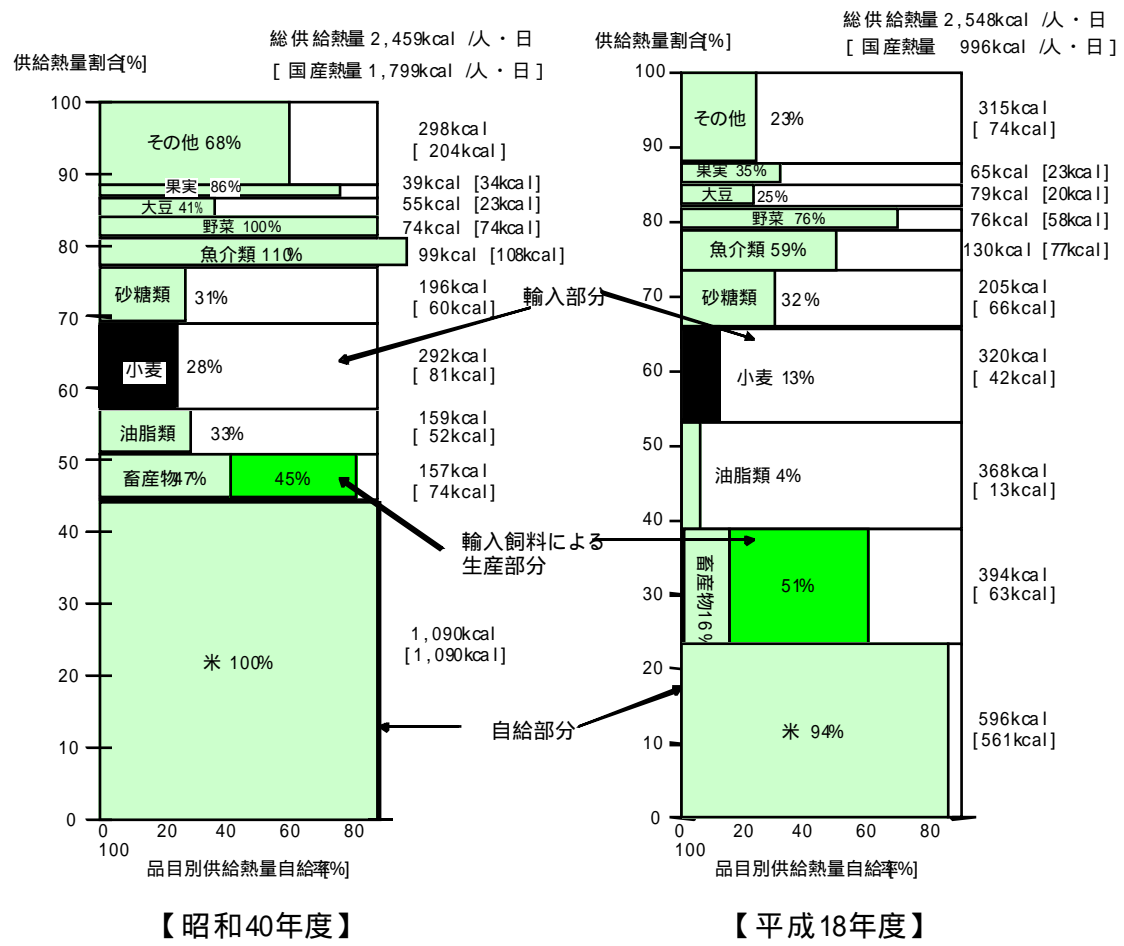
2) 18年度の数値は概算値である。

(4) 食料消費において麦が占める割合

供給熱量ベースで見ると、麦は、国民1人が1日に摂取するカロリー全体の12%程度を占め、平成18年度においては、小麦が12.6%、大・はだか麦が0.1%となっています(図 - 3)。

また、重量ベースの自給率は、小麦が13%、大・はだか麦が8%となっています。なお、基本計画における27年度の目標は小麦が14%、大・はだか麦が15%となっています。

図 - 3 供給熱量の構成の変化と品目別カロリー自給率



(供給熱量総合食料自給率 73%)

(供給熱量総合食料自給率 39%)

資料：農林水産省「食料需給表」

2 麦製品の生産と価格の動向

(1) 麦製品の生産量

麦製品の生産量は、近年、横ばいまたは微減傾向で推移しています(表 - 3)。

小麦粉の生産量については、平成17年はめん類やパン類の需要が低迷したことから減少しましたが、概ね460万トンで安定的に推移しています。

二次加工製品については、

ア めん類の生産量については、小幅な増減を繰り返していましたが、14年以降減少傾向で推移しています。

イ パン類の生産量については、12年には過去最高の1,279千トンを記録しましたが、それ以降、微減傾向で推移しています。

ウ ビスケットの生産量については、ビスケットからチョコレート菓子等へ需要がシフトしたこと等から、9年以降減少傾向で推移していましたが、18年以降増加しています。

精麦の生産量については、14年以降、本格焼酎ブームにより増加傾向で推移してきました。その後、17年、18年と減少しましたが、19年は増加に転じています。

麦茶の生産量については、15年は冷夏の影響により一時的に減少しましたが、16年以降、回復してきています。

表 - 3 麦製品の生産量の推移

(単位：千トン)

区分 年	小麦粉		めん類		パン類		ビスケット	
		前年 増減率 (%)		前年 増減率 (%)		前年 増減率 (%)		前年 増減率 (%)
9	4,638	0.8	1,442	1.6	1,227	0.3	226	0.7
10	4,593	1.0	1,423	1.3	1,234	0.6	219	3.3
11	4,627	0.8	1,433	0.7	1,250	1.3	219	0.1
12	4,624	0.1	1,421	0.9	1,279	2.3	223	1.9
13	4,646	1.1	1,441	1.4	1,272	0.5	218	2.1
14	4,582	1.4	1,423	1.3	1,245	2.0	210	3.9
15	4,633	1.0	1,425	0.2	1,247	0.1	219	4.3
16	4,681	1.0	1,414	0.8	1,243	0.3	214	2.0
17	4,615	1.4	1,368	3.2	1,232	0.9	213	0.5
18	4,616	0.0	1,324	3.2	1,218	1.2	218	2.2
19	4,672	1.2	1,319	0.3	1,211	0.6	225	2.9
区分 年	精麦		麦茶					
		前年 増減率 (%)		前年 増減率 (%)				
9	142	4.4	41	1.5				
10	137	3.5	42	3.4				
11	149	5.8	44	3.8				
12	160	7.4	47	6.4				
13	163	1.9	46	1.1				
14	173	6.1	44	4.3				
15	180	4.0	40	9.3				
16	211	17.2	43	8.8				
17	208	1.4	44	0.2				
18	192	8.5	44	1.0				
19	198	3.4	47	7.0				

資料：農林水産省「米麦加工食品生産動態統計調査年報」

注：めん類及びパン類の数値は、小麦粉使用量、その他の数値は製品生産量である。

(2) 麦製品の価格動向

麦製品（パン、めん類、小麦粉）の価格は、長期間にわたって下落が続いていましたが、昨年秋以降、製品価格の改定が行われ、上昇してきています（図 - 4）。

この要因としては、昨年10月の政府売渡価格の引上げによる原料麦のコストアップに加え、

食用油、マーガリンなどの原料価格の上昇

重油、ガス等の燃料費の高騰

包装資材費の高騰

安全・安心を確保するための追加的な設備投資等があると考えられます。

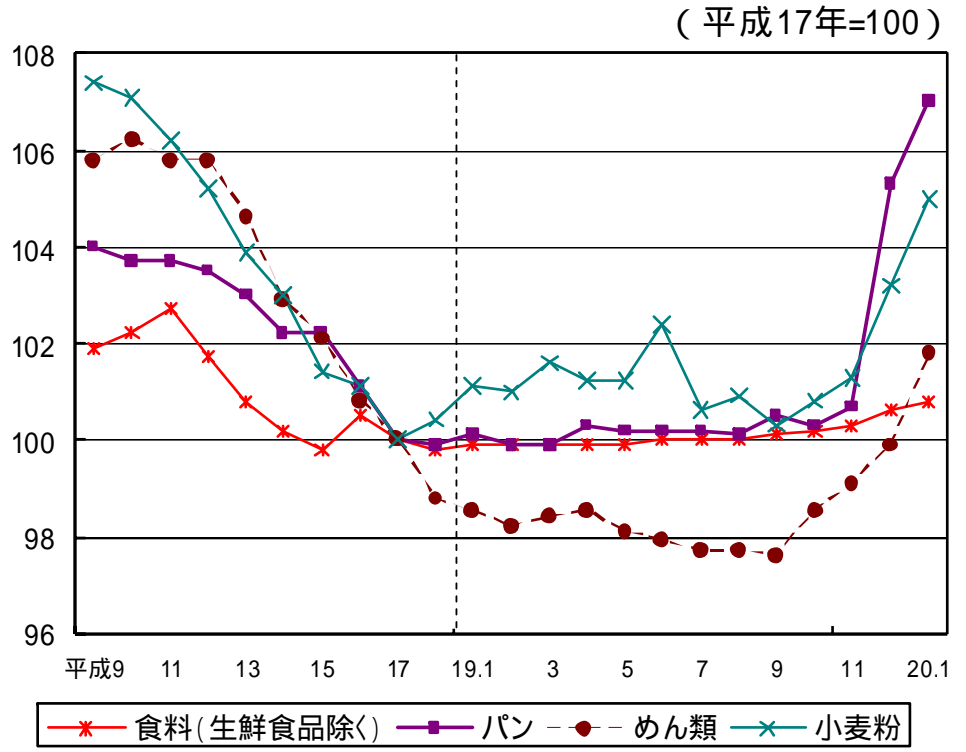
(参考) 家計に占める小麦粉関係支出(平成19年)

(単位:円/世帯)

	年間	1か月平均
消費支出	3,573,382	297,782
食料	901,601	75,133
小麦粉関係支出計	73,581	6,132
パン	27,096	2,258
めん類	16,414	1,368
小麦粉	601	50
菓子類(ビスケット等)	11,403	950
調理食品(調理パン)	3,553	296
外食(うどん等)	14,514	1,210

資料:総務省「家計調査」(二人以上世帯(平均3.14人/世帯))

図 - 4 麦製品の価格(消費者物価指数)の推移



資料:総務省統計局「消費者物価指数」(全国)

(参考1) 麦製品の輸入動向

(1) 小麦粉調製品

小麦粉調製品の輸入量については、平成9年～10年にかけて、円安傾向や主な輸出国である韓国の経済危機の影響により一時的に輸入量は減少しましたが、11年以降、デフレに伴う需要者ニーズの拡大により、めん類に利用されることの多い無糖のものを中心として増加傾向で推移してきました。

その後、18年以降は麦の国際相場の高騰に伴う輸入価格の上昇等から減少しました。

(2) マカロニ・スパゲッティ

マカロニ・スパゲッティの輸入量は、国内の全体需要が増加する中、消費者の本場志向などにより増加傾向で推移していますが、17年はユーロに対する円安等により前年に比べ1.7%減少し、19年は麦の国際相場の高騰に伴う輸入価格の上昇等から4.9%減少しました。

(3) ビスケット

ビスケットの輸入量は、10年以降、円高や100円ショップ等での低価格品のニーズが強まったことにより、マレーシア等からの低価格品の輸入が増加してきました。

その後、17年には、低価格品のブームが一巡したことから、前年に比べ約5%減少し、19年は中国からの輸入減により5.6%の減少となっています。

表 - 4 麦製品の輸入量の推移

(単位：千トン)

区分 年	為替レート (円/ドル)	小麦粉調製品						マカロニ・スパゲッティ		ビスケット	
		前年増減率 (%)		加糖のもの 前年増減率 (%)		無糖のもの 前年増減率 (%)		前年増減率 (%)		前年増減率 (%)	
		前年	増減率 (%)	前年	増減率 (%)	前年	増減率 (%)	前年	増減率 (%)	前年	増減率 (%)
9	119	119	2.8	99	3.5	20	0.4	75	5.2	10	5.3
10	132	107	10.0	85	14.5	22	12.8	81	8.5	9	9.8
11	114	108	1.5	84	1.5	25	13.2	86	5.8	10	2.3
12	107	118	8.5	92	9.7	26	4.5	95	10.8	11	12.5
13	121	126	7.5	99	8.1	27	5.1	93	2.5	13	21.8
14	126	131	3.5	102	3.0	29	5.2	101	9.4	15	11.9
15	116	133	1.3	101	0.6	31	8.2	108	6.3	21	39.9
16	108	136	2.8	98	3.2	38	22.2	112	3.5	25	21.9
17	110	140	2.6	98	0.1	42	9.0	110	1.7	24	4.9
18	116	139	0.9	99	1.2	39	5.9	110	0.2	24	2.3
19	118	117	15.5	87	12.4	30	22.4	104	4.9	23	5.6
19	輸入上位5カ国	国名	シェア (%)	国名	シェア (%)	国名	シェア (%)	国名	シェア (%)	国名	シェア (%)
		韓国	49.2	韓国	59.0	豪州	33.0	イタリア	70.1	中国	35.4
		中国	14.0	中国	18.4	韓国	21.3	米国	22.8	マレーシア	14.1
		オーストラリア	9.4	米国	8.4	シンガポール	16.5	インドネシア	2.3	フィリピン	10.3
		米国	7.5	カナダ	4.2	ニュージーランド	11.5	トルコ	2.3	米国	6.3
		シンガポール	6.2	シンガポール	2.6	米国	4.8	英国	0.4	シンガポール	5.6
		国名	対前年増減量	国名	対前年増減量	国名	対前年増減量	国名	対前年増減量	国名	対前年増減量
		韓国	10.2	韓国	9.2	豪州	1.2	イタリア	4.4	中国	1.1
		中国	1.2	中国	1.4	韓国	1.0	米国	1.0	マレーシア	0.8
		オーストラリア	0.3	米国	0.0	シンガポール	3.4	インドネシア	0.6	フィリピン	0.6
米国	0.3	カナダ	0.2	ニュージーランド	0.3	トルコ	1.5	米国	0.0		
シンガポール	5.8	シンガポール	2.4	米国	0.3	英国	0.3	シンガポール	0.3		

資料：財務省「日本貿易統計」

注：小麦粉調製品は、重量に占める小麦粉の割合が最も大きく、かつ穀粉が占める割合が85%以下のものの輸入量。

なお、小麦粉調製品のうち加糖のものは一般に菓子類、菓子パン類などの原料として利用され、無糖のものはめん類の原料として使用される。

(参考2) 麦製品の輸出動向

麦製品の輸出については、その大部分を占める小麦粉の輸出量が、近年、主要輸出先国の製粉技術の向上や現地製粉工場の立ち上げ等により減少傾向にあります(表 - 5)。また、小麦粉以外の麦製品の輸出量は少量となっています。

表 - 5 麦製品の輸出量の推移

(単位：製品トン)

年	区分	小麦粉	マカロニ・ スパゲティ	ビスケット
9		267,170	1,911	1,580
10		270,747	1,548	1,900
11		334,594	661	1,644
12		309,594	376	1,028
13		321,028	315	967
14		319,968	253	954
15		318,700	410	1,052
16		304,413	328	769
17		289,911	1,054	719
18		290,033	1,196	762
19		255,377	1,150	1,098

資料：財務省「日本貿易統計」

注：小麦粉の主な輸出先は、香港・ベトナム・シンガポ - ルである。

3 製粉企業の状況

(1) 大手製粉企業及び中小製粉企業の動向

小麦粉生産の集中度

大手4社の小麦粉の生産量は、全体の73%を占めており、これに年間小麦粉生産量が3万トン以上の企業の生産量を加えた14社ベースでは、同86%を占めています。

大手製粉企業の動向

大手製粉企業は、生産設備の臨海工場への集約化を進めつつ、工場の大規模化、合理化を推進しています。

平成18年度の1工場当たりの生産量は13.8万トン、また、稼働率は92%となっており、10年前と比較すると、従業員1人当たりの生産量は約5割増加しています。

年間小麦粉生産量3万トン以上の中小製粉企業の動向

年間小麦粉生産量3万トン以上の企業は、工場のほとんどが臨海地域に立地し、小麦粉を域内の二次加工メーカー等に供給しています。

18年度の1工場当たりの生産量は5.2万トン、稼働率は72%となっており、10年前と比較すると、従業員1人当たりの生産量は約2割増加しています。

年間小麦粉生産量1千トン以上3万トン未満の中小製粉企業の動向

年間小麦粉生産量1千トン以上3万トン未満の企業は、主に内陸に位置し、小麦粉を地元のパン、めん等の加工業者に供給するほか、乾めん等の製造を兼ねるものも多くなっています。

18年度の1工場当たりの生産量は、1.3万トンと大手製粉企業の10分の1以下、稼働率も37%と低く、10年前と比較しても、従業員1人当たりの生産量は約1割の増加にとどまっています。

表 - 6 大手製粉企業、中小製粉企業の小麦粉生産等の動向

		全体	大手製粉	中 小 製 粉			
				年間生産量			
				3万トン以上	1千トン以上 3万トン未満	1千トン未満	
企業数	H 8	137	4	133	13	71	49
	H 1 8	100	4	96	10	52	34
	増減率	27.0	-	27.8	23.1	26.8	30.6
工場数	H 8	174	31	143	20	74	49
	H 1 8	124	26	98	12	52	34
	増減率	28.7	16.1	31.5	40.0	29.7	30.6
生産量 (千トン)	H 8	4,970	3,363	1,607	785	814	8
	H 1 8	4,899	3,592	1,307	624	679	4
	増減率	1.4	6.8	18.7	20.5	16.6	51.6
生産シェア (%)	H 8	100.0	67.7	32.3	15.8	24.2	0.5
	H 1 8	100.0	73.3	26.7	12.7	13.9	0.1
	増減率	-	8.3	17.5	19.4	42.7	84.1
従業員数 (人)	H 8	4,556	1,787	2,769	925	1,703	141
	H 1 8	3,200	1,248	1,952	610	1,265	77
	増減率	29.8	30.2	29.5	34.1	25.7	45.4
一人当たり の生産量 (トン)	H 8	1,091	1,882	580	849	478	54
	H 1 8	1,531	2,878	670	1,023	537	48
	増減率	40.4	52.9	15.4	20.6	12.3	11.3
一工場当たり の生産量 (千トン)	H 8	29	108	11	39	11	0.2
	H 1 8	40	138	13	52	13	0.1
	増減率	38.3	27.4	18.7	32.5	18.7	30.2
稼働率 (%)	H 8	65.0	81.8	46.4	69.3	36.7	8.6
	H 1 8	72.9	91.9	46.9	72.4	36.5	5.8
	増減率	12.2	12.3	1.1	4.4	0.5	32.7

資料：8年度は農林水産省「製粉工場実態調査」、18年度は協同組合全国製粉協議会及び農林水産省調べ。

(2) 製粉企業の取組

製粉企業では原油価格や国際的な穀物価格の高騰等に対応するためのコスト削減に向けた取組や安全・安心の確保に向けた取組等が行われています(図 - 5)。

工場の集約化

大手製粉企業では、内陸工場を閉鎖し、海外からの原料調達に有利な臨海工場への集約を進めるとともに、臨海工場の生産能力を増強させる等、生産性の向上を図っています。

品質・安全性の向上

製粉企業では、近年、消費者の安全・安心への関心が高まる中、食品の品質・安全性を確保するための設備の導入等、様々な取組を行っています。

業務提携等の推進

近年、製粉業界では、規模拡大による生産性の向上や物流合理化を図るための合併や業務提携、また、中小製粉企業では協同組合単位で共同購入を行う等、経営の効率化に取り組んでいます。

地産地消の推進

中小製粉企業では、機動性の高さ、地域とのつながりの強さや独自の立地条件を活かした特色ある経営を模索する中で、生産者と協力した積極的な地産地消の取組が見られます。

図 - 5 製粉企業の各種取組の事例

工場集約の集約化

A社では、生産性向上のため内陸工場を閉鎖し、臨海工場への集約化を推進。

- ・ B工場(群馬) C工場(神奈川)平成14年
- ・ D工場(兵庫) E工場(兵庫)平成20年予定

F社では、生産性向上のため総生産能力の80%を臨海部の大型工場に集約。

品質・安全性の向上

G社では、食用粉の専用包装棟を新設し、食用粉と非食用粉の包装を完全に分離。また、工場内の気圧を外気よりも高くし、窓も少なくして建物内に異物が入らないように工夫。

業務提携等の推進

規模の拡大による生産性の向上や物流合理化を目指しH社とI社が合併。J社とK社が業務提携し、二社共同で製造・販売及び物流業務の効率化を推進。

中小製粉企業において、小麦粉の生産委託や協同組合単位で包装袋等の共同購入等を実施。

地産地消の推進

北海道

主な実施者：製粉L社、JA、道立食品加工研究センター、大学、製麺業者、市等

取組内容等：ハルユタカの農業者向け技術講習会の開催
小麦の生産から製粉・製麺と全てを市内で完結した「江別小麦めん」を開発・販売

栃木県

主な実施者：製粉M社
取組内容等：栃木産醤油用小麦「タマイズミ」の高タンパク性を利用した中華麺「タマイズミラーメン」の開発。

静岡県

主な実施者：製粉N社、地元営農組合、町役場、醤油・乾麺製造業者
取組内容等：地元農家で栽培された小麦(農林61号)、駿河湾深層水の塩など、地域素材にこだわったそうめんとそうめんつゆをセットで開発。

麦の生産に関する動向

1 国内産麦の生産状況

(1) 小麦

平成19年産小麦の作付面積は20万9千ha、生産量は91万トンとなり、民間流通制度が導入された12年産と比べてそれぞれ15%、32%と大幅に増加しています。

これは、北海道畑作地帯において、省力的かつ安定的な多収栽培技術が確立されたため、生産者の作付意欲が高まったことに加え、都府県の水田作地帯においても、米の転作作物として各地で作付けが拡大したことによるものです。

なお、19年産の生産量については、需要の堅調な二条大麦への作付転換等の影響により、前年産に比べて作付面積は4%減少したものの、主産県において主に収穫期の天候が良好であったことから、単収が増加し、生産量は9%増加しています(図 - 1)。

銘柄別の作付動向をみると、北海道産の「ホクシン」が大幅に拡大してきたほか、都府県では従来品種の「農林61号」から「イワイノダイチ」や「ふくさやか」、「チクゴイズミ」から「さぬきの夢2000」等の良質な新品種に徐々に作付転換が進んでいます。

また、最近ではパン用の新品種として「春よ恋」、「キタノカオリ」、「ニシノカオリ」等も各地で作付けされています(表 - 1)。

図 - 1 小麦の生産量と作付面積の推移

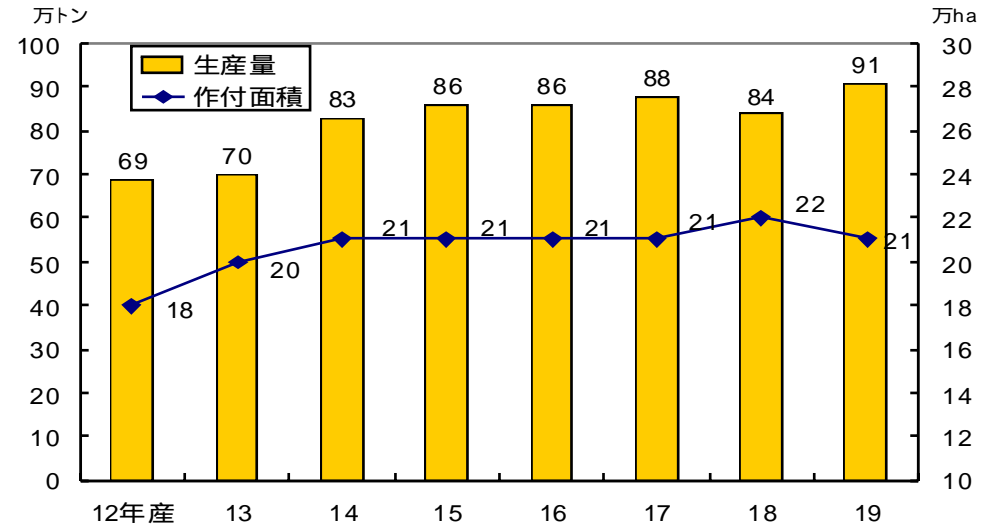


表 - 1 近年育成された小麦の普及状況

	19年産作付面積	主な作付道県
新品種の作付面積	26,668ha (普及率13%)	
春よ恋(12年育成)	7,080ha	北海道
キタノカオリ(15年育成)	1,620ha	北海道
イワイノダイチ(11年育成)	3,046ha	愛知、岐阜、栃木
ふくさやか(14年育成)	1,377ha	滋賀
ニシノカオリ(11年育成)	2,288ha	三重、佐賀、大分
さぬきの夢2000(12年育成)	1,350ha	香川

資料：農林水産省農産振興課調べ。

注：1) 新品種とは、平成11年以降育成されたものである。

2) 普及率は、小麦の作付面積に占める新品種の作付面積の割合である。

(2) 大・はだか麦

大・はだか麦については、近年、主食用や焼酎用の需要が堅調に推移していますが、ビール用麦芽の需要量が減少しているため、平成19年産の作付面積は5万4千ha、生産量は19万5千トンとなり、12年産よりわずかに低い水準にあります(図 - 2)。

なお、19年産の生産量については、作付面積は前年産と同程度であったものの、主産県において主に収穫期の天候が良好であったことから、単収が増加し、生産量は12%と大幅に増加しています。

近年の主要銘柄の作付動向をみると、二条大麦については、「あまぎ二条」から大麦萎縮病耐性を有し良質な「スカイゴールデン」や焼酎専用品種である「ニシノホシ」等に転換が進められています。

また、六条大麦については、押麦用は「ミノリムギ」から白度や精麦適性が優れた「ファイバースノウ」に、麦茶用は「すずかぜ」から「さやかぜ」等への転換が進みつつあります。

はだか麦については、「イチバンボシ」から安定多収な「マンネンボシ」に作付転換が進んでいます(表 - 2)。

図 - 2 大・はだか麦の生産量と作付面積の推移

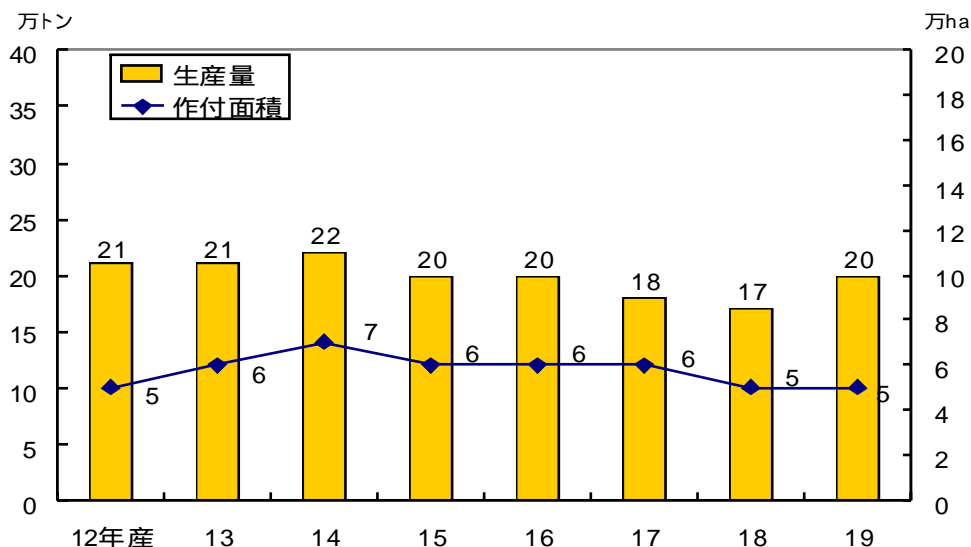


表 - 2 近年育成された大・はだか麦の普及状況

		19年産作付面積	主な作付県
新品種の作付面積		16,410ha (普及率30%)	
二条大麦	スカイゴールデン(12年育成)	5,616ha	栃木
	ニシノホシ(9年育成)	5,022ha	佐賀、熊本、福岡
六条大麦	ファイバースノウ(12年育成)	8,002ha	福井、石川、富山
	さやかぜ(15年育成)	73ha	群馬、広島
はだか麦	マンネンボシ(13年育成)	1,355ha	愛媛

資料：農林水産省農産振興課調べ。

注：1) 新品種とは、平成11年以降育成されたものである。

2) 普及率は、大・はだか麦の作付面積に占める新品種の作付面積の割合である。

(3) 基本計画に掲げた課題の改善状況

国内産小麦は、外国産小麦に比べてたんぱく質含有量にバラツキがみられる等、品質面での課題があります(図-3)。このため、良質な新品種への計画的な転換を図るとともに、産地における品質管理を徹底することによって、更なる品質の向上に努める必要があります。

国内産小麦の生産性に関しては、平成27年度に生産コストを3割程度削減することを目標としていますが、近年の動向をみると、60kg当たり生産費では、北海道の単収の向上等によって低減傾向で推移しており、また、10a当たり生産費では、都府県における麦作の集積の加速化、農機具の効率的利用等によって低減傾向を示しています。

しかしながら、依然として目標水準と乖離があることから、更なる経営規模の拡大等を通じ、引き続き、生産努力目標で掲げている3割程度のコスト削減目標の達成に向けた努力が必要となっています(図-4)。

また、大・はだか麦については、需要者の国産志向が高まっているものの、生産が需要に対応できていない状況となっており、生産性の向上、良質かつ収量性に優れた新品種の導入、排水対策等の基本技術の徹底等の取組により、需要に応じた生産の推進が求められています。

図-3 小麦(日本めん用)のたんぱく質含有量の分布状況

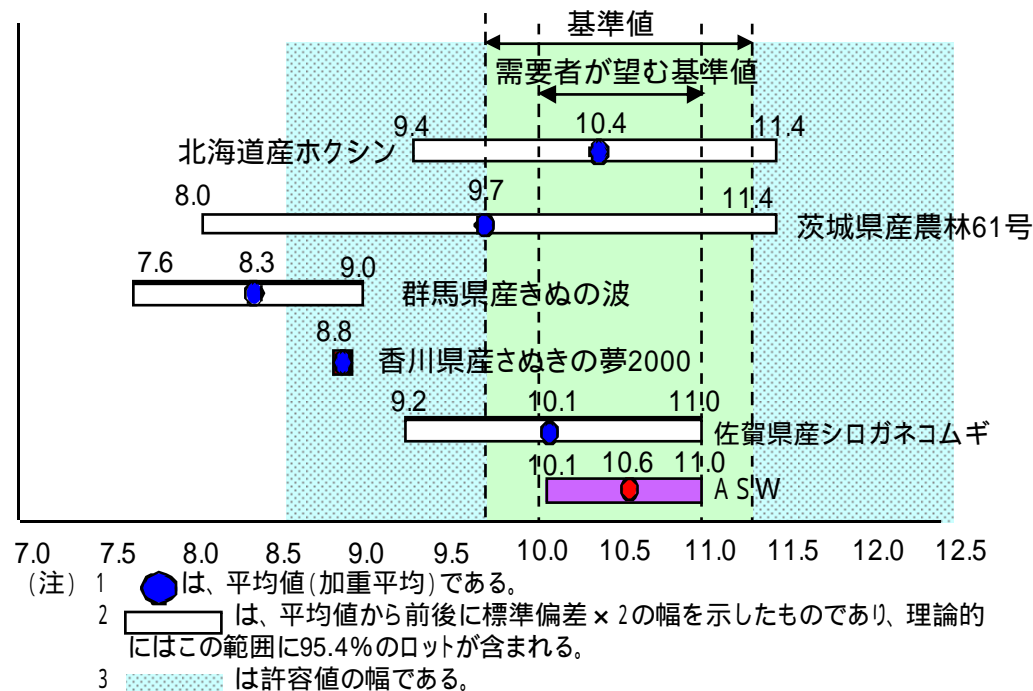
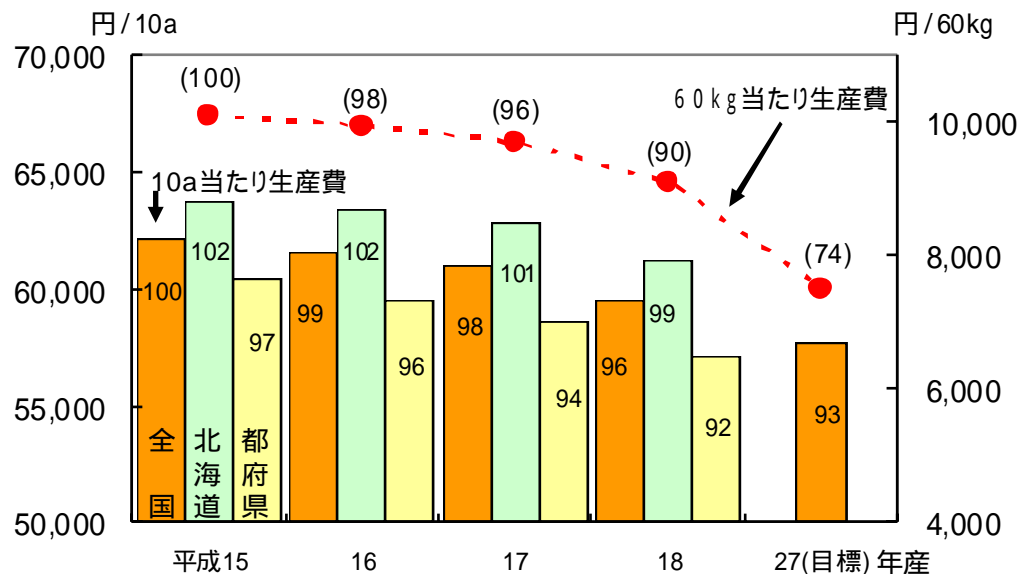


図-4 小麦の全算入生産費の推移(田畑計)



資料：農林水産省「農業経営統計調査(小麦生産費統計)」

- 注：1) 棒グラフ内の数字は、15年産(全国)を100とおいた場合の指数である。
2) 折れ線グラフの()内の数値は、15年産を100とおいた場合の指数である。
3) 60kg当たり生産費は、10a当たり全算入生産費(実績値)を10a当たり平均収量で除した数値である。

(4) 品質・生産性向上に向けた取組

現在、JAや関係行政機関等で構成する「産地協議会」(全国約300か所)において、地域の麦生産の課題と対応方向を明確にした「産地強化計画」を策定し、担い手の育成や生産の組織化、新品種への作付転換、品質・生産性の向上等に向けた産地改革を推進しています(図 - 5)。

このような中で、各産地においては、地域の立地条件や気象条件等に応じて創意工夫に努め、需要者ニーズを踏まえた高品質化や生産性向上といった課題を乗り越えた優良事例が育ってきており、これらの取組を普及・啓発しつつ、さらに産地の生産体制の強化を図っていくこととしています(表 - 3)。

図 - 5 麦産地改革の推進

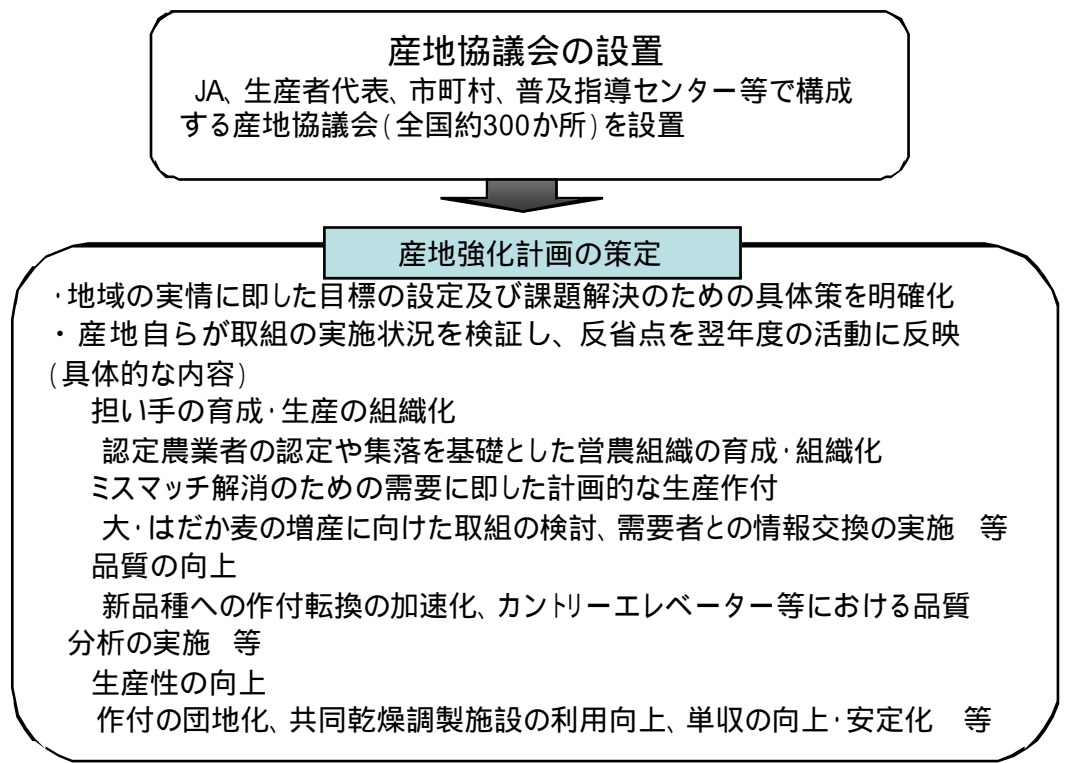


表 - 3 麦作の優良事例(平成19年度全国麦作共励会)

地域	営農形態	経営・技術の特色
福岡県	個人営農 小麦 19.7ha 二条大麦 13.0ha	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策の徹底等により、栽培4品種全てで地域平均を上回る単収を実現。 ・小麦と大麦を組み合わせ、作業競合を回避することにより、大規模経営を実践。 ・上位等級比率は100%(ビール大麦2等以上、その他は1等)
愛媛県	農事組合法人 はだか麦 23.1ha 小麦 6.7ha	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策、踏圧、土入れ等の基本技術の徹底により、はだか麦の単収は県平均の1.6倍。 ・はだか麦の1等比率は100%。 ・地域特産品、学校給食向け栽培への取組。

2 国内産麦の品質状況

(1) 農産物検査

平成19年産の普通小麦の全国の検査数量（20年2月末現在）は、96万トンであり、1等比率は86.6%と過去5年平均と比較して18ポイント高くなっています（表 - 4）。

これは、生産の大半を占める北海道や九州などで天候に恵まれ、生育及び登熟が良好であったことから、北海道、都府県共に高い1等比率となったことによります。

大・はだか麦は、生産地域が偏在することから、天候により作柄が左右されやすく、種類や年産により1等比率に差が見られます。

(2) 品質評価

たんぱく質や灰分の含有率等に基づく品質評価結果については、19年産の日本めん用小麦では、Aランクが86%（北海道100%、都府県59%）となっています（表 - 5）。

なお、水田・畑作経営所得安定対策の生産条件不利補正対策の毎年の生産量・品質に基づく支払については、生産性向上・品質向上等のインセンティブを適切に働かせる観点から、この品質評価の区分に応じて、支払単価を設定しています。

表 - 4 国内産麦の検査数量及び等級比率

上段：検査数量(トン)
下段：1等比率(%)

	14年産	15年産	16年産	17年産	18年産	19年産	5年平均 (14~18年産)	
普通小麦	906,350	903,990	904,281	946,474	870,333	961,274	906,286	
	67.5	59.6	70.0	71.1	77.4	86.6	69.1	
	北海道	601,409	611,977	606,761	626,596	549,175	641,270	599,184
	60.9	59.2	79.0	63.3	85.2	86.3	69.2	
	都府県	304,941	292,014	297,519	319,878	321,159	320,004	307,102
	80.4	60.6	51.8	86.5	64.2	87.3	69.0	
普通小粒大麦	55,400	52,325	49,228	44,351	40,901	50,141	48,441	
	42.6	55.5	38.5	63.1	54.6	66.5	50.3	
普通大粒大麦	57,769	64,115	80,807	58,800	73,875	74,397	67,073	
	62.2	60.4	62.5	73.7	60.8	69.1	63.6	
普通はだか麦	19,886	18,136	15,136	11,283	13,690	13,629	15,626	
	27.7	33.5	50.0	78.8	11.5	78.9	37.9	
ビール大麦	64,021	62,258	50,003	61,152	43,232	51,338	56,133	
	86.7	86.5	77.3	88.3	82.6	93.1	84.7	

- 注：1) 19年産は20年2末日現在の値で、前年までの値は翌年4月末の値である。
2) 強力小麦の検査数量を含む値である。
3) ビール大麦の等級比率は2等以上の比率である。
4) ラウンドの関係で計と内訳が一致しないことがある。

表 - 5 平成19年産麦の品質評価結果

(単位:トン、%)

		Aランク	Bランク	Cランク	Dランク
日本めん用小麦	数量	695,678	85,890	25,190	6,688
	割合	85.5	10.6	3.1	0.8
主食等用二条大麦	数量	48,070	1,735	316	12
	割合	95.9	3.5	0.6	0.0

- 注：1) 他に、パン・中華めん用小麦、醸造用小麦、麦茶用二条大麦、主食等用六条大麦、麦茶用六条大麦、主食等用はだか麦、麦茶用はだか麦がある。
2) 20年2月25日現在の数値である。

(参考) A～Dの品質区分

A～Dの品質区分については、以下に掲げる評価項目の基準値及び許容値について、基準値を3つ以上かつ許容値を全て達成したものをAランク、基準値を2つかつ許容値を全て達成したものをBランク、基準値を1つかつ許容値を全て達成したものをCランク、A～Cランクのどれにも当てはまらないものをDランクとする。

小麦：たんぱく、容積重、灰分、フォーリングナンバーの4つの評価項目
(ただし、醸造用については、たんぱく3項目、容積重)

二条大麦：容積重、細麦率、白度、正常粒率の4つの評価項目
(ただし、麦茶用については、たんぱく3項目、細麦率)

(六条大麦・はだか麦の麦茶用も同じ)
六条大麦・はだか麦：容積重、細麦率、白度、硝子率の4つの評価項目

3 国内産麦に対する支援

国内産麦に対しては、水田・畑作経営所得安定対策により支援が行われています。この対策は、諸外国との生産条件格差から生じる不利を補正するための生産条件不利補正対策及び収入の減少の影響を緩和するための収入減少影響緩和対策からなっています。

このうち、生産条件不利補正対策においては、品目ごとの担い手の生産コストと販売収入の差額に着目して、各経営体の過去の生産実績に基づく支払と、毎年の生産量・品質に基づく支払の両方で、生産条件に関する不利を補うこととしています（図 - 6）。

なお、政府が外国産麦を売買することにより得られる差益は、この水田・畑作経営所得安定対策の経費に充てることとしています。

また、小麦等穀物の国際相場が急騰する中で、近年、単収向上が著しい先進的な小麦産地において、安定的な小麦生産が行われるよう品質向上等の取組に対する支援措置を講じています。

この他に、需要者からの生産者に対する支援として契約生産奨励金があります。これは、需要者が積み立てた拠出金を原資として、生産者の品質向上等の努力に対して支援するものです。

図 - 6 水田・畑作経営所得安定対策による支援水準

過去の生産実績に基づく支払の面積当たり単価

（単位：円 / 10a）

小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦
27,740	21,070	18,290	23,750

注：全国平均の単収を前提とした単価であり、市町村毎の単収水準により市町村毎に単価は設定する。

毎年の生産量・品質に基づく支払の数量当たり単価

（単位：円 / 単位量）

品質区分 (等級 / ランク)	1 等			
	A	B	C	D
小麦 (60kg当たり)	2,110	1,610	1,460	1,402
二条大麦 (50kg当たり)	1,671	1,254	1,129	1,079
六条大麦 (50kg当たり)	1,642	1,225	1,100	1,048
はだか麦 (60kg当たり)	2,305	1,805	1,655	1,572

注：1) 2等の単価については、1等の単価から、小麦及びはだか麦は1,160円、二条大麦及び六条大麦は966円を引いた額である。

2) A～Dの品質区分については、P14の(参考)に同じ。

4 新品種の開発状況

麦の新品種については、平成11年度からの「麦新品種緊急開発プロジェクト」以降、需要者ニーズを踏まえつつ、耐病性、耐倒伏性に優れた品種を開発してきたところであり、生産現場への導入が進んでいます（「農業新技術2008」（ ）に選定）（図 - 7、図 - 8）。

「農業新技術2008」
 農業試験研究独立行政法人等による農業技術に関する近年の研究成果のうち、早急に現場への普及を推進する重要なものを毎年選定し、公表。

今後は、めん色の一層の改善や穂発芽耐性、赤かび病抵抗性等の強化を図るとともに、需要が高まっているパン用や大・はだか麦品種等、需要者ニーズに応じた品種の開発を一層推進する必要があります。

パン用品種の開発・・・開発された秋まき品種が地域特産として普及拡大しています。春まき品種に比べて収量は多いもののパンの色相等が劣るため、製パン性の一層の向上が図られています。

耐病性品種の開発・・・赤かび病は原料に有害なかび毒を蓄積することから、最重要病害として耐病性品種の開発を推進しています。これまでに既存品種よりも耐性の強い「トワイズミ」等を開発し、近年ではDNAマーカーを活用した品種の早期開発を行っています。

図 - 7 平成11年以降に開発された麦類の主な新品種

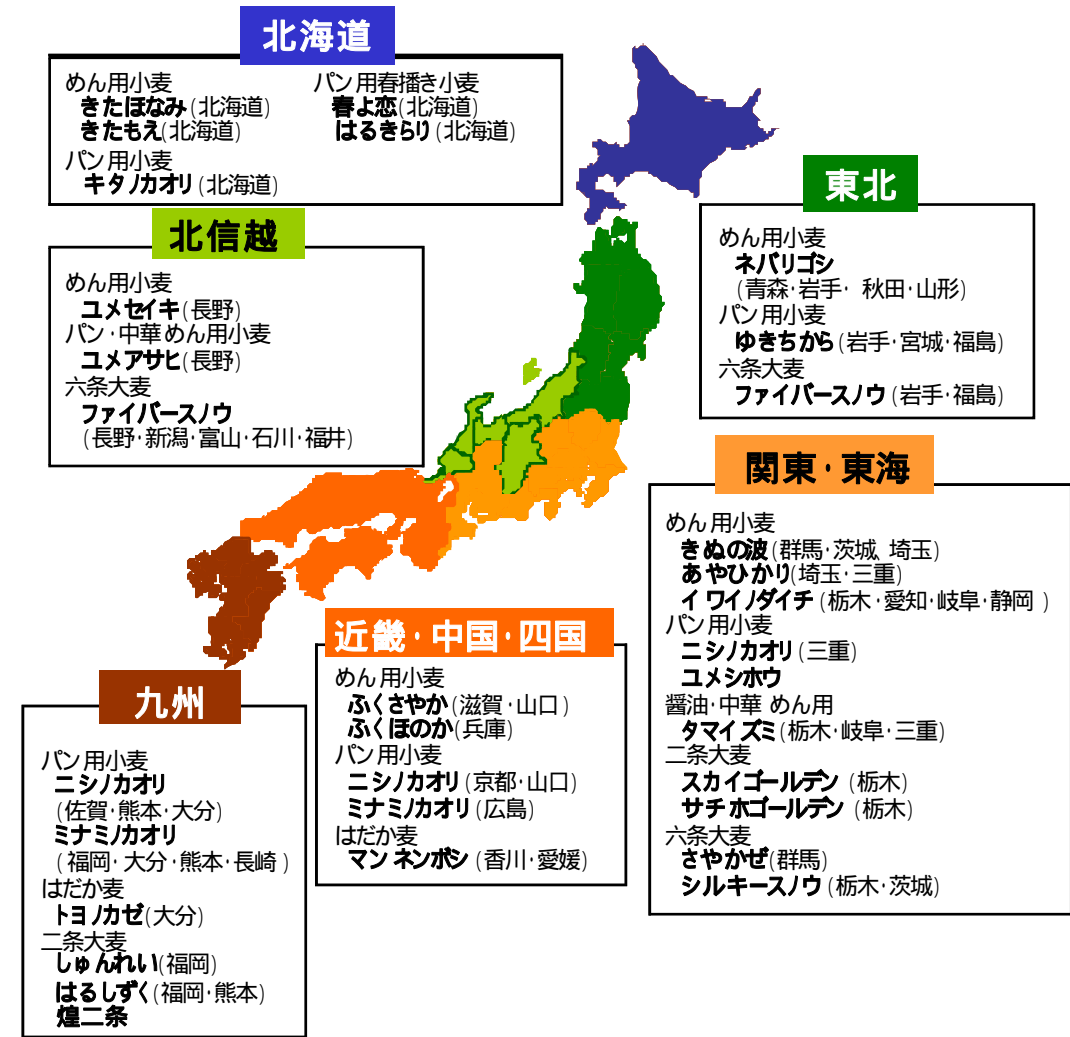


図 - 8 新品種の導入事例

日本めん用小麦(東北地方)

	平成14年	平成18年
キタカミコムギ <昭和34年育成>	2,331ha	853ha (1,478ha)
ネバリゴシ <平成12年育成>	684ha	1,629ha (+ 945ha)

「キタカミコムギ」は育成当時は多収、良質品種であったが、倒伏、穂発芽しやすく、また、タンパク質が低い欠点があった。
これに対し、「ネバリゴシ」は、「キタカミコムギ」のこうした欠点が改良されたことに加えて製麺適性が高いことから導入が進んでいる。

日本めん用小麦(北海道)

昭和50年代以降、ホロシリコムギ チホクコムギ ホクシンと主要品種がおよそ10年おきに変遷してきており、これらの品種転換毎に製麺適性や収量が向上してきている。

平成18年には、A S Wに匹敵する製麺適性を持つ新品種「きたほなみ」が開発され、「ホクシン」に替わる品種として期待されている。

二条大麦(関東地方)

	平成14年	平成18年
あまぎ二条 <昭和53年育成>	2,999ha	927ha (2,072ha)
スカイゴ - ルデン <平成12年育成>	95ha	3,764ha (+ 3,669ha)

「あまぎ二条」は標準的な品質の品種として栽培されてきたが、縞萎縮病に弱く、また、倒伏しやすい欠点があった。
これに対し、「スカイゴ - ルデン」は縞萎縮病に強く、倒伏しにくいことに加えて麦芽品質が優れることから導入が進んでいる。

パン用小麦(北海道)

	平成14年	平成18年
ハルユタカ <昭和60年育成>	6,639ha	838ha (5,801ha)
春よ恋 <平成12年育成>	2,950ha	8,501ha (+ 5,551ha)
キタノカオリ <平成15年育成>	0ha	1,628ha (+ 1,628ha)

「ハルユタカ」は数少ないパン用小麦として需要が高かったが、穂発芽しやすく、収量が安定しない欠点があった。
これに対し、「春よ恋」は穂発芽や倒伏が少ない上、収量も多くなるため、「ハルユタカ」に置き換わり導入され、「キタノカオリ」は秋まき小麦としての新規需要が多く導入が進んでいる。
平成19年には赤かび病によるカビ毒が少ない「はるきらり」が開発され、赤かび病の被害を軽減する品種として期待されている。

六条大麦(北陸地方)

	平成14年	平成18年
ミノリムギ <昭和44年育成>	5,889ha	466ha (5,423ha)
ファイバ - スノウ <平成12年育成>	1,965ha	6,890ha (+ 4,925ha)

「ミノリムギ」は育成当時は良質品種として需要が高かったが、倒伏しやすく、また、細麦の発生が多く見られるなどの欠点があった。
これに対し、「ファイバ - スノウ」は倒伏しにくく、多収で精麦白度が優れることから、導入が急速に進んでいる。

麦の需給に関する動向

1 麦の流通の概要

麦は需要量の約9割を外国産麦の輸入で賄っています。国内産麦は民間流通により取引されており、外国産麦は政府が国家貿易により一元的に輸入し、需要者に売り渡しています。

また、米とは異なり、最終的にパンやめんとして消費するために、流過程において各種の加工工程を経ています。

(1) 小麦

小麦については、主に、製粉企業が製粉して小麦粉にし、その小麦粉を原料として二次加工メーカーがパン・めん・菓子を製造します(図-1)。

(2) 大・はだか麦

大・はだか麦については、精麦して、焼酎・みそ等の発酵用にしたり、蒸気で加熱、圧ぺんして、押麦(麦ごはん)用にするといった加工工程を経て流通しています。

なお、国内産ビール大麦については、生産者団体とビール会社の間で契約栽培により供給され、麦芽等に加工されて流通しています(図-2)。

図-1 小麦の流通の現状(平成18年度・食糧用)

(単位:万トン)

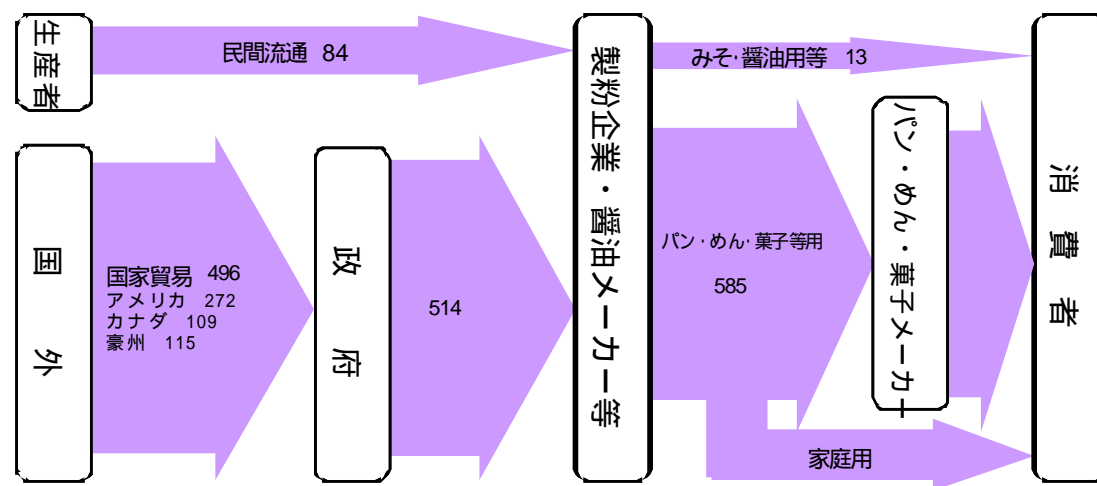
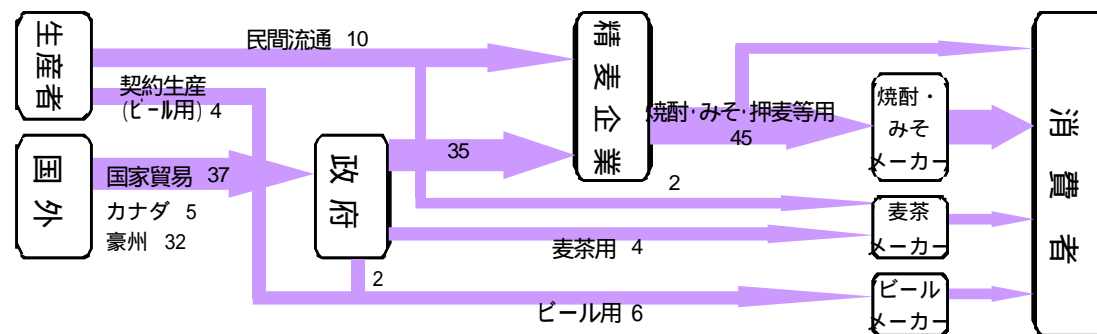


図-2 大・はだか麦の流通の現状(平成18年度・食糧用)

(単位:万トン)



2 世界の穀物需給と価格の動向

(1) 穀物の国際需給の動向

穀物の国際需給は、

ア 中国やインド等の人口超大国の経済発展による食料需要の増大

イ 世界的なバイオ燃料の原料としての穀物等の需要増大

ウ 地球規模の気候変動の影響

といった中長期的に継続する構造的な要因から、近年、消費量が生産量を上回る傾向にあり、在庫が減少し、需給はひっ迫した状況にあります。

2007/08年における期末在庫率は、食料危機と言われた70年代前半の水準に匹敵する14.9%（対前年 1.5ポイント）まで低下すると見込まれています（表 - 1）。

小麦については、2007/08年においては、生産量は前年に比べ、やや増加するものの、消費量も増加することから、在庫量は減少し、期末在庫率は17.8%（対前年 2.5ポイント）に低下すると見込まれています（表 - 2）。

大麦については、2007/08年においては、消費量が前年に比べ減少するものの、生産量も減少することから、在庫量は減少し、期末在庫率は11.1%（対前年 3.1ポイント）に低下すると見込まれています（表 - 3）。

表 - 1 世界の穀物需給

(単位:百万トン)

年 度	2003 /04	2004 /05	2005 /06	2006 /07 見込	2007 /08 予測
生産量	1,861.2	2,041.4	2,016.4	1,991.1	2,084.1
消費量	1,933.5	1,988.7	2,031.5	2,044.3	2,105.4
期末在庫	355.5	403.7	388.6	335.3	314.0
期末在庫率(%)	18.4	20.3	19.1	16.4	14.9
貿易量	239.0	240.0	253.5	258.0	256.5
貿易比率(%)	12.8	11.8	12.6	13.0	12.3

資料：アメリカ農務省(2008年3月発表)による。

注：1) 期末在庫率(%)は、消費量に対する在庫量の割合である。

2) 貿易比率(%)は、生産量に対する貿易量の割合である。

表 - 2 小麦の国際需給状況

(単位:百万トン)

年 度	2003 /04	2004 /05	2005 /06	2006 /07 見込	2007 /08 予測
生産量	553.5	625.1	621.5	593.2	605.0
消費量	587.5	606.9	624.4	615.8	619.6
期末在庫	132.4	150.6	147.6	125.1	110.4
期末在庫率(%)	22.5	24.8	23.6	20.3	17.8
貿易量	108.4	110.7	116.2	110.7	106.9
貿易比率(%)	19.6	17.7	18.7	18.7	17.7

資料、注：表 - 1に同じ。

表 - 3 大麦の国際需給状況

(単位:百万トン)

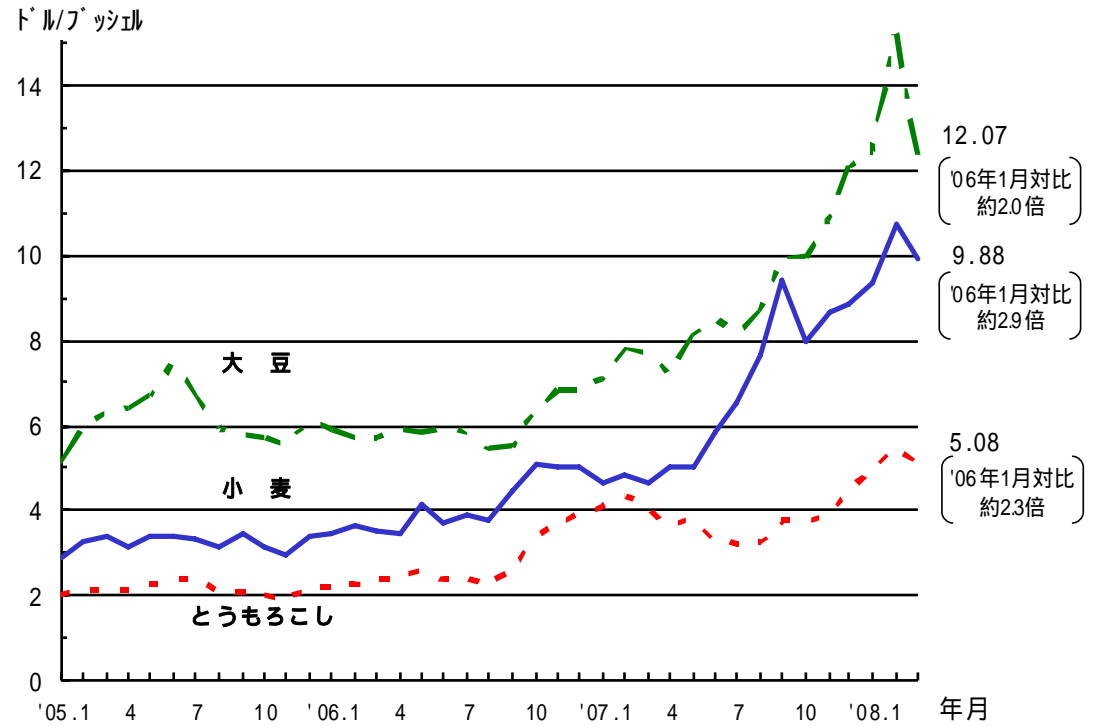
年 度	2003 /04	2004 /05	2005 /06	2006 /07 見込	2007 /08 予測
生産量	142.5	153.0	136.5	137.3	133.3
消費量	147.2	142.4	141.1	145.4	138.4
期末在庫	22.5	33.1	28.6	20.6	15.4
期末在庫率(%)	15.3	23.3	20.3	14.2	11.1
貿易量	16.4	15.1	18.2	15.3	13.9
貿易比率(%)	11.5	9.9	13.4	11.2	10.5

資料、注：表 - 1に同じ。

(2) 穀物の国際価格の動向

以上見てきたような事情を背景として、小麦、とうもろこし、大豆の国際価格は、2006年秋頃から高騰を続けてきています。今年に入ってから史上最高値を更新しており、最近、やや値を戻してはいるものの、当面、高水準が続くものと見込まれています(図 - 3)。

図 - 3 穀物の国際価格(シカゴ商品取引所)



資料:シカゴ商品取引所

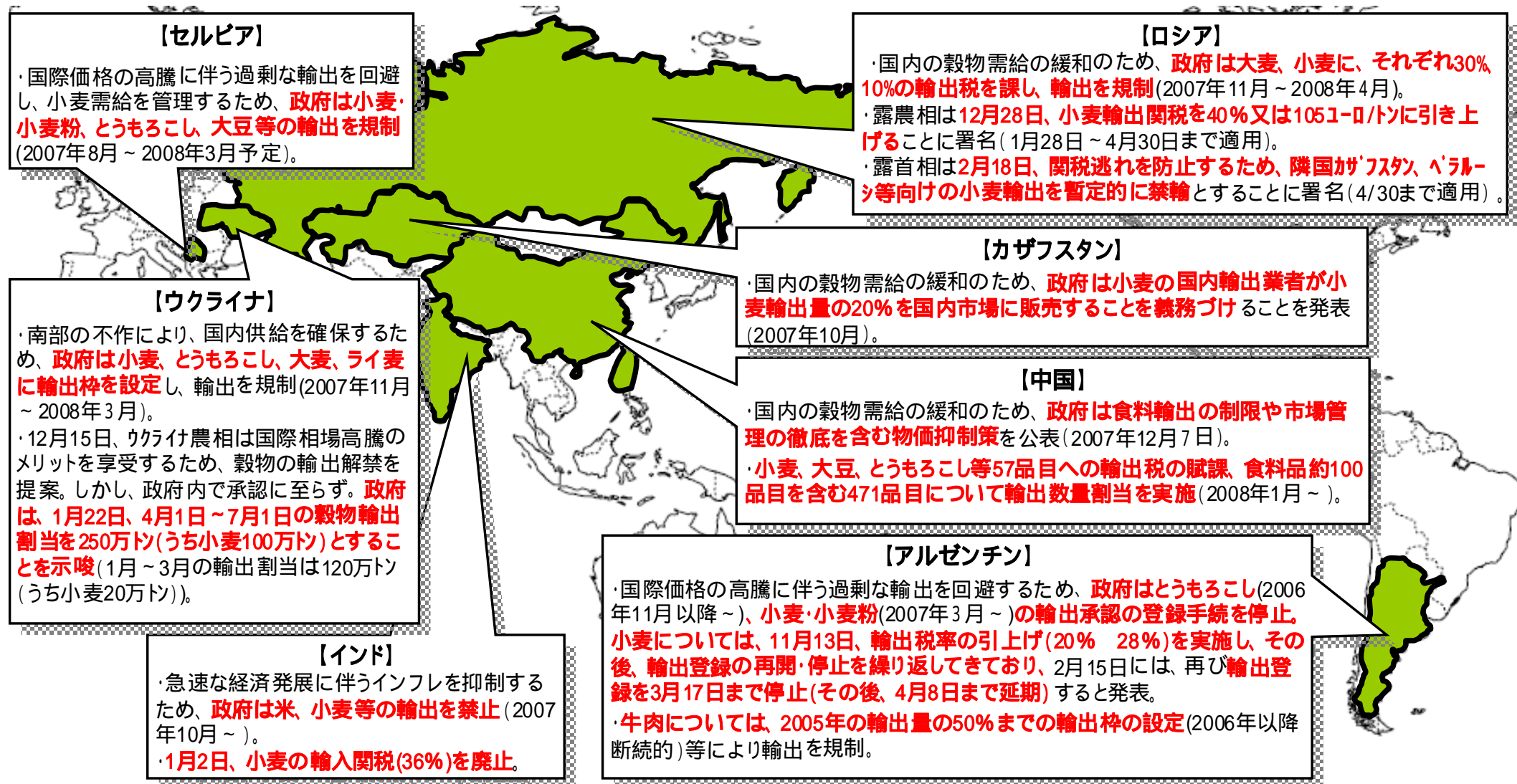
注:価格は、各月最終週末の期近価格(08年3月は、3月20日の価格)

(3) 輸出規制の状況

世界的に穀物需給がタイトになり、価格が上昇する中で、輸出国では、自国内の供給の確保と価格の安定を優先し、輸出制限等を行う動きもみられます。

このため、輸入国では、必要な輸入量を確保することが最重要課題となっており、世界は穀物の争奪戦のような状態となっています(図 - 4)。

図 - 4 農産物の輸出規制の現状



資料：国際穀物理事会(IGC)、国連食糧農業機関(FAO)、在外公館報告等から、農林水産省作成

3 外国産麦の輸入状況

外国産麦については、国内産麦で不足するもの及び品質的に国内産麦で対応できないものについて、需要者の要望に応じて政府が一元的に輸入しています。現在の輸入先国は、需要者のニーズに合った良質な麦を供給できるアメリカ・カナダ・豪州の3か国となっています。

(1) 麦の安定供給のための対策

現在のタイトな需給状況においても、輸出国との信頼関係等から、安定的な輸入が行われていますが、引き続き、必要量を確保するため、政府は、輸出国と年間取引数量についての協議等を行っています(図 - 5)。

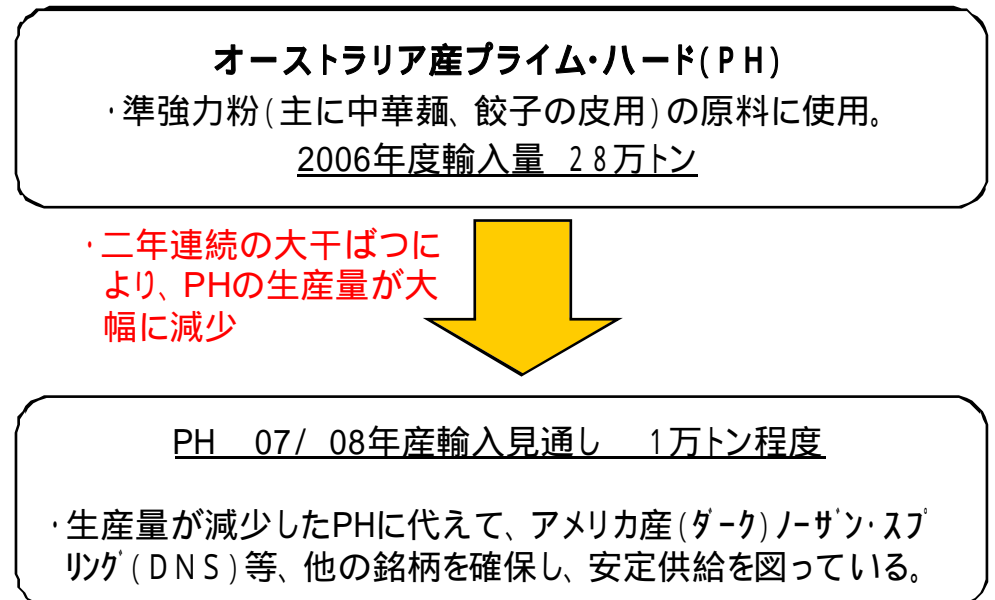
また、主に中華麺用等(準強力粉)に使われているオーストラリア産の強力小麦(プライム・ハード(PH))については、2年連続の大干ばつにより従来の輸入量を確保できない状況となっていますが、代わりに、アメリカ産の強力小麦(ダーク)ノーザン・スプリング(DNS)等を確認し、安定供給を図っています(図 - 6)。

今後、さらに需給がひっ迫する場合も想定し、輸入銘柄・輸入先の多角化なども検討課題となっています。

図 - 5 政府による輸入麦の必要量確保のための対策

1. 我が国の小麦輸入は、国家貿易により政府が一元的に輸入を行っており、
 - ・ 支払いについての信用不安がゼロ
 - ・ 契約キャンセルを行わない
 - ・ 年間を通じ平均的に買付けを行う等から、輸出国・輸出業者から大きな信頼を得ており、また、
 - ・ オーストラリア、カナダにおいては、一元的な国家貿易が行われており、国対国の関係でトータルの交渉が容易であることから、安定的な輸入が確保されている。
2. また、現在のタイトな需給状況においても、引き続き必要な輸入量が確保できるよう、輸出国の輸出機関・輸出業者に対し、今後の買付見込数量を提示・協議し、調達の目途をつけるよう努力しているところ。
特に需給がタイトな銘柄については、2008年産の新穀が出回るまでの必要量を早期に確保するように対応。

図 - 6 輸入麦の銘柄間の代替



(2) 小麦

近年の外国産小麦（食糧用）の輸入数量については、500万トン程度となっており、平成19年度は480万トンとなっています。

なお、19年度においては、豪州の2年連続の干ばつ、アメリカ産小麦に需要が集中する等の需給状況を踏まえ、特に需給がひっ迫している銘柄については、新穀が出回るまでの端境期における必要量を早期に確保するよう、前倒しでの買付等を行っています（表 - 4）。

表 - 4 外国産小麦の銘柄別輸入数量

(単位:千トン)

年度		平成14年	15	16	17	18	19
アメリカ	WW	611	571	646	425	426	727
	HRW(11.5)	712	921	885	704	823	849
	HRW(13.0)	167	200	161	144	62	-
	DNS	813	1,168	1,066	1,304	1,414	1,296
	計	2,303	2,860	2,758	2,577	2,726	2,872
カナダ	CW	1,029	798	896	919	860	900
	DRM	192	205	196	223	226	217
	計	1,221	1,004	1,092	1,142	1,086	1,117
豪州	ASW	741	971	881	815	872	716
	PH	134	226	249	253	275	87
	計	876	1,198	1,129	1,068	1,148	803
合 計		4,400	5,061	4,979	4,787	4,960	(10) 4,802

- 注：1) 数量は決算ベース(19年度は見込値)。
 2) ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。
 3) 合計欄の()内は、コンテナによるS B S輸入に係る数量であり内数である。

(3) 大麦

外国産大麦（食糧用）の輸入数量については、年度ごとの国内生産量に応じて変動があるものの、概ね25万トン～30万トンとなっています。

なお、18年度は、オーストラリアの干ばつにより同国産大麦の供給が減少すると見込まれたことから、19年度分も含めた必要量の早期確保を図ったため、輸入数量は375千トンと増加し、一方で、19年度は183千トンと減少しています（表 - 5）。

表 - 5 外国産大麦の銘柄別輸入数量

(単位:千トン)

年度		平成14年	15	16	17	18	19
アメリカ	二条大麦	7	4	3	-	2	-
カナダ	二条大麦	-	4	3	12	10	12
	六条大麦	27	16	17	30	39	26
	計	27	20	20	43	49	38
豪州	二条大麦	205	216	286	216	324	128
合 計		238	240	309	258	375	(17) 183

- 注：1) 数量は決算ベース(19年度は見込値)。
 2) ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。
 3) 合計欄の()内は、コンテナによるS B S輸入に係る数量であり内数である。

4 外国産麦の売渡価格

(1) 外国産麦の売渡制度

外国産麦の売渡制度については、平成18年の食糧法の改正により、19年4月から、標準売渡価格制度は廃止され、過去の一定期間における買入価格の平均値に年間固定のマークアップ（政府管理経費及び経営所得安定対策の経費に充当）を上乗せした価格で売り渡す「相場連動制」に移行しました。これによって、国際穀物相場や為替の動向に連動して売渡価格が変動することとなっています（表 - 6、図 - 7）。

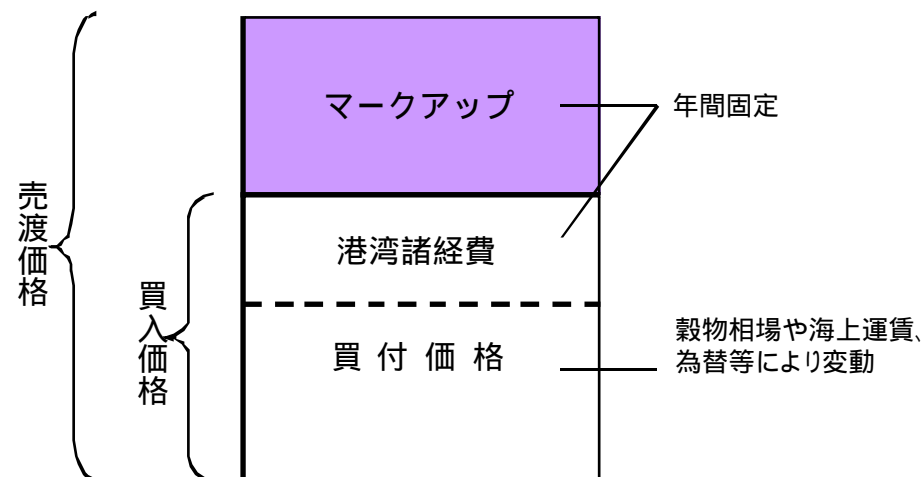
また、大麦と小麦の一部の銘柄を対象として売買同時契約方式（SBS方式）による売渡しが行われています。

表 - 6 相場連動制における価格改定ルール

項目	基本的なルール
年間価格改定回数	当面、年2回(4月、10月) (原則は年3回(4月、8月、12月))
買付価格算定期間	価格改定月の3ヶ月前から遡って 8か月

注：この方式により、価格変動を緩やかなものとしている。

図 - 7 相場連動制の価格構成



(2) 19年4月以降の外国産小麦の売渡価格

外国産小麦の売渡価格は、国際相場の高騰を反映して、19年4月期は前年度比平均1.3%の引上げ、10月期は前期比10%の引上げとなりました。

19年10月期の価格改定後も、国際需給のひっ迫から自国への供給を優先し輸出規制を実施する国が出始めたこと等により国際相場の高騰が続き、政府買付価格は大幅に上昇し、内外麦収支も悪化しています。

このような中で、20年4月期の政府売渡価格は、価格改定ルールに基づき、直近8か月(19年6月～20年1月)の平均買付価格をもとに売渡価格を試算すると、主要5銘柄平均で38%の上昇となること(なお、直近月(20年1月)の買付価格のみをもとに試算すると6割程度の上昇となる)を踏まえ、前期価格比30%の引上げとしたところです(表 - 7、表 - 8)。

表 - 7 外国産小麦の売渡価格

(単位:円/トン(税込み))

銘柄	19年4～9月の売渡価格	19年10月～20年3月の売渡価格	20年4月期の売渡価格
D N S	49,270	54,190	70,450
C W	51,140	56,250	73,130
H R W	47,440	52,170	67,830
A S W	48,660	53,530	69,590
W W	42,730	46,990	61,090
5銘柄加重平均価格 (平均改定率、%)	48,430 (+1.3%)	53,270 (+10%)	69,120 (+30%)

表 - 8 国内産小麦の振興費と外国産小麦の売買差額の推移

(単位:千トン、億円)

年度	内麦生産量	内麦振興費	外麦輸入量	売買差額	内外麦収支
12	903	911	4,938	778	133
13	906	921	5,075	629	292
14	1,047	1,067	4,638	524	543
15	1,054	1,060	5,301	755	305
16	1,059	1,055	5,288	753	302
17	1,058	1,043	5,045	787	256
18	1,012	998	5,335	642	356

5 外国産麦の販売状況

(1) 小麦

外国産小麦の販売数量は、近年、パン・めん等の主要小麦粉製品の生産が横ばいまたは微減傾向で推移していることに伴い、全体的に横ばいまたは微減傾向となっています。

なお、平成18年度の販売数量は、オーストラリアの干ばつによる生産の減少等から、需要者が原料を確保するためオーストラリア産小麦を中心に購入数量を増やしたため、5,136千トンと増加し、一方で、19年度は4,849千トンと減少しています(表 - 9)。

(2) 大麦

外国産大麦の販売数量は、焼酎ブームにより16年度は増加しましたが、その後、ブームが一段落したことに伴い、17年度は減少しました。

また、小麦同様、オーストラリアでの生産の減少等から、需要者が年度末に購入数量を増やしたため、18年度の販売数量が431千トンと増加し、一方で、19年度は145千トンと減少しています(表 - 10)。

表 - 9 外国産小麦の銘柄別販売数量

(単位:千トン)

年度		平成14年	15	16	17	18	19
ソフト系	WW	673	586	610	481	437	732
	ASW	811	897	868	832	971	658
	計	1,484	1,483	1,478	1,313	1,409	1,390
ハード	HRW(11.5)	781	894	863	730	872	822
ハード系	CW	964	905	889	925	890	926
	DNS	1,020	1,103	1,104	1,278	1,368	1,332
	PH	152	235	244	244	266	152
	DRM	199	196	203	234	226	217
	HRW(13.0)	219	193	177	151	104	-
	計	2,554	2,632	2,617	2,832	2,854	2,627
合計		4,819	5,010	4,958	4,875	5,136	(10) 4,849

資料：農林水産省「麦類販売実績」(19年度は見込値。)

注：1) ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

2) 合計欄の()内は、コンテナによるSBS輸入に係る数量であり内数である。

表 - 10 外国産大麦の銘柄別販売数量

(単位:千トン)

年度		平成14年	15	16	17	18	19
精麦用	カナダ産二条大麦	-	-	-	5	10	5
	カナダ産六条大麦	0	-	0	4	15	1
	豪州産二条大麦	188	209	250	205	347	74
	計	188	209	250	214	372	80
麦茶用	カナダ産六条大麦	26	18	20	20	35	27
	豪州産二条大麦	7	5	5	4	5	1
	計	33	23	25	24	40	28
ビール用	カナダ産二条大麦	-	-	7	7	-	7
	豪州産二条大麦	24	8	22	9	16	13
	アメリカ産二条大麦	3	7	3	-	2	-
	計	27	15	32	16	18	20
合計		248	247	307	254	431	(17) 145

資料：農林水産省「麦類販売実績」(19年度は見込値。)

注：1) ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

2) 合計欄の()内は、コンテナによるSBS輸入に係る数量であり内数である。

6 国内産麦の流通動向

(1) 取引の概要

国内産麦は、加工原料としての商品特性から、需要に応じて計画的に生産できるよう、は種前契約に基づく取引が行われています。

平成12年産より、取引の指標となる透明性のある適正な価格を形成するため、は種前に販売予定数量の約3割について、入札が行われています。残りの7割については相対取引が行われており、その価格については、入札で形成された指標価格を基本として、取引当事者間で決められています(図 - 8)。

また、取引を円滑に進めるため、生産者、需要者、行政等で構成される民間流通連絡協議会において、取引に必要な情報交換、取引に係る基本事項の見直し等が行われてきています(表 - 11)。

今後とも、国内産麦については、円滑な流通が確保されるよう、は種前契約を基本としつつ、国内産麦をめぐる状況に対応して取引ルールの適時適切な見直しを検討する必要があります。

図 - 8 国内産麦の基本的な流通フロー

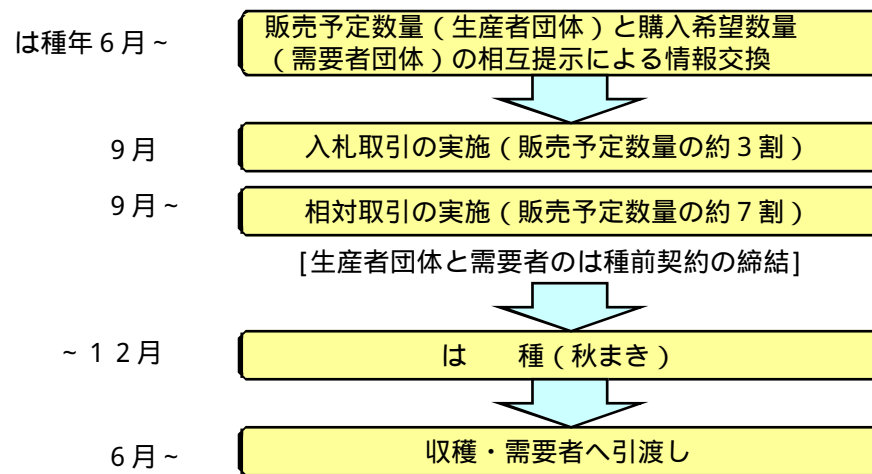


表 - 11 国内産麦の入札の仕組み

項目	概要	見直しの変遷
実施主体	(社)全国米麦改良協会	
実施時期	は種前(9月頃)	
入札回数	2回	13年産から1回 2回へ見直し
上場数量	産地銘柄別に販売予定数量が小麦3千トン以上、大・はだか麦1千トン以上の銘柄について、その30%を上場(ほかに希望上場あり)	
値幅制限	基準価格の±7%	小麦は17年産から、大・はだか麦は19年産から±5% ±7%へ見直し
申込限度数量	買い手別に 上場数量×買受実績シェア×1.45	小麦は17年産から、大・はだか麦は19年産から1.35 1.45へ見直し
相対取引	生産者団体と需要者の相対で行われる取引	19年産から過去の実績シェアに基づく取引ルールを廃止

(2) 流通の動向

平成19年産麦の流通数量は、小麦については豊作の影響により前年産を8万トン上回る871千トンとなっています。

また、大・はだか麦については、前年産と同水準の109千トンとなっています(表 - 12)。

なお、20年産麦については、19年8月に生産者側から販売予定数量が、需要者側から購入希望数量が提示され、販売予定数量は、小麦で887千トン、大・はだか麦で121千トンとなっています。(表 - 13)。

表 - 12 国内産麦の流通数量

(単位：千トン)

	12年産	13	14	15	16	17	18	19 (見込)
小麦	612	638	778	799	807	832	794	871
大・はだか麦	86	101	109	104	110	96	103	109

注：12～18年産は麦作経営安定資金交付対象数量、19年産は流通見込量である。

表 - 13 国内産麦の販売予定数量及び購入希望数量の推移

(単位：千トン、%)

		12年産	13	14	15	16	17	18	19	20
小麦	販売予定数量	646	709	725	738	762	786	805	861	887
	購入希望数量	601	689	648	665	733	782	789	802	833
	-	45	20	77	72	30	4	16	59	54
	(-) / (%)	7.0	2.9	10.6	9.8	3.9	0.5	2.0	6.9	6.1
大・はだか麦	販売予定数量	92	107	127	131	122	116	107	113	121
	購入希望数量	112	111	112	107	118	131	166	174	199
	-	20	4	15	24	4	15	59	61	78
	(-) / (%)	21.4	3.7	11.9	18.1	3.2	13.2	55.4	53.8	64.0

資料：民間流通連絡協議会調べ

注：ラウンドの関係で差し引きが一致しないことがある。

(3) 国内産麦を利用した製品の動向

最近の消費者の安全・安心志向の高まりや生産者と需要者が一体となった地産地消の推進、地域農業の振興を図る取組等から、国内産麦を使った麦製品（パン・めん等）が増えてきています（表 - 14、図 - 9）。

表 - 14 国内産小麦を原料とした加工食品の状況
（内麦使用の表示の有無、事例数）

品目	パン		めん		菓子	
	表示あり	表示なし	表示あり	表示なし	表示あり	表示なし
16年度	311	51	247	45	62	20
18年度	557	59	400	82	121	20

（資料）農林水産省「国内産小麦を原料とした加工食品の事例」

図 - 9 国内産麦を100%使用した製品の事例

食パン（宮城県）

- ・原料小麦品種：春よ恋
- ・消費者の健康志向、安全・安心のニーズの高まりから開発。

ベーグル（北海道）

- ・原料小麦品種：ニシノカオリ、春よ恋
- ・「安心・安全・美味しい」をテーマに北海道産の素材にこだわった各種ベーグルを開発。

乾麺（うどん）（群馬県）

- ・原料小麦品種：農林61号、きぬの波
- ・製粉企業と生産者団体が協同して、地粉うどんシリーズとして各種乾麺を開発。

生ラーメン（三重県）

- ・原料小麦品種：タマイズミ
- ・自県産麦の使用を前提に、消費者に親しみやすい昔ながらの中華そばをイメージしたラーメンを開発。

ドーナツ、かりんとう（東京都）

- ・原料小麦品種：農林61号等
- ・国産小麦使用による味の向上、安全・安心ニーズへの対応、他社製品との差別化を図るため開発。

7 国内産麦の価格の動向

(1) 20年産の入札価格の概要

20年産麦の入札は、第1回が19年9月11日、第2回が9月21日に実施されました(表 - 15)。

小麦では、上場243,510トンのうち234,930トンが落札され、申込倍率1.4倍、落札率96.5%となっており、上場33産地別銘柄のうち31銘柄の価格が上昇し、8銘柄が値幅上限の7%の上昇となりました。

大・はだか麦では、上場25,170トンのうち23,840トンが落札され、申込倍率1.4倍、落札率94.7%となっており、上場25産地別銘柄のうちほとんどの銘柄が値幅上限の7%まで価格が上昇しました。

このような結果は、外国産麦の価格上昇、品質向上への取組等により国内産麦の評価が高まっていることが反映されているものと考えられます。

表 - 15 国内産麦の入札指標価格(落札加重平均価格)の推移

(単位：円/トン)

	12年産	13	14	15	16	17	18	19	20
小麦	41,860	41,020	39,725	38,832	38,274	38,341	39,054	40,629	43,229
	99.5%	98.0%	96.8%	97.8%	98.6%	100.2%	101.9%	104.0%	106.4%
小粒大麦	38,031	38,829	38,619	38,052	37,866	37,662	39,454	41,961	45,479
	102.7%	102.1%	99.5%	98.5%	99.5%	99.5%	104.8%	106.4%	108.4%
大粒大麦	31,647	31,185	30,786	30,135	30,228	30,834	32,486	34,502	36,532
	99.1%	98.5%	98.7%	97.9%	100.3%	102.0%	105.4%	106.2%	105.9%
はだか麦	40,530	39,550	38,045	36,470	35,452	35,763	37,230	39,705	42,222
	100.7%	97.6%	96.2%	95.9%	97.2%	100.9%	104.1%	106.6%	106.3%

注：1) 上段は産地銘柄別の入札指標価格を加重平均した価格、下段は対前年産比である。

2) 入札指標価格は、税込み価格である。

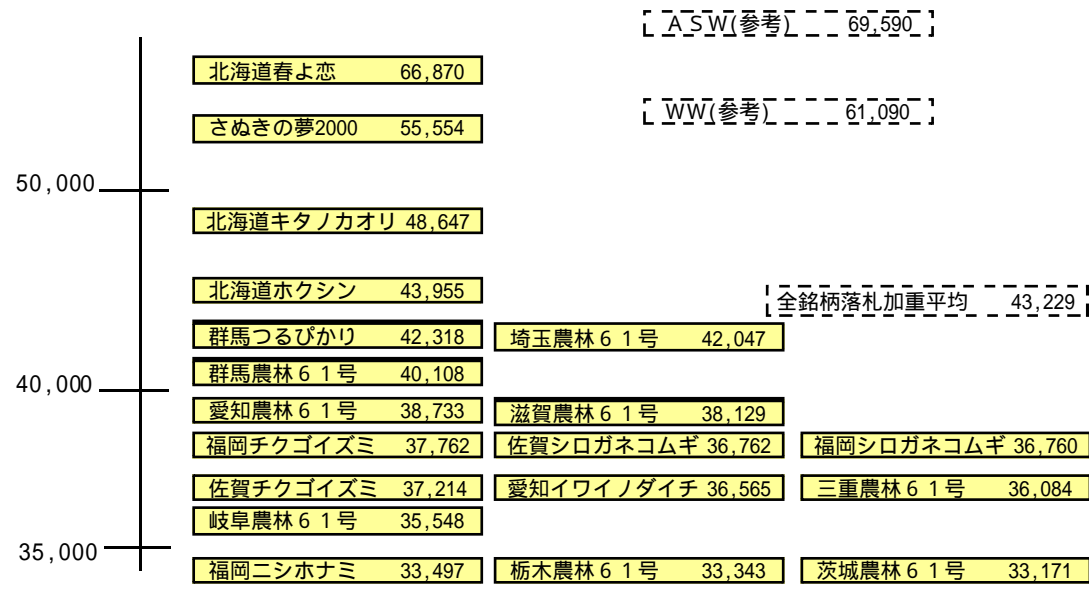
(2) 20年産小麦の産地別銘柄別入札価格の動向

小麦の入札結果を産地別銘柄別にみると、品質評価や各産地の需給状況等を反映して価格水準等にバラツキが見られますが、20年産麦の入札では、ほぼ全ての銘柄の価格が前年に比べ上昇しました。

代表的な銘柄である「北海道産ホクシン」は、43,955円/トンとなり、前年産の価格を2,874円/トン(7.0%)上回りました。

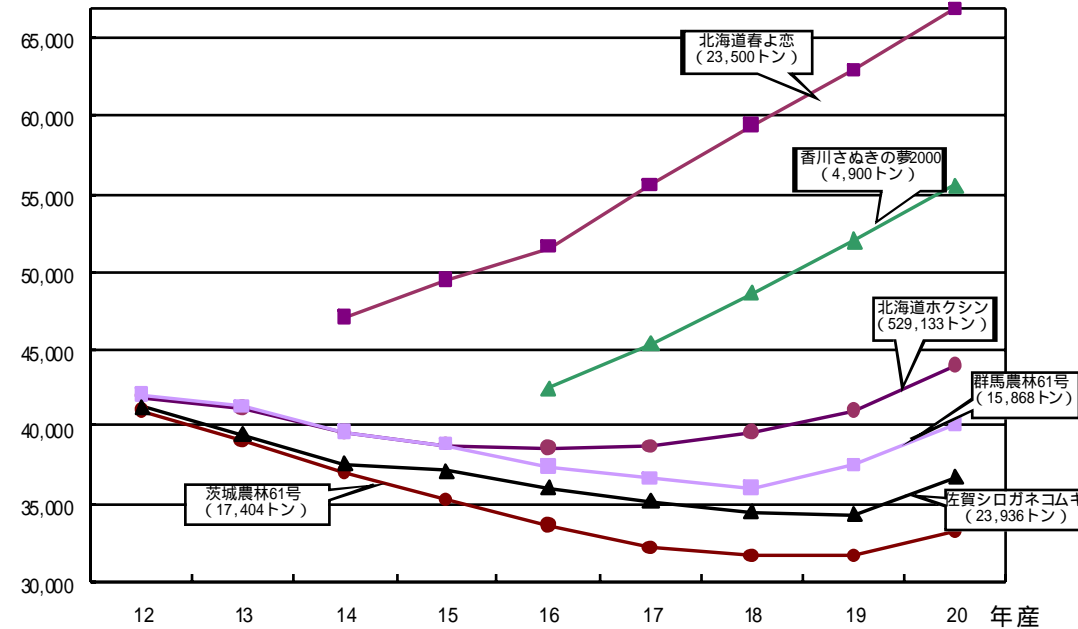
また、主にパン用として引合いの強い「北海道産春よ恋」は、66,870円/トンで前年産の価格を3,955円/トン(6.3%)上回り、うどん用として人気のある「香川県産さぬきの夢2000」は、55,554円/トンで前年産の価格を3,580円/トン(6.9%)上回っており、他の銘柄と比べ高い価格となっています(図 - 10、図 - 11)。

図 - 10 平成20年産小麦の産地別銘柄別入札価格 (単位:円/トン)



注: 1) 価格は、消費税込みの価格である。
2) 外国産麦の価格は20年4月からの政府売渡価格(参考価格)である。

図 - 11 産地別銘柄別の入札価格の推移 (単位:円/トン)



注: () 内は20年産販売予定数量である。

20年度の麦の需給見通し

1 需給見通し策定の考え方

麦については、国内産麦では量的又は質的に満たせない需要分について、外国産麦を国家貿易により計画的に輸入することとしています。各諸元の見通しの考え方は、以下のとおりです。

総需要量

20年度の総需要量は、最近のオーストラリアの不作等による需要への影響を除いた近年の平均的な需要量に、従来民間により枠外税率で輸入されていたもののうちSBS方式で輸入されると見込まれる量を加え、613万トンと見込みます。

国内産麦の流通量

20年度の国内産麦の流通量については、20年産麦の作付見込及び過去の流通実績から見込まれる年度内流通量に、前年産麦の在庫数量を加え、小麦83万トン、大・はだか麦12万トンと見込みます。

政府の期末在庫量

20年度の期末在庫量は、不測の事態に備え国全体で保有しておく必要がある外国産麦の数量に政府が国家貿易を運営するに当たって必要な在庫数量と民間で保有している在庫量を勘案し、78万トン（期首在庫＋7万トン）と見込みます。

外国産麦の輸入量

20年度の外国産麦の輸入量は、総需要量から国内産麦の流通量を差し引き、政府在庫からの供給量を差し引いた526万トンとなります。

なお、飼料用麦の輸入については、別途農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき行うこととします（買入・売渡数量 小麦20万トン、大麦141万トン）。

表 - 1 総需要量の推移

（単位：万トン）

年度	総需要量		小麦		大・はだか麦	
	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比	
平成14	100%	598	99%	563	(6)35	106%
15	102%	612	102%	576	(6)36	103%
16	101%	617	100%	575	(5)42	116%
17	98%	604	99%	568	(6)36	87%
18	108%	650	105%	597	(4)53	147%

注：（ ）書きは、生産者団体とビール会社との契約栽培により供給された国内産ビール大麦であり、外数である。

表 - 2 国内産麦の契約数量及び流通量の推移

（単位：万トン）

年産	小麦			大・はだか麦		
	契約数量	流通量	年度内流通比率	契約数量	流通量	年度内流通比率
平成14	72	78	52.4%	13	11	39.1%
15	74	80	47.7%	13	10	42.3%
16	76	81	46.0%	12	11	46.4%
17	79	83	44.8%	12	10	51.0%
18	81	79	48.0%	11	10	46.6%

2 20年度需給見通し

以上の総需要量、国内産麦流通量、政府在庫量、外国産麦輸入量の各諸元を取りまとめた需給見通しは、右表のとおりです。

表 - 3 麦の20年度需給見通し

(単位：万トン)

		20年度見通し (小麦) <大・はだか麦>
総需要量	A	613 (574) < 39>
国内産麦の流通量	B=a+b	94 (83) < 12> (7)
前年産期首在庫量	a	50
20年産供給量		95
20年産年度内流通量	b	44
政府在庫量	期首 c	71
	期末 d	78
	増減 C=c-d	7
外国産麦の輸入量	D=A-B-C	526 (499) < 27>

注：1 ラウンドの関係で差し引きが一致しないことがある。

2 大・はだか麦の列の()書きは、生産者団体とビール会社との契約栽培により生産される国産ビール大麦であり、外数である。

(参考) 麦の19年度需給実績見込

(単位：万トン)

		19年度実績見込 (小麦) <大・はだか麦>
総需要量	A	594 (569) < 26>
国内産麦の流通量	B=a+b	95 (84) < 11> (5)
前年産期首在庫量	a	47
19年産供給量		98
19年産年度内流通量	b	48
政府在庫量	期首 c	72
	期末 d	71
	増減 C=c-d	1
外国産麦の輸入量	D=A-B-C	498 (480) < 18>

注：1 ラウンドの関係で差し引きが一致しないことがある。

2 大・はだか麦の列の()書きは、生産者団体とビール会社との契約栽培により生産される国産ビール大麦であり、外数である。

麦の需給に関する見通し(案)

参考付録

我が国における食料供給と 輸入麦の政府売渡価格について

平成20年3月
農林水産省

我が国における食料供給について

1	我が国の食料自給率は主要先進国の中で最低水準	1
2	世界の穀物需給・価格動向の変化とその構造的要因	2
3	食料の国際需給の動向と我が国の食品価格への影響	7
4	我が国と諸外国の物価動向の比較	8

輸入麦の政府売渡価格について

1	輸入麦の売渡制度	10
2	19年4月以降の政府売渡価格の動向	11
3	最近の輸入麦の買付コスト価格の動向	12
4	20年4月期の政府売渡価格	13

我が国における食料供給について

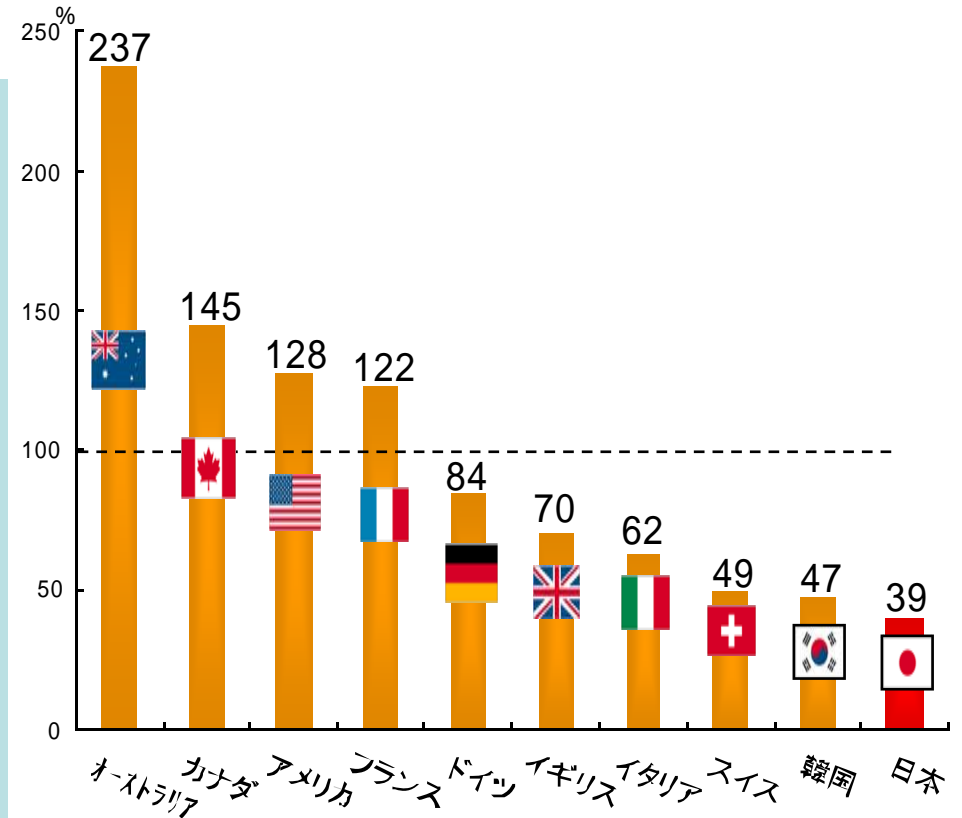
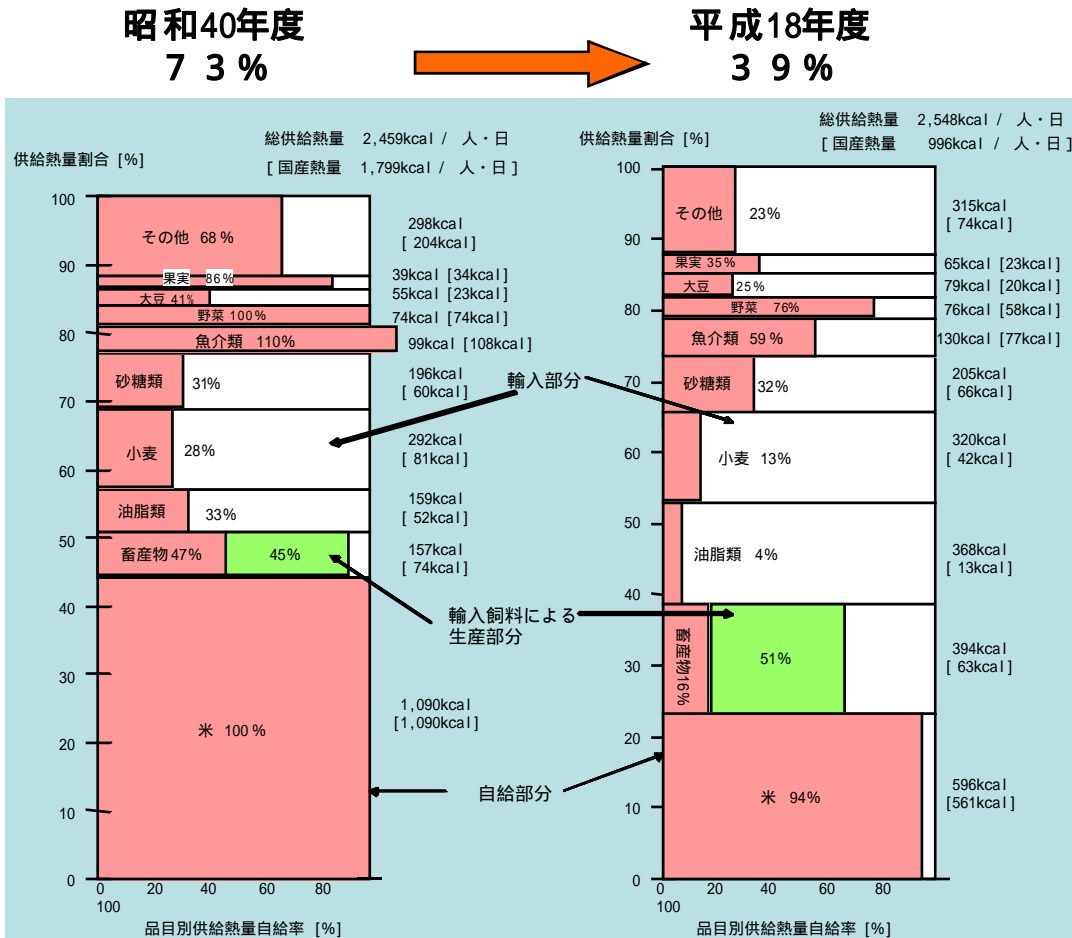
1 我が国の食料自給率は主要先進国の中で最低水準

我が国の自給率は、食生活の変化により、戦後大きく低下し、現在は39% (カロリーベース) と、主要先進国の中で最低水準となっている。

食料供給の相当割合を輸入に依存する以上、国際的な穀物需給、価格動向に関心を持つ必要がある。

食料自給率 (品目別・カロリーベース) と供給熱量構成の変化

主要先進国の食料自給率



注：日本以外のその他の国についてはFAO "Food Balance Sheets" 等をもとに農林水産省で試算。ただし、韓国については韓国農村経済研究院 "Korean Food Balance Sheet" による。
数値は2003年(日本は2006年度、韓国は2002年)のもの。

資料：農林水産省「食料需給表」

の箇所が国内自給分

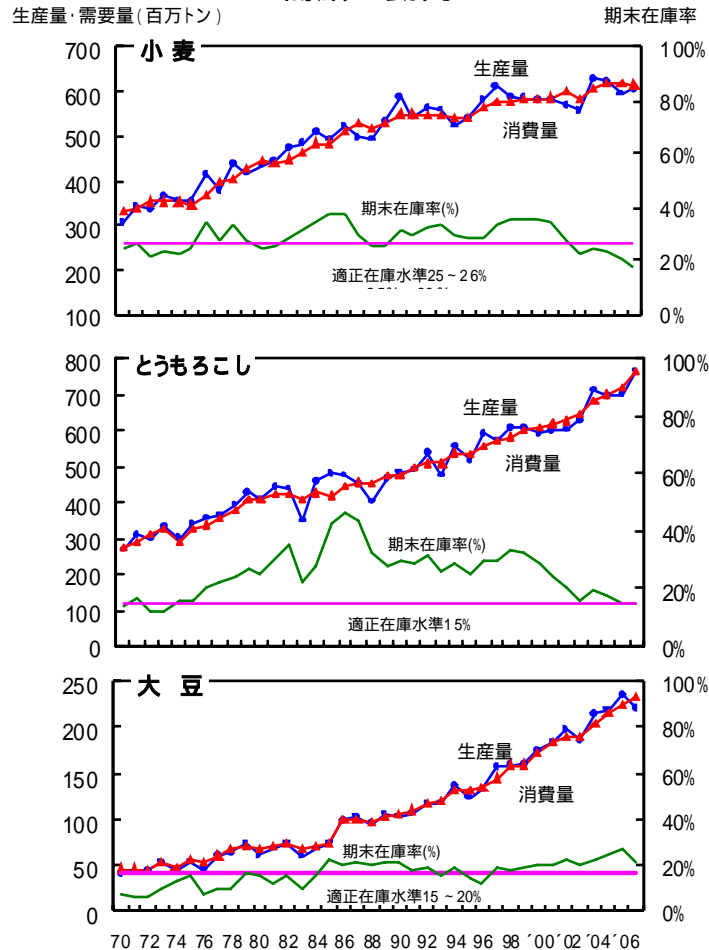
2 世界の穀物需給・価格動向の変化とその構造的要因

小麦、とうもろこし、大豆の国際価格は、在庫率の低下や穀物全体の需要増等の影響により、2006年秋頃から上昇基調で推移している。現在も高水準にあり、当面、この水準が続くものと見込まれている。

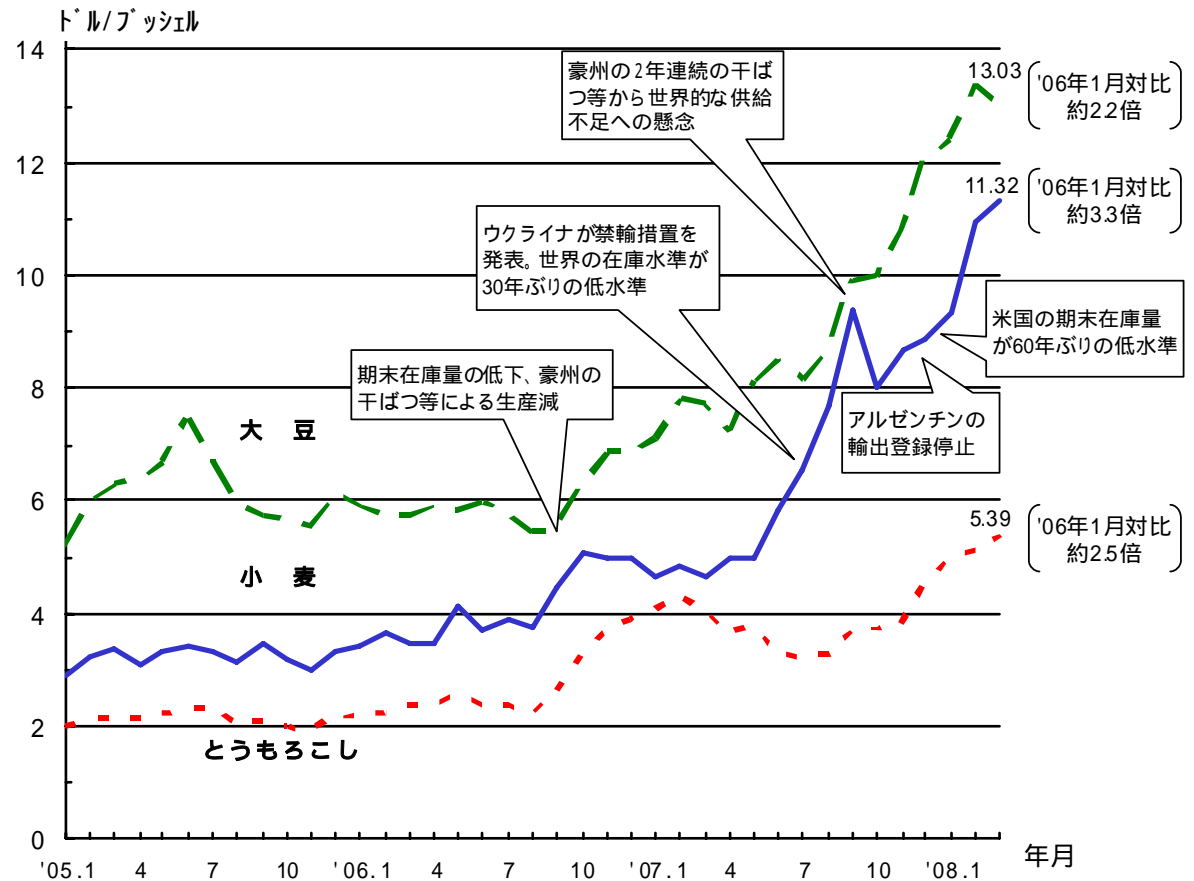
その背景には、中国やインド等の人口超大国の経済発展による食料需要の増大、世界的なバイオ燃料の原料としての穀物等の需要増大、地球規模の気候変動の影響 といった中長期的に継続する構造的な要因があるものと考えられる。このため、世界は穀物の争奪戦のような状態となっている。

また、穀物市場への投機資金の流入が、最近の価格急騰の一因になっているとの見方もある。

需給の動向



シカゴ相場の推移



資料：シカゴ商品取引所

注：価格は、各月最終週末の期近価格（08年3月は、3月17日の価格）

資料：米国農務省調べ

適正在庫水準はFAOによる。（大豆の数値は日本の貿易関係者の目安。）

輸出国においても自国内の供給を優先

世界的に穀物需給がタイトになり、価格が上昇する中で、輸出国では、自国内の供給の確保と価格の安定を優先し、輸出制限等の動きもみられる。

このため、輸入国では、必要な輸入量を確保することが最重要課題となっている。

農産物の輸出規制の現状

【セルビア】

・国際価格の高騰に伴う過剰な輸出を回避し、小麦需給を管理するため、**政府は小麦・小麦粉、とうもろこし、大豆等の輸出を規制**(2007年8月～2008年3月予定)。

【ウクライナ】

・南部の不作により、国内供給を確保するため、**政府は小麦、とうもろこし、大麦、ライ麦に輸出枠を設定**し、輸出を規制(2007年11月～2008年3月)。
・12月15日、ウクライナ農相は国際相場高騰のメリットを享受するため、穀物の輸出解禁を提案。しかし、政府内で承認に至らず。**政府は、1月22日、4月1日～7月1日の穀物輸出割当を250万トン(うち小麦100万トン)とすることを示唆**(1月～3月の輸出割当は120万トン(うち小麦20万トン))。

【インド】

・急速な経済発展に伴うインフレを抑制するため、**政府は米、小麦等の輸出を禁止**(2007年10月～)。
・**1月2日、小麦の輸入関税(36%)を廃止**。

【ロシア】

・国内の穀物需給の緩和のため、**政府は大麦、小麦に、それぞれ30%、10%の輸出税を課し、輸出を規制**(2007年11月～2008年4月)。
・露農相は12月28日、**小麦輸出関税を40%又は105ユーロ/トンに引き上げる**ことに署名(1/28～4/30まで適用)。
・露首相は2月18日、**関税逃れを防止するため、隣国カザフスタン、ペラルーシ等向けの小麦輸出を暫定的に禁輸**とすることに署名(4/30まで適用)。

【カザフスタン】

・国内の穀物需給の緩和のため、**政府は小麦の国内輸出業者が小麦輸出量の20%を国内市場に販売することを義務づける**ことを発表(2007年10月)。

【中国】

・国内の穀物需給の緩和のため、**政府は食料輸出の制限や市場管理の徹底を含む物価抑制策**を公表(2007年12月7日)。
・**小麦、大豆、とうもろこし等57品目への輸出税の賦課、食料品約100品目を含む471品目について輸出数量割当を実施**(2008年1月～)。

【アルゼンチン】

・国際価格の高騰に伴う過剰な輸出を回避するため、**政府はとうもろこし(2006年11月以降～)、小麦・小麦粉(2007年3月～)の輸出承認の登録手続を停止**。小麦については、11月13日、**輸出税率の引上げ(20%→28%)を実施し、その後、輸出登録の再開・停止を繰り返してきており、2月15日には、再び輸出登録を3/17まで停止(その後、4/8まで延期)**すると発表。
・**牛肉については、2005年の輸出量の50%までの輸出枠の設定(2006年以降断続的)**等により輸出を規制。

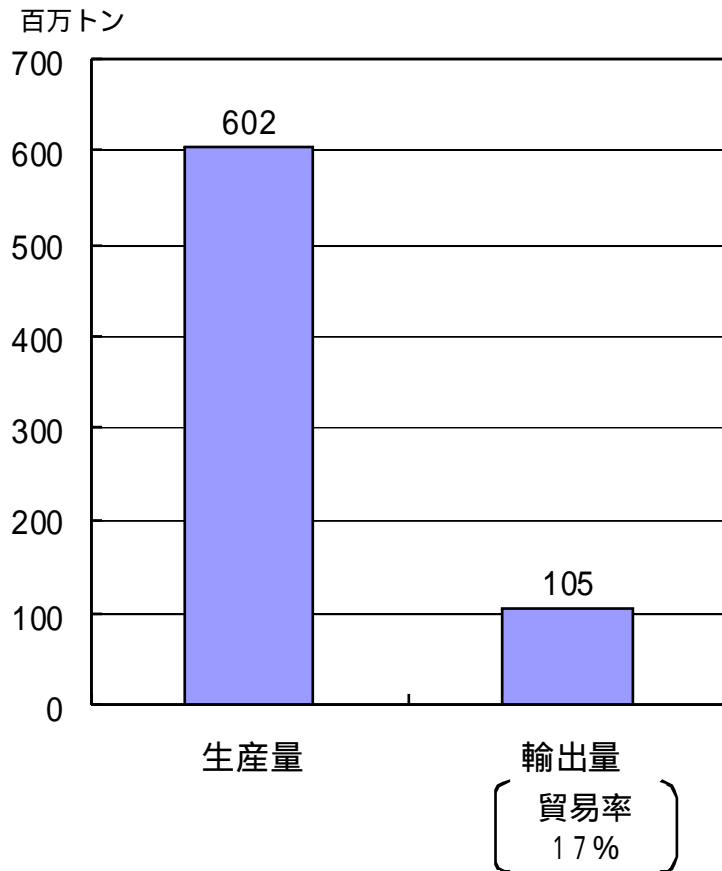
資料：国際穀物理事会（IGC）、国連食糧農業機関（FAO）、在外公館報告等から、農林水産省作成

世界の小麦貿易の状況

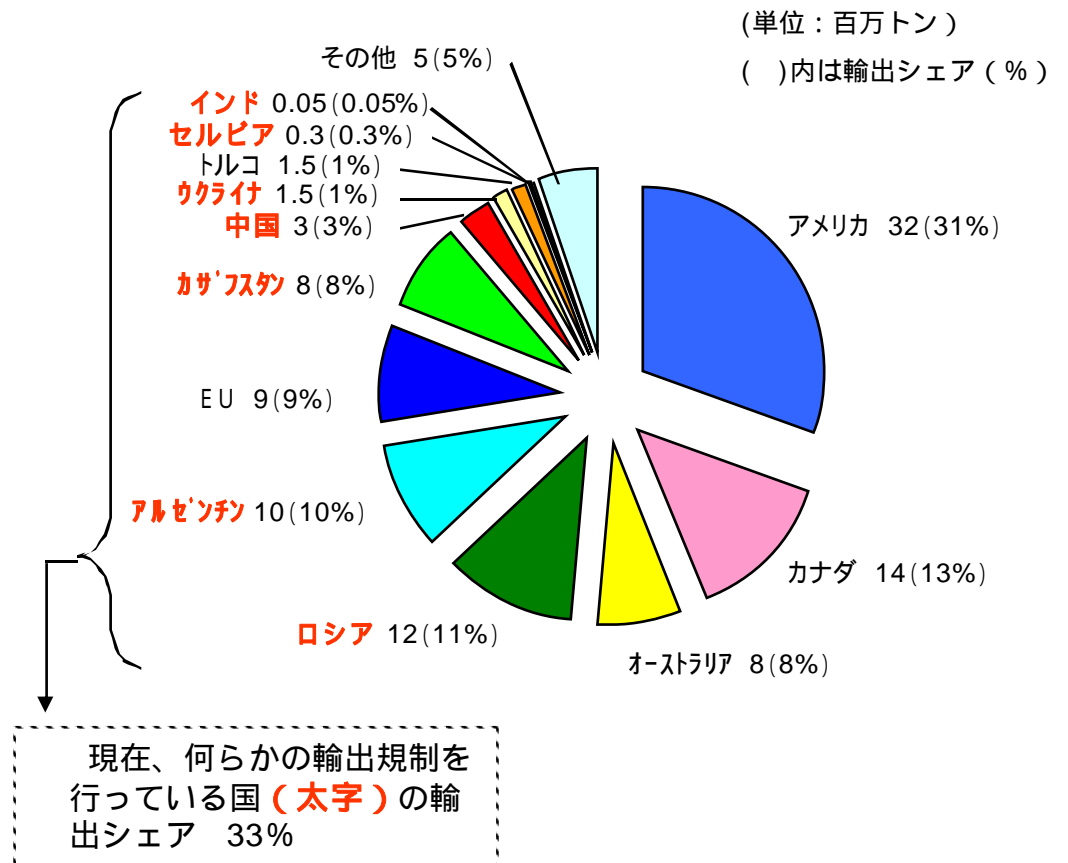
小麦の貿易量(輸出量)は、世界の生産量全体の2割以下となっている。

輸出量については、上位10カ国が、全体の9割以上のシェアを占めている。また、現在、なんらかの輸出規制を行っている輸出国のシェアは合計すると3割以上になっている。

世界の小麦の生産量と輸出量
(2007/2008年見込)



小麦の国別輸出量
(2007/2008年見込)



(参考)

主要輸入国の輸入先国

輸入国	5年間の平均輸入量 (単位:百万トン)	主要輸入先国				
E U	11.4	カナダ (25%)	米国 (13%)	ロシア (8%)	ウクライナ	カザフスタン
エジプト	10.9	米国 (34%)	ロシア (35%)	ウクライナ (7%)	カナダ	EU
アルジェリア	6.7	EU (85%)	カナダ (12%)	米国 (2%)	ロシア	その他
インドネシア	5.8	豪州 (65%)	カナダ (23%)	米国 (5%)	ロシア	中国
インド	1.8	ロシア (52%)	豪州 (22%)	カナダ (4%)	EU	カザフスタン

注:1. 国別シェアの出典は、Global Trade Atlas、一部の国は、民間推計を用いた。

2. 網掛けは、現在、輸出規制を実施している国。

麦の安定供給のための対策

麦については、政府が一元的に輸入を行っており、輸出国との信頼関係等から、現在のタイトな需給状況においても、安定的な輸入が行われているが、引き続き、必要量を確保するため、政府は、輸出国と年間取引数量についての協議等を行っているところである。

また、主に中華麺用等(準強力粉)に使われているオーストラリア産の強力小麦(プライム・ハード(PH))については、2年連続の大干ばつにより従来の輸入量を確保できない状況となっているが、代わりに、アメリカ産の強力小麦((ダーク)ノーザン・スプリング(DNS))等を確保し、安定供給を図っている。

政府による輸入麦の必要量確保のための対策

1. 我が国の小麦輸入は、国家貿易により政府が一元的に輸入を行っており、
 - ・支払いについての信用不安がゼロ
 - ・契約キャンセルを行わない
 - ・年間を通じ平均的に買付けを行う等から、輸出国・輸出業者から大きな信頼を得ており、また、
 - ・オーストラリア、カナダにおいては、一元的な国家貿易が行われており、国対国の関係でトータルの交渉が容易であることから、安定的な輸入が確保されている。
2. また、現在のタイトな需給状況においても、引き続き必要な輸入量が確保できるよう、輸出国の輸出機関・輸出業者に対し、今後の買付見込数量を提示・協議し、調達の目途をつけるよう努力しているところ。
特に需給がタイトな銘柄については、2008年産の新穀が出回るまでの必要量を早期に確保するように対応。

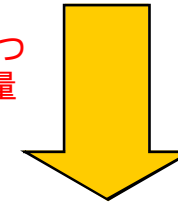
輸入麦の銘柄間の代替

オーストラリア産プライム・ハード(PH)

・準強力粉(主に中華麺、餃子の皮用)の原料に使用。

2006年度輸入量 28万トン

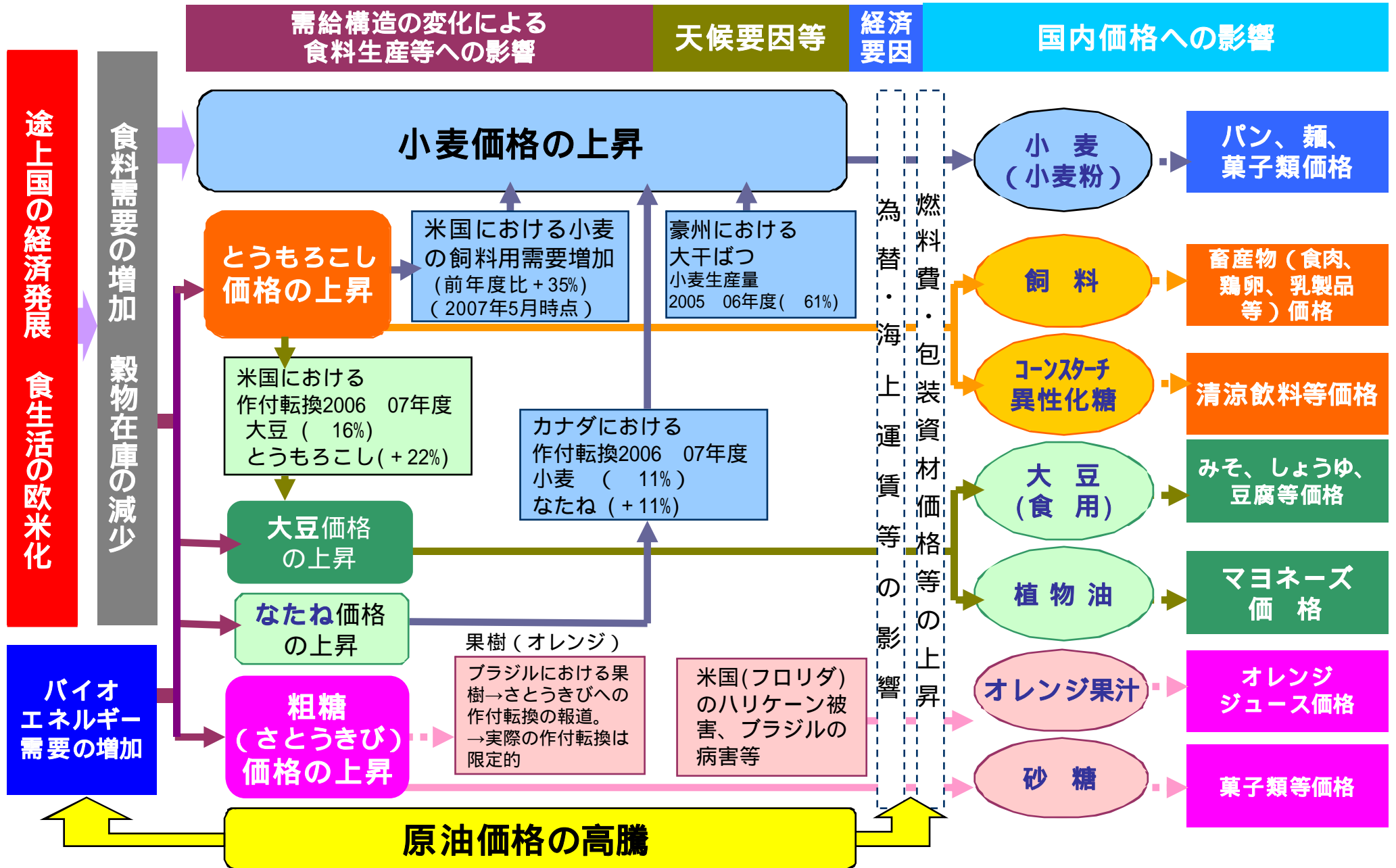
・二年連続の大干ばつにより、PHの生産量が大幅に減少



PH 07/08年産輸入見通し 1万トン程度

・生産量が減少したPHに代えて、アメリカ産(ダーク)ノーザン・スプリング(DNS)等、他の銘柄を確保し、安定供給を図っている。

3 食料の国際需給の動向と我が国の食品価格への影響

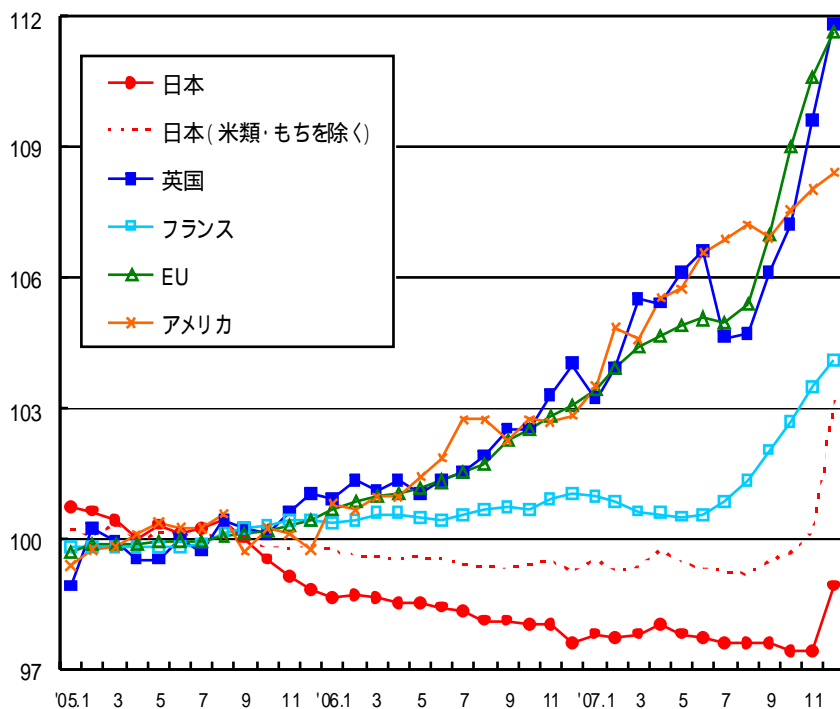


4 我が国と諸外国の物価動向の比較

穀物製品の消費者物価指数の動向をみると、諸外国では、近年、上昇を続けている。一方、我が国では横ばいないし低下で推移してきたが、昨年12月については上昇している。

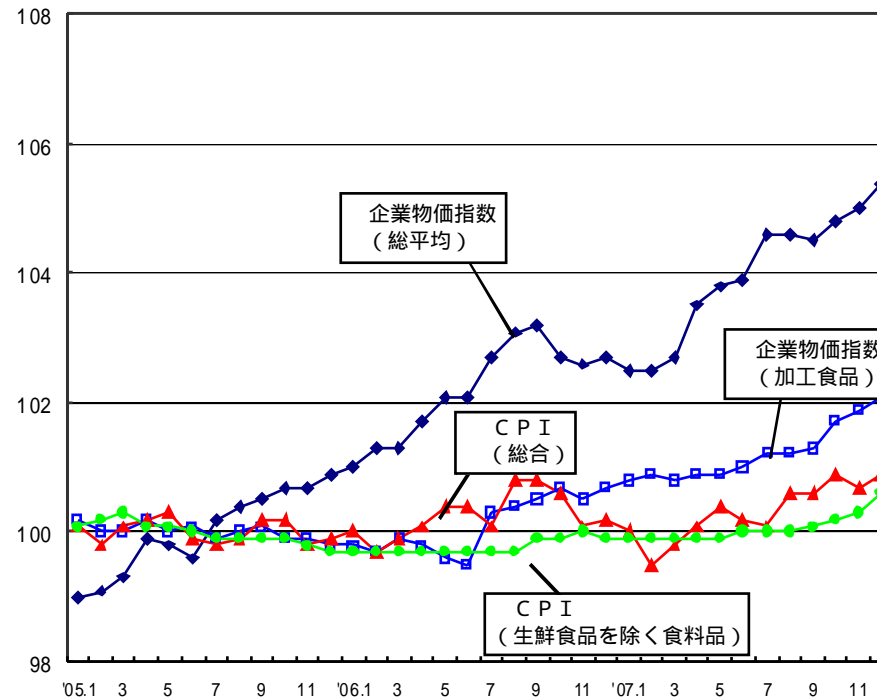
我が国においては、企業間での取引価格の動向を表す企業物価指数が上昇してきているのに対し、消費者物価指数は、これまで概ね横ばいで推移してきており、昨年秋頃から上昇がみられ始めたところである。

諸外国における穀物製品の消費者物価指数(CPI)の推移
(2005年=100)



資料:総務省、EU「EUROSTAT」、米国労働省「LABSTAT」

我が国における企業物価指数と消費者物価指数(CPI)の推移
(2005年=100)



資料:日本銀行調査統計局、総務省統計局

食料品の内外価格差をみると、我が国の価格を100とした場合に、以前は、諸外国の価格は70～90程度であったが、年々、その差は縮まり、ここ数年は100を上回り、我が国よりも価格水準が高くなっている状況もみられる。また、最近のハンバーガーの価格をみると、諸外国の価格の方が相当割高になっている。

食料品の内外価格差の推移

(東京 = 100)

	ニューヨーク	ロンドン	パリ	ジュネーブ	シンガポール	ソウル
1991	71	74	70	-	-	-
1992	72	69	75	-	-	-
1993	71	66	66	-	-	-
1994	70	65	78	-	-	-
1995	75	70	83	-	-	-
1996	80	79	86	102	-	-
1997	87	92	85	103	-	-
1998	73	78	77	95	-	-
1999	70	70	65	86	-	-
2000	78	66	59	84	-	-
2001	95	75	74	105	-	-
2002	89	77	79	108	66	-
2003	92	84	89	122	57	-
2004	87	78	93	129	58	-
2005	109	83	105	123	70	-
2006	120	98	117	128	89	114

資料：農林水産省調べ

注：1991年以降継続的に調査を行っているのは、ニューヨーク、ロンドン、パリの3都市のみである。

諸外国におけるハンバーガー価格の比較

(単位：US\$)

国名	価格
E U	4.17
英国	4.01
カナダ	3.68
米国	3.41
オーストラリア	2.95
日本	2.29 (280円)

資料：「economist」(米国)(2007年7月時点)

注：価格は、各国の現地価格(現地通貨)をUS\$換算したもの。EUについては、EU域内の平均価格。

輸入麦の売渡価格について

1 輸入麦の売渡制度

平成18年の食糧法の改正により、19年4月以降、標準売渡価格制度は廃止され、過去の一定期間における買入価格の平均値に年間固定のマークアップ(政府管理経費及び品目横断的経営安定対策の経費に充当)を上乗せした価格で売り渡す「相場連動制」に移行したところである。

これによって、国際穀物相場や為替の動向に連動して売渡価格が変動することとなった。

価格改定ルール

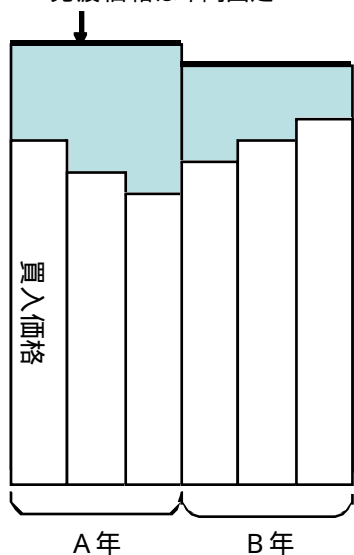
項目	内容
年間価格改定回数	当面、年2回(4月,10月) (原則は年3回(4月、8月、12月))
買付価格算定期間	価格改定月の3ヶ月前から遡って8ヶ月

注：この方式により、価格変動を緩やかなものになっている。

売渡制度変更のイメージ

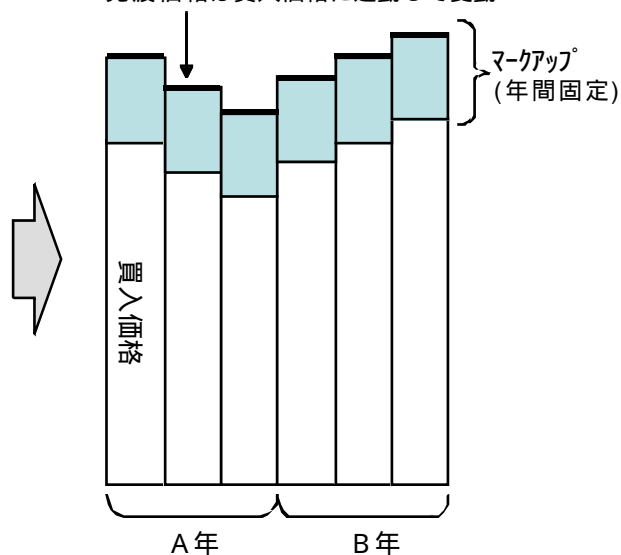
【標準売渡価格制度】

売渡価格は年間固定

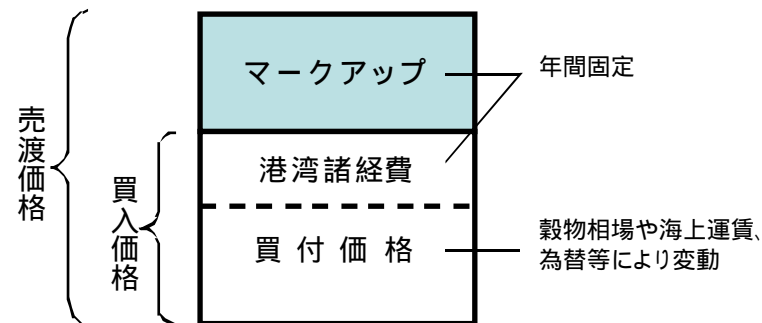


【相場連動制(19年4月以降)】

売渡価格は買入価格に連動して変動



相場連動制の価格構成



2 19年4月以降の政府売渡価格の動向

輸入小麦の政府売渡価格は、国際相場の高騰を反映して、19年4月期は前年度比平均1.3%の引上げ、10月期は前期比+10%の引上げとなった。

小麦の政府売渡価格

(単位:円/トン(税込み))

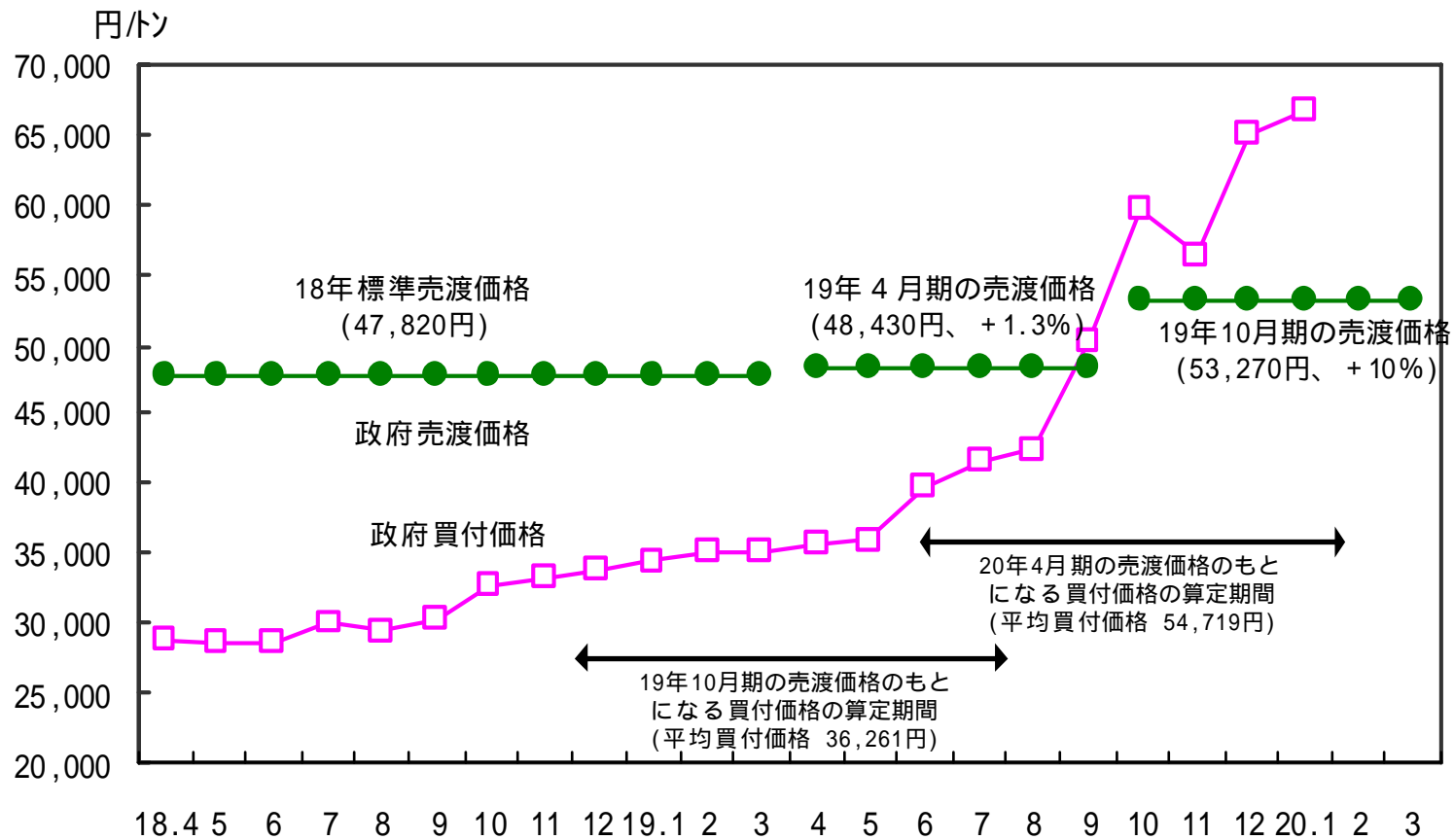
銘柄(主な用途)	19年3月までの 標準売渡価格	19年4~9月 の売渡価格	19年10月から の売渡価格
アメリカ産(ダーク)ノーサン・スプリング (主にパン・中華麺用)	49,270	49,270	54,190
カナダ産ウェスタン・レッド・スプリング (主にパン用)	51,140	51,140	56,250
アメリカ産ハード・レッド・ウインター (主にパン・中華麺用)	45,920	47,440	52,170
オーストラリア産スタガード・ホワイト (主に日本めん用)	46,350	48,660	53,530
アメリカ産ウェスタン・ホワイト (主に菓子用)	44,970	42,730	46,990
5銘柄加重平均価格 (平均改定率、%)	47,820	48,430 (+1.3%)	53,270 (+10.0%)

3 最近の輸入麦の政府買付価格の動向

19年10月期の価格改定後も、自国への供給を優先し輸出規制を実施する国が出始めたこと等により国際相場の高騰が続いており、政府買付価格は大幅に上昇している。

このため、現在の買付価格は、10月期の政府売渡価格をも大幅に上回っている。

輸入麦の政府買付価格と政府売渡価格の推移（主要5銘柄平均）



4 20年4月期の政府売渡価格

価格改定ルールを踏まえて、直近8ヶ月(19年6月～20年1月)の平均買付価格をもとに試算した上で、20年4月期の政府売渡価格は、現行価格比+30%としたところである。

20年4月期の政府売渡価格

(単位:円/トン(税込み))

銘柄(主な用途)	19年10月期の 売渡価格	20年4月期の 売渡価格	(参考) 直近8ヶ月(19年6月 ～20年1月)の買付 価格をもとに試算し た場合の改定率
アメリカ産(ダーク)ノーサン・スプリング (主にパン・中華麺用)	54,190	70,450 (+30%)	(+39%)
カナダ産ウエスタン・レッド・スプリング (主にパン用)	56,250	73,130 (+30%)	(+35%)
アメリカ産ハード・レッド・ウインター (主にパン・中華麺用)	52,170	67,830 (+30%)	(+34%)
オーストラリア産スタダート・ホワイト (主に日本めん用)	53,530	69,590 (+30%)	(+35%)
アメリカ産ウエスタン・ホワイト (主に菓子用)	46,990	61,090 (+30%)	(+60%)
5銘柄加重平均価格	53,270	69,120 (+30%)	(+38%)

なお、直近(20年1月)の買付価格をもとに試算した場合は、現行価格に比べ約6割の引上げとなる。

注:()内は19年10月期の売渡価格に対する比率である。

今後の麦政策のあり方

(食料・農業・農村政策審議会報告)

平成17年11月

第1 新たな麦政策の構築に当たっての基本的考え方

麦は、国民の主要食糧として、日常生活において、パン・めん・菓子・味噌・押麦など多様な用途で使用され、国民が摂取するカロリー全体の約12%を供給するなど、食生活において大きな役割を果たしている。また、水田作地帯における転作作物、北関東・北九州等の水田営農における裏作作物、北海道の大規模畑作経営における輪作作物として、現状において、我が国の土地利用型農業の重要な作物として位置付けられている。

このように、麦は消費面・生産面で重要な位置付けにあり、「食糧管理法」から引き続き、現行の「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」（食糧法）においても主要食糧として位置付け、その時々の方政策的要請に応じ、各般の施策を講じることにより、麦の安定供給を図ってきたところであり、今後とも、国内産麦について需要に応じた良品質麦生産（生産性の向上を含む）を推進することにより、外国産麦の安定的な輸入と相まって、麦の安定供給を確保していく必要がある。

このような中で、現在、麦については、平成10年に策定された「新たな麦政策大綱」（麦大綱）に即した施策が実施されているところであるが、この麦大綱に基づく施策が実行に移されてから7年が経過した中で、

- ・ 国内産麦の生産状況をみると、ほぼ全量が民間流通へ移行する一方、特に小麦は生産量が増加し、量的には15年産以降では既に食料・農業・農村基本計画（平成17年3月25日閣議決定。以下「基本計画」という。）における27年度の生産努力目標に到達しているものの、品質・生産性の向上が遅れていること
- ・ 麦加工産業についてみると、内外価格差が存在する中で、安価な小麦粉調製品等の輸入が増加しており、原料調達面も含めたコストダウン等を通じた一層の国際競争力の強化や企業体質の強化に向けた取組が必要となっていること
- ・ 制度全体の運用面をみると、麦会計は大幅な赤字が継続していること

等の問題点が顕在化してきている。

また、食料・農業・農村をめぐる状況をみると、農業の構造改革の立ち遅れなど危機的な状況が深化してきており、今後とも食料・農業・農村が我が国経済社会においてその役割を十全に果たしていくためには、思い切った農政改革に早急に着手し、効率的かつ安定的な農業経営が農業生産の相当部分を占める望ましい農業構造を確立することが必要となっている。

このため、本年3月に新たに策定した基本計画では、我が国農業の構造改革を加速化するとともに、WTOにおける国際規律の強化にも対応し得るよう、現在品目別に講じられている経営安定対策を見直し、施策の対象となる担い手を明確化した上で、その経営の安定を図る対策に転換することとされた。特に、複数作物の組合せによる営農が行われている水田作及び畑作については、品目別ではなく、担い手の経営全体に着目し、市場で顕在化している諸外国との生産条件の格差を是正するための対策となる直接支払を導入するとともに、販売収入の変動が経営に及ぼす影響が大きい場合にその影響を緩和するための対策について必要性を検証することとされた。

麦についても、このような諸外国との生産条件格差の是正対策の対象とするとともに、収入の変動による影響の緩和対策の対象とすることとされた。

さらに、昨年7月末のWTO農業交渉において、市場アクセス・国内支持等について国際規律を強化する枠組みが合意され、この枠組みを前提に、より具体的なルール策定に向けた交渉が、本年12月の香港における閣僚会議でのモダリティの合意に向けて大きく展開されているところである。また、東アジア諸国等と経済連携の強化に向けた交渉が行われており、その中で関税の撤廃等が議論されている。このような交渉の場においては、多様な農業の共存という考え方に基づいた我が国の主張を最大限反映させる取組を継続することが重要であるが、同時に、このような国際規律の強化や中長期的な貿易自由化（内外価格差の縮小等）の流れにも対応しうるような政策体系の構築が麦についても強く求められている。

以上のような状況を踏まえ、現行の麦の施策・制度全般について見直しを行い、担い手の育成・確保を通じた需要に応じた良品質麦生産、コストダウン等を通じた麦加工産業の国際競争力の強化を図るとともに、麦会計の健全化等を目指すことが必要となっている。

第2 国内産麦対策の見直し

1 品目横断的経営安定対策の導入に伴う既存施策の整理

(1) 麦を含む複数作物の組合せによる営農が行われている水田作及び畑作に係る品目については、品目別ではなく、担い手の経営全体に着目した品目横断的経営安定対策を、別紙のとおり導入することとされた。

(2) この対策を麦についてみると、小麦は品質・生産性の向上が、大麦・はだか麦は品質・生産性の向上に加えて生産の安定化がそれぞれ課題となっている中で、単に面積に基づく支払だけでなく、各年の生産量・品質に基づく支払も実施することとされており、各課題の解決に資するものとなっている。

また、麦の生産状況をみると、経営規模の小さい都府県の水田作地帯を中心として、個々に農業経営を行う農業者・法人のほか、集落営農・麦作集団が多数存在しているが、これらが果たしている役割を踏まえ、これらのうち、別紙の要件を満たすものについては対策の対象に位置付けられたところである。

(3) (1)のような品目横断的経営安定対策の導入は、以下のとおり、現行の麦作経営安定資金等既存制度・施策からの転換となるが、その転換に際しては、現行の国内産麦について需要に応じた良品質麦生産を推進することにより、外国産麦の安定的な輸入と相まって、麦の安定供給を確保するという施策の基本的な方向性に即したものとする必要がある。

麦作経営安定資金は、麦大綱において、それまでの国による無制限買入れから民間流通に移行するに際して生産者の経営安定等を図るための措置として、麦作の担い手となるべき生産性の高い経営体の経営安定に資する観点から国内産麦の生産コストに着目し設けられたものであるが、今回導入される品目横断的経営安定対策と機能が重複するため、これを廃止し、同対策へ移行することが必要である。

また、無制限買入れについても、麦作経営安定資金を含めて農政全体の方向が品目別対策から品目横断的経営安定対策へ転換することにより、政府買入価格の持つ麦の再生産確保機能が新たな対策に代替される中、これを存置した場合、制度全体の整合性を保てなくなること、麦大綱においても、「民間流通の定着に伴い、政府買入れの必要性は漸次薄れていき、最終的には不要となると考えられるが、民間流通が定着するまでの間は政府買入れの途は残す」と整理されたが、民間流通については17年産において既に100%定着した中で、この経過措置としての役割も終了したと考えられること等から、引き続き適正かつ円滑な民間流通を確保しつつ、廃止の方向で整理することが必要である。なお、これに伴い、国内産麦の売渡しもなくなる。

(4) 麦大綱は、従来の無制限買入れの結果として、実需者のニーズが生産者に的確に伝達されず、需要と生産のミスマッチが大幅に発生していたため、需要に応じた良品質麦の生産を推進する観点から、無制限買入れから民間流通に移行し、生産者と実需者が品質評価を反映した直接取引を行う仕組みを導入することをその基本的な目的とした。このような民間流通に基づき実需者ニーズに応じた良品質麦の生産を推進するという方向性は今後とも変わることはないと考えられる。

その際、麦大綱の策定から7年間で民間流通が100%達成されたが、このように短期間かつ円滑に民間流通が定着化したのは、生産者や実需者の努力によるところが大きいものの、その背景には現行の食糧法に規定された内外麦に係る制度の枠組みがあったことも事実であり、このため、今回の品目別対策から品目横断的経営安定対策への転換に伴う麦に関する制度の変更に際し、無制限買入れの廃止についての生産者の不安感を払拭する必要があるとの意見も踏まえつつ、国内産麦について今後とも適正かつ円滑な民間流通が確保されるよう、麦の全体需給を示すなどその条件整備を図ることが必要である。

2 民間流通制度の見直し

- (1) 民間流通制度の仕組みについては、その内容が専門的かつ実務的なものであるため、制度の見直しに当たっては、今後とも、生産者団体と実需者団体から構成される民間流通連絡協議会を活用するとともに、政府は、これらが円滑に運営されるよう、適切な指導等を実施することが必要である。

民間流通連絡協議会においては、昨年9月、市場原理の一層の徹底を図る観点から、現行の民間流通制度（全量播種前契約、競争制限的な入札制度（義務上場制、値幅制限、申込限度数量）、実績主義）の見直しが決定され、今後、現物取引の導入、義務上場制・値幅制限等の廃止、実績主義の見直し等について検討していくこととされた。

その後、本年4月に開催された民間流通連絡協議会において、18年産については、播種前契約の徹底、播種後における作付面積の確認、全国一律に設定されているアローワンス（播種前契約締結時において契約数量に設定した一定の幅）の地域の実情に応じた地方協議会での弾力的な設定について決定され、実行に移されたところである。

さらに、19年産以降については、契約の複線化（現物取引の導入、複数年度契約の試行的導入）や、従来相対とされていた追加契約麦（アローワンスを超えたもの）への入札取引の導入、相対取引における実績シェアのみによる現行の仕組みの見直し並びに入札の仕組み（義務上場制、値幅制限等）の見直しについて検討を進めることとされたところである。これらについて、定期的な検証と見直しを行っていくことが重要である。

- (2) 特に、加工原料としての麦の特性を考えると、今後とも播種前契約を基本とした仕組みとなると考えられる。このため、産地においては、需要に応じた良品質麦の生産を推進する観点から、17年産から、産地改革計画に基づき生産出荷計画を策定し、実需者ニーズに即した生産出荷体制の確立、品質改善等に取り組んでいるところである。また、引き続き需要に応じた良品質で生産性の高い麦の生産に取り組むため、播種前契約の徹底を図るとともに、追加契約麦については、品目横断的経営安定対策への転換に併せ、その取扱いについて、今後、早急に検討する必要がある。
- (3) さらに、品目横断的経営安定対策への転換に併せて、品質改善を推進する観点から、品質評価の基準について、17、18年産の運用状況をみつつ、現行の品質区分の適正化を念頭に置きながら、生産実態・実需者ニーズを踏まえ、適切に見直しを行う必要がある。
- (4) なお、民間流通麦にかかる流通コストについては、民間流通への円滑な移行を図る観点から、当面政府がその負担を助成することと整理されたものであり、民間流通への完全移行という状況を踏まえ、本来のあり方に立ち返り、見直す必要がある。

3 農産物検査規格の見直し

農産物検査規格については、学識経験者及び関係者の意見を聴取しつつ、良品質麦の生産をより一層振興する観点から、容積重などの外形的要件に依っている品位等検査の見直し、成分検査項目の拡充など成分検査の見直しを検討することが必要である。

既に、春まき小麦については、独自の形質規格を設定し、17年産麦の検査から適用しているところであるが、今後とも実情に応じた形質規格を設定していく必要がある。

特に水田作地帯においては、地域水田農業ビジョンにおける地域の合意形成を通じて、担い手の積極的育成を図るとともに、これら担い手への麦作の集積の一層の加速化（作業受託に止まらず、農地の利用集積の加速化）、さらには米等を含む麦以外の作物も含めた農地の利用集積も進めることが必要である。

4 新品種開発・生産対策の推進

- (1) 最近の消費者の安全・安心志向の高まりを背景に、国内産麦に対する需要が高まっており、国内産麦を100%使用した麦製品（パン・めん・押麦等）が増えてきている。このような国内産麦に対する需要を更に拡大させるためには、実需者ニーズに応じた新品種を開発することが必要である。

なお、新品種開発においては、各地域段階の推進会議における新系統の選抜、品種化の決定に実需者が参画するなど、実需者ニーズに応じた新品種開発を一層推進することが必要である。

- (2) 国内産麦の現状をみると、小麦については品質・生産性の向上が、大麦・はだか麦については健康志向の高まりを背景とした需要の増加に対応するため、品質・生産性の向上に加えて生産の安定化が課題となっている。このため、地域の条件を踏まえた新品種の導入・普及や麦種の転換、産地におけるきめ細かな品質管理、早期収穫技術の導入・普及等により、麦種・用途ごとの実需者ニーズに応じた良品質麦の計画的生産を推進することが重要である。

また併せて、個々に農業経営を行う農業者・法人、集落営農・麦作集団について、地域の実情に応じ、別紙の要件に沿って担い手を明確化し、これを育成していくことが重要である。

第3 外国産麦の輸入及び売渡し

1 国家貿易の維持

麦は国民生活上重要な品目であるため、国内産麦について適正かつ円滑な民間流通を基本とした施策を講ずるほか、需要量の9割近くを占める外国産麦について、その安定供給を図る必要がある。

このため、現在、我が国の需要に応えられる多様かつ良品質な麦を安定的に輸出できる国は、米・加・豪の3国（加・豪は輸出国家貿易）であること、また、多様かつ良品質な麦を効率的かつ安定的に供給するためには、現在のインフラの整備状況に即した配船を行う必要があること等から、当面、引き続き、麦について国家貿易を維持することが必要である。

また、このような国家貿易は、麦に関する制度の基本的な枠組みとして、国内産麦の民間流通の定着に資してきたことに十分留意する必要がある。

このためにも、麦の全体需給を示すことなどにより、それに基づく国内産麦の生産及び民間流通の定着と外国産麦の安定的な供給を図ることが必要である。

2 備蓄制度の見直し

(1) 不測の事態に必要な数量については、従来2.6ヶ月とされていたが、他の輸出国からの代替輸入に要する期間が0.3ヶ月程度短縮化していること、過去最大の備蓄の取崩しは1.8ヶ月であったこと（平成5～6年のカナダでの船積遅延による取崩し）等を踏まえ、一定程度（例えば代替輸入期間の短縮分である0.3ヶ月程度）の圧縮が可能であり、このため、既に17年度末には、2.3ヶ月分となるよう見直しを行ったところである。

(2) さらに、官民分担については、民間の在庫だけでは安定供給に支障を来す場合に、国が最後の出し手として放出することで安定供給を図るという考え方に立ち、通常時の需給操作に必要な在庫（例えば現行の民間のランニングストック0.6ヶ月分に現行の備蓄水準に係る民間保有分のうちの需給操作分を加えた水準）は民間が保有し、不測の事態において通常時の需給操作に必要な在庫だけでは不足するものは備蓄として国が保有するという整理を行うことが必要である。なお、この整理については、制度全体の費用負担の削減の観点から、早急に行うことが必要である。

3 外国産麦の売渡しの見直し

- (1) 外国産麦の流通については、港湾、サイロ等のインフラが整備されており、引き続き、このようなインフラの整備状況に即した計画的配送により効率的な物流を達成する必要がある。したがって、外国産麦の売渡しについては、引き続き、麦加工産業の需要に即した計画的な買付け、売渡しを実施することが必要である。
- (2) 上記のように、麦については、当面、引き続き、国家貿易を維持することが必要であるが、一方で国家貿易では最新時点における実需者の多様なニーズにきめ細かく対応することに限度があることも事実であり、このため、このような実需者ニーズに対応できるようにする等との観点から、米や飼料用大麦について既に導入されているS B S方式を、新たに麦についても導入する必要がある。

なお、S B S方式の具体的な運用に当たっては、今後、関係者の意見を聴取しつつ、これを適切に実施する必要がある。

- (3) 外国産麦については、現在、国内産麦と同じく、毎年、標準売渡価格を定め、年間を通じて一定の価格で売渡しを行っているが、この標準売渡価格については、

国内産麦については、無制限買入れの廃止に伴い、これに基づく売渡しもなくなること

標準売渡価格は、当初は消費者の家計ヘインフレの影響が及ばないようにすることを目的に導入されたが、

- a 現時点ではこのようなインフレは想定し難いこと
- b 小麦粉価格も低下傾向で推移していること
- c 現在、標準売渡価格の算定の根拠とされている品目は、家計における小麦粉と精麦のみであり、パン・めん類等の麦製品の大宗は対象となっていないこと

同じ主要食糧である米についても、既に標準売渡価格は廃止され、市場実勢に即した売渡しが行われていること

等を踏まえると、その設定の根拠は現時点では見出し難いと考えられ、外国産麦についてもこれを廃止することが適当である。

標準売渡価格の廃止後における外国産麦の売渡しについては、買付価格（輸入委託商社に支払う買入委託代金）に一定のマークアップを上乗せした売渡価格となるが、このうち買付価格については、毎回の買付価格とするのか、一定期間ごとの買付価格の平均とするのかについては、効率的な物流を達成する等の観点に立ち、決定する必要がある。

- (4) なお、大麦については、売買逆ザヤが生じており、管理経費も賄うことができない状況にある。このため、売買逆ザヤの解消を始め適切なコスト負担の観点から、売渡価格を設定することが必要である。
- (5) 内麦助成金及び管理経費については、従来、コストプール方式の下、マークアップを充当してきたところであるが、さらに最近では多額の財政資金も投入しているところである。

マークアップについては、当面、引き続き、国家貿易等麦の制度運営に係る管理経費に充当する必要がある。

また、内麦助成金については、

国内産麦は、外国産麦に比べるとその比率は小さいものの、消費者の安全・安心志向の高まりを背景に需要が増加し地産地消が推進されている等、麦加工産業にとって重要な役割を担っていること

小麦・大麦は国家貿易により安定供給が図られているが、小麦と競合関係にある小麦粉・小麦でんぷん等も国家貿易により管理されている。また、同じく競合関係にある小麦粉調製品・パスタ等の麦加工品についても、最近では輸入が増加しているものの、一定の関税が賦課されており、麦加工産業は、全体として相応の対外競争力を有していること

以上のような観点を踏まえ、従来から、実需者が内麦助成金について負担を行ってきたこと

厳しい財政事情を勘案する必要があること

等から、当面、引き続き、実需者の負担を求めることが妥当である。なお、その水準については、

国際規律の強化や中長期的な貿易自由化（内外価格差の縮小等）の流れにも対応しうよう、麦加工産業の国際競争力の強化に十分留意したものとすること

麦に対する財政支出についても、今後の経済社会の変化等を踏まえれば、納税者負担についてさらに制約が強まることに十分留意すること

が必要である。

- (6) 品目横断的経営安定対策の導入は、麦作経営安定資金等既存制度・施策からの転換となるが、その転換に際しては、麦のマークアップの使途に関し、マークアップが実需者負担であり、ひいては消費者負担であることに十分留意する必要がある。

4 管理コストの削減

管理コストの削減を引き続き図るため、例えば、保管料単価については、麦加工産業の利便性に配慮しつつインフラ条件の整ったサイロでの在姿渡販売を行っていることから市場メカニズムが働きにくい実態にあるが、倉庫業を取り巻く市場動向等を反映して定期的に見直しを実施することや、各港における港湾能力も勘案しつつ4万トン級の大型船を一層活用する必要がある。

第4 麦加工産業対策の推進

上記のような制度全体の見直しは、国内産麦の品質や生産性の向上に大きく資するものであるとともに、国内産麦の持続的な生産に不可欠な麦加工産業の体質強化や国際競争力の強化を図ることとなるものであり、これらは最終的には消費者利益の向上にも資することとなる。さらに、このような麦加工産業の体質強化について、その自主的な取組を促進するため、「中小企業新事業活動促進法」に基づく経営革新の取組や、「産業活力再生特別措置法」の適用等を通じ、国内産麦を活用した新商品・新技術の開発、製造設備の集約等に対する支援を実施する必要がある。

主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律の一部を改正
する法律新旧対照条文

(平成19年4月1日施行)

改正後	改正前
<p>（主要食糧の需給及び価格の安定を図るための基本方針）</p> <p>第二条（略）</p> <p>2（略）</p> <p>3 政府は、<u>麦の需給及び価格の安定を図るため、<u>麦の需給の適確な見通しを策定し、これに基づき、<u>麦の供給が不足する事態に備えた備蓄の円滑な運営を図るとともに、<u>麦の適切な輸入及び売渡しを行うものとする。</u></u></u></u></p> <p>（定義）</p> <p>第三条（略）</p> <p>2（略）</p> <p>3 この法律において「<u>麦の備蓄</u>」とは、<u>麦の輸入の途絶等によりその供給が不足する事態に備え、必要な数量の麦を在庫として保有することを行う。</u></p> <p>（<u>麦の需給見通し</u>）</p> <p>第四十一条 農林水産大臣は、<u>麦の需給及び価格の安定を図るため、政令で定めるところにより、毎年、<u>麦の需給に関する見通し（以下「需給見通し」という。）を定めるものとする。</u></u></p> <p>2 需給見通しにおいては、次に掲げる事項を定めるものとする。</p> <p>一 麦の種類別需要数量に関する事項</p>	<p>（主要食糧の需給及び価格の安定を図るための基本方針）</p> <p>第二条（略）</p> <p>2（略）</p> <p>3 政府は、<u>麦の需給及び価格の安定を図るため、<u>その適切な買入れ、輸入及び売渡しを行うものとする。</u></u></p> <p>（定義）</p> <p>第三条（略）</p> <p>2（略）</p> <p>（<u>麦の政府買入れ</u>）</p> <p>第四十一条 政府は、<u>政令で定めるところにより、<u>麦をその生産者又はその生産者から委託を受けた者の売渡しの手込みに応じて、無制限に買入れなければならない。</u></u></p> <p>2 前項の規定による政府の買入れの価格（以下この条において「政府買入価格」という。）は、政令で定めるところにより、<u>農林水産大臣が、</u></p>

<p>1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び輸入数量に関する見通し</u></p> <p>2 1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び輸入数量に関する見通し</u></p> <p>3 1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び輸入数量に関する見通し</u></p> <p>4 1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び輸入数量に関する見通し</u></p> <p>5 1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び輸入数量に関する見通し</u></p> <p>6 1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び輸入数量に関する見通し</u></p> <p>（<u>麦等の輸入を目的とする買入れ及び当該麦の売渡し</u>）</p> <p>第四十二条 政府は、<u>麦等（<u>麦</u>）<u>その他の政令で定めるもの及びこれらを加し</u></u>、又は調製したものであつて<u>政令で定めるものをいう。</u>第五項及び次条から第四十五条までにおいて同じ。）の輸入を目的とする買入れを行うこととする。</p> <p>2 政府は、<u>前項の輸入を目的とする買入れに係る<u>麦を、</u></u>随時契約により<u>売却するものとする。</u>ただし、<u>農林水産大臣が随意契約により買入れを不承認し認めざる<u>場合</u>に於て、</u>入札の方法による「<u>競売競争契約又は指値を競争契約の目的とする農林水産大臣が選択する競争契約により売却するものとする。</u></p> <p>3 第一項の輸入を目的とする買入れに係る<u>麦を前項の規定により売却する場合は、</u>国際約束に従つて<u>農林水産大臣が定めて告示する額を、</u>当該買入れの価格に加えて<u>得た額を超えてはならない。</u></p> <p>4 第二項の規定による<u>麦の買入れ及び前項の規定による前条の売渡し</u>、<u>麦の適正な供給及び</u>麦の備蓄の円滑な運営を図るため、<u>需給見通し</u></p>	<p>1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び供給の動向並びに物価その他の経済事情を参照し、<u>麦の買入れを確保するに努めなければならない。</u></u></p> <p>2 1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び供給の動向並びに物価その他の経済事情を参照し、<u>麦の買入れを確保するに努めなければならない。</u></u></p> <p>3 1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び供給の動向並びに物価その他の経済事情を参照し、<u>麦の買入れを確保するに努めなければならない。</u></u></p> <p>4 1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び供給の動向並びに物価その他の経済事情を参照し、<u>麦の買入れを確保するに努めなければならない。</u></u></p> <p>5 1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び供給の動向並びに物価その他の経済事情を参照し、<u>麦の買入れを確保するに努めなければならない。</u></u></p> <p>6 1 1 同一の種類別需給数量に対する<u>麦の生産数量及び供給の動向並びに物価その他の経済事情を参照し、<u>麦の買入れを確保するに努めなければならない。</u></u></p> <p>（<u>麦等の輸入を目的とする買入れ</u>）</p> <p>第四十二条 政府は、<u>麦等（<u>麦</u>）<u>その他の政令で定めるもの及びこれらを加し</u></u>、又は調製したものであつて<u>政令で定めるものをいう。</u>次項、第四十四条及び第四十五条において同じ。）の輸入を目的とする買入れを行うこととする。</p>
--	--

<p>51 第三十条第一項の規定は、<u>第一項の麦等の買入れ</u>について準用する。</p> <p>（輸入に係る麦等の特別な方式による買入れ及び売渡）</p> <p>第四十三條 政府は、<u>麦等の輸入</u>を行おうとする者及び当該輸入に係る麦等の買受けを行おうとする者の連名による申込みに応じて、当該輸入に係る麦等を買入れることができる。</p> <p>2 政府は、前項の規定により買入れた麦等を同項の買受けの申込みを行った者に対し、当該申込みに応じて<u>売り渡すものとする</u>。</p> <p>3 第一項の規定により買入れた麦等を前項の規定により<u>売り渡す場合の価格は、国際約束に従って農林水産大臣が定めて告示する額</u>で、当該麦等の買入れの価格に加えて得た額を超えてはならない。</p> <p>4 第一項の規定による<u>麦の買入れ及び第二項の規定による当該麦の売渡しは、</u>麦の適切な供給を図るため、需給円通しに即して行うものとする。</p>	<p>21 第三十条第二項の規定は、<u>前項の麦等の買入れ</u>について準用する。</p> <p>（麦の政府売渡）</p> <p>第四十三條 政府は、その保有する<u>麦を、随意契約により売り渡すものとする</u>。ただし、農林水産大臣が随意契約によることを不適当と認める場合には、入札の方法による一般競争契約又は指名競争契約のうち農林水産大臣が選択する競争契約により<u>売り渡すものとする</u>。</p> <p>2 前項の規定により<u>売渡しを行う場合における予定価格は、政令で定めるところにより、標準売渡価格を基準として定める</u>。</p> <p>3 前項の標準売渡価格は、政令で定めるところにより、農林水産大臣が、家計費及び米価その他の経済事情を参酌し、消費者の家計を安定させることを旨として定める。</p> <p>4 農林水産大臣は、前項の規定により標準売渡価格を定めようとするときは、<u>食料・農業・農村政策審議会の意見を聴かなければならない</u>。</p> <p>5 農林水産大臣は、第三項の規定により標準売渡価格を定めるときは、<u>遅滞なく、農林水産省令で定める</u>麦についてこれを告示するものとする。</p> <p>6 農林水産大臣は、<u>物価その他の経済事情に著しい変動が生じ、又は生ずるおそれがある場合において、特に必要があると認めるときは、標準売渡価格を改定することができる</u>。</p> <p>7 第四項及び第五項の規定は、<u>前項の規定による標準売渡価格の改定について準用する</u>。</p> <p>8 前条第一項の輸入を目的とする買入れに係る<u>麦を第一項の規定により売り渡す場合の価格は、国際約束に従って農林水産大臣が定めて告示する額を、当該麦の買入れの価格に加えて得た額を超えてはならない</u>。</p>
---	---

<p>（<u>準用</u>）</p> <p>第四十四條 第二十一條の規定は<u>麦等の売渡し</u>について、第三十三條の規定は<u>麦の売渡し</u>について準用する。この場合において、同条第一項中「<u>第二十九條から前条まで</u>」とあるのは、「<u>前条、第四十二條及び第四十三條と読み替えるものとする</u>」。</p> <p>（<u>麦等の輸入</u>）</p> <p>第四十五條 麦等の輸入を行おうとする者は、<u>国際約束に従って農林水産大臣が定めて告示する額に、当該輸入に係る麦等の数量を乗じて得た額を、政府に納付しなければならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない</u>。</p> <p>一 第四十一條第五項において準用する<u>第二十条第一項の規定による政府の委託を受けて輸入する場合</u>。</p> <p>二 第四十三條の規定による<u>連名による申込み</u>に応じて行う<u>政府の買入れ及び売渡し</u>に係る<u>麦等を輸入する場合</u>。</p> <p>三 国内の需給及び価格の安定に<u>顕著な影響を及ぼすおそれのないものとして政令で定める麦等を輸入する場合</u>。</p> <p>2 （略）</p> <p>（<u>米穀以外の主要食糧の買入れ及び売渡し</u>）</p> <p>第四十六條 政府は、<u>主要食糧の適正かつ円滑な供給を図るために特に必要がある</u>と認めるときは、<u>第三十条、第三十一条、第四十二條及び第四十三條の規定によるほか、米穀以外の主要食糧の買入れを行うことができる</u>。</p> <p>2 政府は、<u>第二十一条、第四十二條及び第四十三條の規定によるほか</u>その保有する<u>米穀以外の主要食糧の売渡し</u>を行うことができる。</p> <p>3 （略）</p>	<p>（<u>準用</u>）</p> <p>第四十四條 第三十一條の規定は<u>麦等の売渡し</u>について、第三十三條の規定は<u>麦の売渡し</u>について準用する。この場合において、同条第一項中「<u>第二十九條から前条まで</u>」とあるのは、「<u>前条及び第四十三條と読み替えるものとする</u>」。</p> <p>（<u>麦等の輸入</u>）</p> <p>第四十五條 麦等の輸入を行おうとする者は、<u>国際約束に従って農林水産大臣が定めて告示する額に、当該輸入に係る麦等の数量を乗じて得た額を、政府に納付しなければならない。ただし、第四十一條第一項において準用する第三十条第一項の規定による政府の委託を受けて輸入する場合並びに国内の需給及び価格の安定に顕著な影響を及ぼすおそれのないものとして政令で定める麦等を輸入する場合、この限りでない</u>。</p> <p>2 （略）</p> <p>（<u>米穀及び麦以外の主要食糧の買入れ及び売渡し</u>）</p> <p>第四十六條 政府は、<u>第三十条、第三十一条及び第四十二條の規定によるほか、米穀及び麦以外の主要食糧の買入れを行うことができる</u>。</p> <p>2 政府は、<u>第三十一条の規定によるほか、その保有する米穀及び麦以外の主要食糧の売渡し</u>を行うことができる。</p> <p>3 （略）</p>
--	---

参考統計表

参考統計表目次

【消費関係】

1	1世帯当たり年間の麦加工食品等の支出金額の推移	61
2	麦加工食品の小売価格の推移	62
3	小麦粉及び精麦の卸売価格の推移	63
4	麦加工食品等の生産量の推移	64
5	小麦粉及び精麦の用途別生産量の推移	65
6	麦加工食品の輸入量の推移	66
7	麦加工食品の輸出量の推移	67
8	中小製粉企業における地元産小麦の活用事例等	68

【生産関係】

1	麦種別作付面積、単収、収穫量の推移	69
2	地域別、田畑別作付面積と収穫量	70
3	都道府県別・麦種別作付面積（平成17～19年産）	75
4	都道府県別・麦種別実単収（平成17～19年産）	75
5	都道府県別・麦種別収穫量（平成17～19年産）	76
6	麦の作付面積上位10県の生産状況	77
7	平成18年産麦の用途別作付面積	78
8	麦の品種別作付面積（上位10品種）の動向	80
9	平成18年産麦の地域別・麦種別上位5品種作付面積	82
10	主要品種の特性	83
11	全国平均生産費（小麦）	84
12	小麦の10a当たり費用合計の内訳	85
13	小麦の地域別10a当たり投下労働時間の推移	86

14	小麦の作付規模別・地域別生産費（18年産）	87
15	小麦の作付規模別生産費及び収益性の推移	88
16	麦作農家数の推移	90
17	麦の都道府県別検査数量及び等級比率	92
18	平成19年産麦の品質評価結果	94
19	麦の品質評価項目とその基準値及び許容値	95

【需給関係】

1	全体需給の推移	96
2	国内産麦の産地別・銘柄別入札指標価格の推移	98
3	平成20年産麦の産地別・銘柄別入札結果	100
4	外国産食糧用麦の国別・銘柄別政府輸入量の推移	102
5	政府買入価格と政府売渡価格との価格関係の推移	103
6	種類別・銘柄別の政府売渡価格の推移	106
7	外国産麦のFOB価格と食糧部買付価格の推移	108
8	外国産小麦の食糧部買付価格と政府売渡価格との比較	109
9	麦の国際需給状況	110
10	麦会計の損益の推移	111
11	枠外税率を支払って輸入された麦の数量の推移	112

消費関係

1 1世帯当たり年間の麦加工食品等の支出金額の推移

区分	年	品目 食料費	加工食品																
			小麦粉	パン計	パン				めん計	めん類					ビスケット	みそ	しょうゆ	麦加工食品計	
					食パン	菓子パン	他のパン	調理パン		生めん類	乾めん類	即席めん	カップめん	他のめん類					
実数 (円)	昭和50	649,887	636	13,596	6,257	3,379	3,257	684	12,082	2,439	2,713	4,983		1,947	2,238	3,494	3,872	35,918	
	55	867,393	843	22,146	8,932	6,621	5,236	1,357	15,714	2,827	3,988	5,526		3,373	2,882	3,803	4,065	49,453	
	60	957,528	843	25,414	8,248	8,133	7,119	1,914	18,121	3,407	4,723	5,479		4,512	3,334	3,815	3,488	55,015	
	平成2	1,030,125	676	29,007	7,148	18,974		2,885	18,792	3,853	4,526	5,770		4,643	3,038	3,392	2,952	57,857	
	7	1,024,518	679	30,946	9,040	18,858		3,048	19,925	4,111	4,738	5,812		5,264	3,242	2,785	2,980	60,557	
	9	1,033,373	685	31,575	9,115	19,403		3,057	19,903	4,071	4,933	5,637		5,262	3,340	3,495	2,926	61,924	
	10	1,027,293	652	31,407	9,405	18,967		3,035	19,570	4,177	4,760	5,296		5,336	3,215	3,475	2,736	61,055	
	11	1,005,973	655	31,666	9,639	19,012		3,015	19,358	4,017	4,605	5,365		5,371	3,358	3,308	2,714	61,059	
	12	972,424	620	30,638	9,730	17,771		3,137	18,689	3,801	4,701	5,143		5,043	3,415	3,181	2,548	59,091	
	13	943,313	586	29,343	9,268	17,064		3,011	18,253	3,660	4,448	5,184		4,960	3,411	2,995	2,491	57,079	
	14	940,040	590	29,823	8,797	18,026		3,000	18,286	3,915	4,219	4,983		5,169	3,223	2,887	2,468	57,277	
	15	923,295	578	30,712	8,774	18,808		3,130	18,252	4,020	4,188	4,934		5,110	3,424	2,918	2,349	58,233	
	16	919,970	575	31,191	8,712	19,242		3,237	18,112	3,820	4,524	4,708		5,060	3,238	2,723	2,311	58,150	
	17	902,003	567	29,617	8,219	18,034		3,364	16,662	3,591	3,903	1,538	2,959	4,670	2,923	2,695	2,263	54,727	
	18	891,439	539	30,026	8,248	18,311		3,467	16,292	3,501	3,871	1,414	2,952	4,555	2,908	2,694	2,233	54,692	
	19	901,601	601	30,649	8,249	18,847		3,553	16,414	3,588	2,834	1,375	2,941	5,676	3,015	2,631	2,220	55,530	
	構成比 (%)	50	100.0	0.1	2.1	1.0	0.5	0.5	0.1	1.9	0.4	0.4	0.8		0.3	0.3	0.5	0.6	5.5
		55	100.0	0.1	2.6	1.0	0.8	0.6	0.2	1.8	0.3	0.5	0.6		0.4	0.3	0.4	0.5	5.7
		60	100.0	0.1	2.7	0.9	0.9	0.7	0.2	1.9	0.4	0.5	0.6		0.5	0.3	0.4	0.4	5.7
2		100.0	0.1	2.8	0.7	1.8		0.3	1.8	0.4	0.4	0.6		0.5	0.3	0.3	0.3	5.6	
7		100.0	0.1	3.0	0.9	1.8		0.3	1.9	0.4	0.5	0.6		0.5	0.3	0.3	0.3	5.9	
9		100.0	0.1	3.0	0.9	1.9		0.3	1.9	0.4	0.5	0.5		0.5	0.3	0.3	0.3	6.0	
10		100.0	0.1	3.1	0.9	1.9		0.3	1.9	0.4	0.5	0.5		0.5	0.3	0.3	0.3	5.9	
11		100.0	0.1	3.2	1.0	1.9		0.3	1.9	0.4	0.5	0.5		0.5	0.3	0.3	0.3	6.1	
12		100.0	0.1	2.8	1.0	1.8		0.3	1.9	0.4	0.5	0.5		0.5	0.4	0.3	0.3	6.1	
13		100.0	0.1	2.8	1.0	1.8		0.3	1.9	0.4	0.5	0.5		0.5	0.4	0.3	0.3	6.1	
14		100.0	0.1	3.2	0.9	1.9		0.3	1.9	0.4	0.4	0.5		0.5	0.3	0.3	0.3	6.1	
15		100.0	0.1	3.3	1.0	2.0		0.3	2.0	0.4	0.5	0.5		0.6	0.4	0.3	0.3	6.3	
16		100.0	0.1	3.4	0.9	2.1		0.4	2.0	0.4	0.5	0.5		0.6	0.4	0.3	0.3	6.3	
17		100.0	0.1	3.5	1.0	2.1		0.4	2.0	0.4	0.5	0.5	0.0	0.6	0.4	0.3	0.3	6.1	
18		100.0	0.1	3.4	0.9	2.1		0.4	1.8	0.4	0.4	0.2	0.3	0.5	0.3	0.3	0.3	6.1	
19		100.0	0.1	3.4	0.9	2.1		0.4	1.8	0.4	0.3	0.2	0.3	0.6	0.3	0.3	0.2	5.8	

資料：総務省「家計調査」

2 麦加工食品の小売価格の推移

(単位：円、%)

年月	みそ		しょうゆ		小麦粉		生めん(ゆでうどん)		乾めん(干うどん)		即席めん		スパゲッティ		食パン		ビスケット	
	1袋 1kg		1本 1リットル		1kg		1袋 200~250g(注)		1kg		77g(注)		300g		1kg		100g	
	小売 価格	対前年 (同月) 増減率	小売 価格	対前年 (同月) 増減率	小売 価格	対前年 (同月) 増減率	小売 価格	対前年 (同月) 増減率	小売 価格	対前年 (同月) 増減率	小売 価格	対前年 (同月) 増減率	小売 価格	対前年 (同月) 増減率	小売 価格	対前年 (同月) 増減率	小売 価格	対前年 (同月) 増減率
昭和50	250	9.4	(447)	3.0	134	0.7	153	3.9	233	1.7	48	4.0	-	-	238	2.1	73	4.3
55	303	4.8	(559)	11.8	175	10.8	212	16.7	290	12.3	60	15.4	-	-	316	9.3	87	11.5
60	336	2.4	284	0.4	209	0.9	256	0.0	364	2.5	71	0.0	143	-	374	0.3	90	0.0
平成2	340	1.2	301	4.2	202	0.5	274	3.8	396	5.0	76	5.6	147	1.4	386	2.1	93	0.0
7	363	0.3	326	0.0	200	1.5	316	1.9	497	0.6	82	0.0	163	0.0	408	1.4	102	1.0
9	360	1.6	321	0.6	202	1.0	325	1.9	502	3.1	84	0.0	164	2.5	419	1.5	102	1.0
10	350	2.8	318	0.9	202	0.0	329	1.2	505	0.6	84	0.0	161	1.8	423	1.0	104	2.0
11	347	0.9	310	2.6	200	1.0	328	0.3	509	0.8	84	0.0	160	0.6	422	0.2	138	24.6
12	333	4.0	307	1.0	197	1.5	322	1.8	500	1.8	84	0.0	158	1.3	422	0.0	138	0.0
13	319	4.2	307	0.0	194	1.5	325	0.6	505	1.2	362	-	156	1.3	423	0.2	137	0.7
14	315	1.3	300	2.3	191	1.5	322	0.9	514	1.8	141	-	156	0.0	423	0.0	135	1.5
15	322	2.2	297	1.0	190	0.5	76	-	496	3.5	141	0.0	155	0.6	424	0.2	134	0.7
16	321	0.3	277	6.7	189	0.5	78	2.6	504	1.6	141	0.0	156	0.6	423	0.2	134	0.0
17	313	2.5	270	2.5	189	0.0	78	0.0	499	1.0	140	0.7	155	0.6	415	1.9	137	2.2
18	320	2.3	266	1.4	191	1.3	79	1.0	503	0.9	137	2.4	152	2.3	407	1.9	138	1.0
19年1月	326	0.6	259	3.4	193	3.8	79	2.6	504	1.4	134	6.9	149	2.6	405	4.9	134	2.2
2	314	0.9	271	2.5	190	3.8	79	0.0	501	0.4	138	3.5	154	1.3	405	4.7	136	1.5
3	322	0.9	256	2.3	194	3.7	79	1.3	506	0.2	137	2.1	151	1.9	404	4.5	132	2.9
4	309	0.0	268	3.6	190	1.1	79	1.3	504	1.4	136	2.9	154	1.9	404	2.9	133	2.9
5	321	2.6	261	1.5	190	0.5	79	1.3	492	0.6	134	3.6	150	3.2	403	1.9	132	5.7
6	295	0.0	273	1.8	193	1.0	79	0.0	503	1.6	131	4.4	155	0.6	408	1.0	130	5.1
7	324	1.6	260	4.8	188	1.1	78	0.0	497	1.0	132	4.3	150	0.7	405	1.0	132	6.4
8	306	1.9	273	0.7	188	1.1	78	1.3	493	1.9	135	2.2	157	1.3	411	1.7	133	2.9
9	328	1.5	263	0.8	186	2.1	77	2.5	494	0.4	137	2.1	153	0.0	406	1.2	133	2.9
10	302	2.3	269	0.4	186	2.1	36	54.4	497	1.0	136	2.2	148	6.3	403	2.2	131	1.5
11	317	2.3	255	2.3	188	2.1	36	53.8	492	3.0	137	2.1	149	3.2	408	0.7	130	7.1
12	298	1.7	268	1.8	188	2.1	35	55.1	516	3.2	133	2.2	168	4.3	438	6.6	128	7.2
1~12月計	314	2.1	265	0.6	190	1.0	68	13.9	500	0.7	135	1.2	153	1.1	408	0.3	132	4.6

資料：総務省「小売物価統計調査報告」(東京都区部)

注：1) しょうゆについては、55年までは2リットル製品の価格である。

2) ビスケットについては、平成11年1月から基本銘柄が改正された。

3) 即席めんは平成14年1月以前は即席中華めんとして調査されており、調査単位として平成13年においては1パック(5袋)475~525g)、それ以前においては1食(100g)として調査されていた。また、平成14年1月からは1個77gとなった。

4) 生めん(ゆでうどん)については、平成14年までは1kg当たり、平成15年からは1袋(200~250g)当たり、平成19年10月からは100g当たりの価格である。

3 小麦粉及び精麦の卸売価格の推移

(単位：円、%)

種類 年	小麦粉						精麦					
	強力粉		普通粉		薄力粉		薄力粉		普通押麦		強化精麦	
	(25kg)	対前年 増減率	(25kg)	対前年 増減率	(25kg)	対前年 増減率	家庭用 1kg	対前年 増減率	(1kg)	対前年 増減率	(1kg)	対前年 増減率
昭和63	4,255	3.8	3,712	3.1	3,798	3.2	174	3.3	213	0.9	235	1.3
平成元	4,181	1.7	3,637	2.0	3,747	1.3	172	1.1	217	1.9	239	1.7
2	4,035	3.5	3,538	2.7	3,632	3.1	168	2.3	221	1.8	243	1.7
3	3,976	1.5	3,504	1.0	3,599	0.9	169	0.6	238	7.7	260	7.0
4	3,935	1.0	3,485	0.5	3,561	1.1	171	1.2	241	0.8	261	0.4
5	3,924	0.3	3,476	0.3	3,572	0.3	171	0.0	242	0.4	261	0.0
6	3,795	3.3	3,378	2.8	3,488	2.4	168	1.8	243	0.4	261	0.0
7	3,707	2.3	3,290	2.6	3,419	2.0	164	2.4	242	0.4	260	0.4
8	3,657	1.3	3,248	1.3	3,274	0.3	162	1.2	242	0.0	260	0.0
9	3,693	1.0	3,274	0.8	3,424	4.6	164	1.2	246	1.7	264	1.5
10	3,704	3.0	3,290	0.5	3,441	0.5	165	0.6	248	0.8	267	1.1
11	3,667	1.0	3,278	0.4	3,382	1.7	167	1.2	248	0.0	266	0.4
12	3,614	1.0	3,266	0.4	3,340	1.7	166	1.2	248	0.0	265	0.4
13	3,593	0.6	3,262	0.1	3,327	0.4	166	0.0	248	0.0	266	0.4
14	3,590	0.1	3,265	0.1	3,330	0.1	167	0.6	248	0.0	265	0.4
15	3,601	0.3	3,267	0.1	3,333	0.1	167	0.0	247	0.4	265	0.0
16	3,577	0.7	3,271	0.1	3,364	0.9	171	2.4	251	1.6	264	0.4
17	3,557	0.6	3,270	0.0	3,361	0.1	172	0.6	253	0.8	264	0.0
18	3,568	0.3	3,275	0.2	3,371	0.3	170	1.2	254	0.4	264	0.0
19	3,640	2.0	3,350	2.3	3,395	0.7	170	0.0	254	0.0	266	0.8

資料：農林水産省「麦製品等の取引価格の推移」（全国平均）

4 麦加工食品等の生産量の推移

(単位：千トン、%)

区分 年月	めん類										パン								ビスケット		プレミックス		しょうゆ		精麦		麦茶		みそ					
	小麦粉		生めん		乾めん		即席めん		マカロニ類		食パン		菓子パン		その他のパン		生産量 CY	対前年 増減率	生産量 CY	対前年 増減率	生産量 CY	対前年 増減率	生産量 CY	対前年 増減率	生産量 CY	対前年 増減率	生産量 CY	対前年 増減率	生産量 CY	対前年 増減率	生産量 CY	対前年 増減率	生産量 CY	対前年 増減率
	生産量 FY	対前年 増減率 (同月)	生産量 CY	対前年 増減率 (同月)	生産量 CY	対前年 増減率 (同月)	生産量 CY	対前年 増減率 (同月)	生産量 CY	対前年 増減率 (同月)	生産量 CY	対前年 増減率 (同月)	生産量 CY	対前年 増減率 (同月)	生産量 CY	対前年 増減率 (同月)																		
昭和45	3,422	0.1	-	-	514	0.6	327	1.8	267	3.1	93	18.5	970	0.1	469	2.6	-	-	-	-	273	5.2	36	12.5	1,122	5.7	128	9.9	-	-	552	4.7		
50	3,978	7.0	-	-	541	4.0	289	3.0	335	6.0	96	4.0	1,062	3.1	588	4.6	251	2.8	63	3.9	289	7.0	105	11.0	1,120	8.0	130	3.0	-	-	561	4.0		
55	4,079	0.6	1,334	0.1	610	0.1	275	5.2	325	3.3	124	2.3	1,189	1.8	687	3.1	285	0.6	89	9.9	266	5.1	157	5.7	1,189	5.0	84	8.6	34	18.9	579	1.9		
60	4,243	0.4	1,397	0.4	659	0.4	297	1.1	316	2.2	125	1.5	1,178	2.1	653	4.0	291	0.7	133	7.0	247	3.9	196	3.2	1,186	1.1	121	18.0	34	2.3	573	1.4		
平成2	4,338	1.3	1,407	1.7	687	1.5	274	2.4	316	0.8	130	2.8	1,193	0.5	661	0.3	321	3.3	146	1.4	245	0.1	235	2.7	1,177	1.9	99	1.7	31	20.4	555	1.6		
7	4,633	1.2	1,456	0.3	729	1.4	268	5.7	314	3.0	145	1.3	1,220	0.0	623	3.2	368	3.5	178	5.0	225	2.7	298	3.7	1,122	1.6	130	12.9	40	3.2	541	0.4		
9	4,638	0.8	1,442	1.6	706	2.5	249	3.9	323	0.5	163	4.8	1,227	0.3	602	1.6	389	2.7	188	0.8	226	0.7	329	2.6	1,098	2.9	142	2.7	41	5.9	546	0.5		
10	4,593	1.0	1,423	1.3	692	2.0	249	0.1	318	1.6	164	0.6	1,234	0.6	611	1.5	379	2.6	199	6.0	219	3.3	332	1.1	1,063	3.2	138	2.6	43	3.3	545	0.1		
11	4,627	0.7	1,433	0.7	686	0.8	242	2.8	337	6.0	168	2.4	1,250	1.3	618	1.1	381	0.4	208	4.3	219	0.1	341	2.9	1,043	1.9	154	11.6	45	5.8	543	0.4		
12	4,623	0.1	1,421	0.9	687	0.1	235	2.9	343	1.9	156	7.3	1,279	2.3	619	0.2	382	0.4	235	13.0	223	1.9	350	2.5	1,065	2.1	161	4.7	49	7.9	533	1.9		
13	4,607	0.4	1,441	1.4	697	1.4	238	1.4	356	3.9	150	4.2	1,272	0.5	625	1.0	380	0.4	226	3.9	218	2.1	353	1.0	1,027	3.5	164	1.9	51	4.0	526	1.3		
14	4,591	0.3	1,423	1.3	686	1.5	226	5.1	356	0.0	154	2.9	1,245	2.0	619	1.0	371	2.6	217	4.1	210	3.9	347	1.9	999	2.7	177	7.5	51	0.2	524	0.4		
15	4,662	1.5	1,425	0.2	675	1.4	230	1.7	365	2.4	154	0.1	1,247	0.1	625	0.9	366	1.4	219	0.9	219	4.3	352	1.7	981	1.8	189	7.0	39	11.6	510	2.7		
16	4,667	0.1	1,414	0.8	661	2.2	228	0.8	368	0.9	157	1.4	1,243	0.3	612	2.1	375	2.5	221	0.9	214	2.0	365	3.5	954	2.8	211	11.8	44	12.8	508	0.4		
17	4,623	0.9	1,368	3.2	631	4.5	220	3.6	356	3.4	161	2.8	1,232	0.9	602	1.6	372	0.8	223	1.2	213	0.5	357	2.0	939	1.6	201	5.0	44	0.4	497	2.2		
18	4,599	0.5	1,324	3.2	603	4.5	203	7.7	350	1.6	168	4.1	1,218	1.1	596	1.0	367	1.3	220	0.6	218	2.2	361	0.9	951	1.3	196	2.5	44	0.5	495	0.4		
19年1月	346	3.5	98	5.9	47	4.2	14	9.2	25	7.4	12	5.4	94	4.6	44	7.9	29	0.2	17	4.3	16	1.0	25	1.4	58	3.3	16	3.6	2.5	16.8	36	2.0		
2	351	0.7	99	6.6	45	3.7	16	9.3	26	9.7	11	7.0	94	3.7	44	5.5	31	4.4	16	9.9	18	2.5	29	0.2	64	1.0	17	9.9	3.2	11.5	38	1.5		
3	420	0.3	115	4.2	50	2.1	19	7.5	31	7.6	15	0.6	106	1.4	50	3.7	34	3.7	19	2.1	21	4.7	33	1.7	79	2.7	21	10.7	4.0	10.2	43	4.5		
4	421	5.4	115	1.3	48	3.7	20	3.2	32	2.2	15	2.1	107	1.6	51	2.5	34	8.7	19	1.7	20	4.6	32	2.5	77	7.6	19	7.7	5.3	2.6	41	3.8		
5	373	1.2	110	2.6	49	1.5	20	1.0	28	10.1	14	5.8	107	1.5	52	0.1	33	4.2	18	0.0	19	12.5	29	2.2	75	1.5	18	2.9	5.3	1.7	37	1.4		
6	378	0.3	108	0.4	50	0.3	19	2.0	26	0.4	14	2.2	103	1.9	49	4.0	33	2.0	18	2.4	18	8.8	29	1.7	78	5.2	18	0.5	5.6	7.3	39	0.4		
7	371	1.4	111	4.0	52	2.2	18	6.4	26	4.0	15	7.7	105	1.9	50	2.0	34	7.2	19	1.3	17	5.8	30	1.0	79	0.8	13	7.2	6.5	11.2	37	0.3		
8	378	1.4	106	2.5	52	2.0	12	0.3	28	2.1	14	7.6	96	0.1	46	4.3	31	5.2	19	3.5	18	5.9	30	0.7	74	2.0	12	6.6	4.6	15.7	37	4.8		
9	395	0.1	101	2.4	46	2.4	12	6.5	28	2.2	15	0.4	98	0.9	46	4.5	31	4.8	18	1.2	17	3.2	30	0.5	70	8.7	15	1.1	3.1	22.0	38	7.8		
10	413	9.9	115	4.0	51	2.0	16	5.2	33	5.1	15	7.2	103	0.4	48	3.2	32	5.9	19	0.3	19	1.4	32	7.5	77	0.6	16	6.7	2.8	40.8	44	1.7		
11	396	1.5	117	1.8	51	0.2	17	1.4	34	7.8	14	5.2	99	0.1	47	2.9	31	5.7	18	2.5	21	5.0	33	8.1	85	0.8	16	2.5	2.1	13.1	45	2.1		
12	429	1.0	124	1.2	56	2.2	16	3.9	37	9.2	15	1.2	98	0.2	47	1.1	31	3.3	18	2.6	22	6.6	33	0.5	105	1.6	16	2.1	2.1	27.3	46	1.8		
19年計	4,672	1.2	1,319	0.3	596	1.1	195	2.0	354	1.1	170	1.5	1,211	0.6	575	3.4	384	4.6	219	1.3	225	3.1	366	1.4	921	2.1	198	3.4	47.1	7.0	481	2.9		

資料：農林水産省「米麦加工食品生産動態等調査」

注：1) FYは4月～翌年3月、CYは1月～12月である。

2) 対前年増減率は、トン単位の率である。

3) 生産量は、めん類(マカロニ類を含む。)、パンにあっては原料小麦使用重量、その他にあっては製品重量である。但し、マカロニ類の50年以前は製品千トンである。

4) 生めん、乾めん、即席めんについては、45・50年はFY、55年以降はCYである。

5) プレミックスは、加糖、無糖の計である。

6) 麦茶の生産量は、年計にあっては、工場実態調査、月別生産量にあっては全国麦茶工業組合調べである。

5 小麦粉及び精麦の用途別生産量の推移

(1) 小麦粉

(単位：製品千トン、%)

年 度	パン用		めん用		菓子用		工業用		家庭用		その他		合計	
	生産量	対前年比	生産量	対前年比	生産量	対前年比	生産量	対前年比	生産量	対前年比	生産量	対前年比	生産量	対前年比
平成8	1,862	3.6	1,722	1.4	616	2.2	87	7.4	171	3.4	512	0.4	4,970	0.5
9	1,875	0.7	1,679	2.5	592	3.9	83	4.6	160	6.4	513	0.2	4,902	1.4
10	1,894	1.0	1,667	0.7	579	2.2	89	7.2	152	5.0	492	4.1	4,873	0.6
11	1,949	2.9	1,681	0.8	596	2.9	84	5.6	151	0.7	487	1.0	4,948	1.5
12	1,972	1.2	1,654	1.6	589	1.2	80	4.8	141	6.6	490	0.6	4,927	0.4
13	1,981	0.5	1,631	1.4	602	2.2	78	2.5	139	1.4	479	2.2	4,909	0.4
14	1,961	1.0	1,636	0.3	594	1.3	79	1.3	149	7.2	490	2.3	4,909	0.0
15	2,012	2.6	1,646	0.6	607	2.2	80	1.3	149	0.0	498	1.6	4,992	1.7
16	2,004	0.4	1,635	0.7	604	0.5	80	0.0	151	1.3	491	1.4	4,965	0.5
17	2,017	0.6	1,594	2.5	592	2.0	79	1.3	138	8.6	484	1.4	4,904	1.2
18	2,012	0.2	1,591	0.2	584	1.4	77	2.5	145	5.1	490	1.2	4,899	0.1

資料：農林水産省「製粉工場実態調査」
注：加工貿易相当分を含む。

(2) 精麦

(単位：製品千トン、%)

年 度	主食用		焼酎用		みそ用等		合計	
	生産量	対前年比	生産量	対前年比	生産量	対前年比	生産量	対前年比
平成8	18.7	5.1	82.1	8.6	37.2	6.3	137.9	5.8
9	17.2	7.6	89.0	8.4	35.3	5.0	141.6	2.6
10	18.1	5.0	86.4	2.9	33.4	5.5	137.9	2.6
11	18.7	3.6	102.8	19.0	32.4	2.8	154.0	11.7
12	19.5	3.9	110.5	7.5	31.2	3.7	161.2	4.7
13	20.7	6.2	114.6	3.7	29.0	7.2	164.3	1.9
14	19.8	4.0	128.3	11.9	28.5	1.6	176.6	7.5
15	20.4	3.0	140.1	9.0	28.3	0.0	189.1	7.0
16	21.4	4.9	162.0	15.6	28.1	0.7	211.5	11.8
17	21.4	0.0	152.6	6.0	26.7	5.0	200.8	5.0
18	22.2	4.0	147.5	3.0	25.9	3.0	195.7	3.0

資料：農林水産省「製粉・精麦・麦茶工場需給実績報告」

6 麦加工食品の輸入量の推移

(単位：トン、%)

年 月	品目 項目 換算 レート	麦加工食品															
		小麦粉調製品						マカロニ スパゲッティ		ビスケット		ケーキミックス		パン・乾パン類		うどん及び そうめん	
		加糖のもの			無糖のもの			数 量	対前年 (同月) 増減率	数 量	対前年 (同月) 増減率	数 量	対前年 (同月) 増減率	数 量	対前年 (同月) 増減率	数 量	対前年 (同月) 増減率
		数 量	対前年 (同月) 増減率	数 量	対前年 (同月) 増減率	数 量	対前年 (同月) 増減率										
昭和50	297							757	53.2	3,779	11.4	191	107.6	52	29.0	3,098	15.3
55	228							8,067	2.9	4,130	17.1	282	63.2	824	9.0	1,363	21.2
60	240							25,725	14.2	6,604	17.8	79	9.2	1,580	31.4	442	24.6
平成2	145	92,841	7.2	87,192	7.9	5,649	5.6	41,644	3.2	5,322	35.6	2,350	56.9	2,988	13.4	943	35.2
7	94	111,426	14.0	94,725	10.8	16,700	35.8	63,172	13.7	15,823	60.7	9,110	119.4	3,474	31.9	674	32.6
9	119	118,704	2.8	99,180	3.5	19,523	0.4	74,767	5.2	10,421	5.3	12,537	41.2	4,871	9.3	367	24.0
10	132	106,797	10.0	84,775	14.5	22,022	12.8	81,139	8.5	9,402	9.8	9,748	22.2	7,484	53.6	1,459	297.5
11	116	108,434	1.5	83,513	1.5	24,921	13.2	85,858	5.8	9,620	2.3	9,826	0.8	6,764	9.6	1,914	31.2
12	107	117,636	8.5	91,588	9.7	26,048	4.5	95,099	10.8	10,826	12.5	10,784	9.7	6,523	3.6	2,162	13.0
13	121	126,425	7.5	99,039	8.1	27,386	5.1	92,675	2.5	13,185	21.8	10,502	2.6	7,326	12.3	2,731	26.3
14	126	130,848	3.5	102,025	3.0	28,823	5.2	101,415	9.4	14,755	11.9	11,068	5.4	6,927	5.5	2,652	2.9
15	116	132,603	1.3	101,406	0.6	31,197	8.2	107,755	6.3	20,657	39.9	8,916	19.4	7,944	14.7	2,222	16.2
16	108	136,256	2.8	98,128	3.2	38,128	22.2	111,527	3.5	25,182	21.9	8,354	6.3	9,052	14.0	1,521	31.6
17	110	139,802	2.6	98,236	0.1	41,567	9.0	109,603	1.7	23,937	4.9	9,520	14.0	9,500	5.0	1,824	19.9
18	116	138,510	0.9	99,408	1.2	39,102	5.9	109,791	0.2	24,480	2.3	5,888	38.1	10,055	5.8	1,681	7.8
19年1月	119	11,554	4.0	8,918	0.6	2,637	13.8	8,928	14.8	1,884	2.4	618	2.1	703	6.3	45	52.1
2	121	10,788	2.9	7,198	3.4	3,590	18.5	7,523	17.8	1,651	26.7	522	55.1	577	10.5	118	24.8
3	118	9,761	21.0	7,461	12.8	2,300	39.5	8,343	0.7	2,160	12.1	498	28.4	599	26.4	181	107.6
4	118	8,224	21.3	6,489	17.1	1,734	34.0	8,583	18.7	2,037	6.4	574	9.9	584	11.3	147	39.9
5	120	10,543	0.1	7,747	0.4	2,796	1.5	10,572	23.7	2,367	0.2	484	1.1	643	19.5	361	64.0
6	122	8,710	18.4	5,758	25.2	2,953	0.7	7,429	27.4	2,075	10.7	345	35.4	782	22.8	292	41.6
7	123	9,254	15.1	6,667	14.8	2,587	15.7	9,336	1.6	2,156	7.2	477	26.5	955	13.6	261	34.6
8	119	8,355	28.7	6,523	23.6	1,832	42.5	11,270	12.1	1,579	24.1	473	23.6	712	0.4	108	50.6
9	115	8,515	20.8	6,435	18.4	2,080	27.4	7,099	20.5	1,597	16.7	285	43.7	706	5.4	77	9.0
10	116	10,156	18.3	7,694	16.2	2,462	24.2	8,863	10.9	1,729	25.5	521	33.3	572	37.1	67	33.5
11	114	10,868	21.1	8,285	5.4	2,582	48.5	8,491	10.1	2,058	7.1	802	51.8	587	47.0	87	36.3
12	111	10,292	16.9	7,500	16.7	2,792	17.6	7,975	17.9	1,811	2.8	798	41.1	646	35.0	31	79.0
1～12月計	118	117,020	15.5	86,675	12.8	30,346	22.4	104,411	4.9	23,105	5.6	6,398	8.7	8,065	19.8	1,775	5.6

資料：財務省「貿易統計」

注：1) 通関レートは、税関長公示レートの月平均、年平均(小数点以下を四捨五入)。

2) 小麦粉調製品は、63年より統計上区分された。

3) 50年の「うどん及びそうめん」は、「めん類(その他のもの)」の数字である。

7 麦加工食品の輸出量の推移

(参考) 大臣証明制度による麦加工食品の輸出量の推移

(単位：トン、%)

(単位：トン)

品目 項目 年月 換算 レート	小麦粉,小麦 (ひき割,ミル,スリット)		小麦粉調製品 (ケーキミックスを含む)		加工食品														
					マカロニ スパゲッティ		うどん及び そうめん		ビスケット (スイート)		その他の ベーカリー製品等		しょうゆ		インスタント ラーメン		みそ		
	数量	対前年 (同月) 増減率	数量	対前年 (同月) 増減率	数量	対前年 (同月) 増減率	数量	対前年 (同月) 増減率	数量	対前年 (同月) 増減率	数量	対前年 (同月) 増減率	数量	対前年 (同月) 増減率	数量	対前年 (同月) 増減率	数量	対前年 (同月) 増減率	
昭和50	297	27,203	45.0	478	10.0	734	139.0	1,099	31.0	639	12.0	-	-	4,628	34.0	6,806	21.0	800	34.0
55	228	99,118	37.4	1,401	14.1	2,696	46.3	1,644	31.7	1,053	17.8	-	-	7,307	20.0	8,898	14.7	1,379	7.6
60	240	194,495	19.5	1,259	32.2	2,995	3.3	2,261	10.1	1,498	5.5	-	-	9,307	8.0	7,326	5.5	1,869	1.5
平成2	445	313,617	4.9	1,224	19.9	4,476	7.9	5,041	66.9	2,220	7.6	7,461	25.3	10,009	18.9	4,733	10.7	2,781	15.2
7	94	323,029	4.6	1,491	28.6	2,682	9.1	5,431	23.3	1,307	22.0	7,356	3.1	9,854	19.4	6,015	28.4	3,625	5.6
9	119	267,170	10.3	2,280	26.2	1,911	21.7	5,914	21.0	1,580	5.3	8,056	16.8	10,715	6.9	8,056	15.2	4,234	6.2
10	132	270,747	1.3	1,599	29.9	1,548	19.0	5,652	4.4	1,900	20.3	8,349	3.6	10,984	2.5	8,381	4.0	4,531	7.0
11	116	334,594	23.6	1,421	11.1	661	57.3	5,621	0.5	1,644	13.5	8,653	3.6	10,296	6.3	8,614	2.8	5,175	14.2
12	107	309,594	7.5	1,202	15.4	376	43.1	6,401	13.9	1,028	37.5	8,285	4.3	10,527	2.2	9,235	7.2	5,797	12.0
13	121	321,028	3.7	1,065	11.4	315	16.2	6,429	0.4	967	6.0	8,397	1.4	11,778	11.9	8,920	3.4	6,182	6.6
14	126	319,880	0.4	1,458	36.9	253	19.6	7,302	13.6	954	1.3	8,148	3.0	12,348	4.8	9,052	1.5	6,162	0.3
15	116	318,700	0.4	1,545	6.0	410	62.1	6,582	9.9	1,052	10.4	8,220	0.9	14,379	2.7	8,743	3.4	6,425	15.7
16	108	304,465	4.5	1,791	16.0	328	20.1	7,719	17.3	769	26.9	9,328	13.5	15,373	6.9	8,288	5.2	7,278	13.3
17	110	289,911	4.8	2,317	29.4	1,054	221.3	7,863	1.9	719	6.6	12,274	31.6	17,368	13.0	8,445	1.9	7,755	6.6
18	116	289,997	0.0	2,442	5.4	1,196	13.4	10,065	28.0	762	6.1	13,120	6.9	19,335	11.3	9,091	7.7	8,747	12.8
19年 1月	119	19,959	5.6	171	33.3	97	17.7	911	85.8	103	155.5	1,224	54.3	1,299	1.6	674	9.9	699	19.0
2	121	23,074	5.6	193	15.4	112	36.3	1,172	60.6	64	17.0	848	8.6	1,241	6.3	626	19.3	704	3.9
3	118	25,637	11.9	307	52.0	132	83.5	1,099	67.6	93	107.3	1,058	8.2	1,733	5.6	816	11.8	668	18.2
4	118	22,561	3.9	217	14.7	49	47.0	862	4.6	82	11.3	1,122	4.3	1,415	14.1	864	25.8	738	10.1
5	120	24,275	3.1	223	14.8	93	9.6	1,040	41.2	102	147.0	1,132	7.3	1,546	0.9	841	5.3	645	14.9
6	122	22,223	12.2	285	41.5	71	38.9	966	38.0	90	41.8	1,244	8.9	1,913	8.3	824	13.8	656	9.3
7	123	20,669	12.9	208	56.4	96	20.9	985	12.0	67	42.6	1,108	0.4	1,540	1.6	618	15.0	711	12.5
8	119	20,293	16.2	238	15.0	93	13.2	956	7.9	86	61.0	1,152	13.6	1,503	8.2	615	8.7	682	17.5
9	115	19,275	20.6	215	6.0	132	29.6	998	2.3	116	45.7	1,371	21.3	1,588	4.8	748	13.9	738	3.2
10	116	21,111	5.8	295	23.1	87	22.1	1,154	30.0	101	3.4	1,476	19.4	2,136	26.1	783	2.0	1,040	46.7
11	114	18,966	18.5	526	147.8	83	14.9	1,200	7.0	86	17.9	1,393	21.3	1,731	11.2	942	10.8	698	10.1
12	111	17,334	31.0	272	8.8	105	40.1	1,217	15.7	109	60.6	1,559	17.2	2,265	15.6	847	0.6	672	0.3
1~12月	118	255,377	11.9	3,151	29.1	1,150	3.8	12,561	24.8	1,098	44.1	14,688	12.0	19,909	3.0	9,200	1.2	9,252	5.8

資料：財務省「貿易統計」

注：1) 通関レートは、税関長公示レートの月平均、年平均(小数点以下を四捨五入)。

2) その他のベーカリー製品は、63年より統計上区分された。

3) しょうゆは、昭和50、55、60、平成2年はリットル単位である。なお、平成8年の対前年比はリットル単位と比較している。

区分 年度	小麦粉	マカロニ・ スパゲッティ	ビスケット
平成8	295,495	2,411	1,537
9	263,822	1,843	1,465
10	275,173	1,170	1,038
11	322,919	518	895
12	316,450	341	852
13	321,832	284	1,036
14	320,898	218	710
15	317,882	257	608
16	292,662	288	646
17	294,303	1,145	621

資料：農林水産省調べ

注：1) 麦加工食品の輸出については、その太宗が大臣証明制度を利用した製品輸出となっているため、上記数量は、財務省「日本貿易統計」の数量とほぼ同数となっている。

2) 大臣証明制度は、輸出貨物の製造に使用される原材料等を輸入する場合、食糧法及び関税暫定措置法の規定に基づき農林水産大臣の証明を受けることにより、関税相当量(納付金及び関税)が免除される制度である。

8 中小製粉企業における地元産小麦の活用事例等

(1) 小麦関連食料産業クラスターの活用事例

県名	事業者	コア企業等	開発製品	実施内容等
栃木県	栃木県食品産業協会	笠原産業	国産小麦粉使用の中華麺	栃木産醤油用小麦「タマイズミ」の高タンパク性を利用した中華麺「タマイズミラーメン」の開発。
長野県	長野県食品産業協会	柄木田製粉 日穀製粉	県産硬質系小麦使用のパン、めん	県産硬質系小麦（ユメアサヒ、ハナマンテン）の生産技術の確立と産地拡大、強力小麦粉の統一ブランド開発による製パン、製麺業者との製品開発、販路拡大、ブランド化、及び生産地域での特産品の創設。
兵庫県	兵庫県食品産業協会	兵庫県小麦製粉協同組合 (増田製粉所)	県産小麦を使用した地粉うどん	県産小麦シロガネを使用した生うどん、茹でうどんを開発。
山口県	山口県食品産業協会	山口県製粉協議会 (古磯製粉、嘉川興業)	県産農水産物を使用したオリジナルパン	県産小麦「ニシノカオリ」の生地に県産農水産物をペースト状にして練りこんだ学校給食用のオリジナルパンを開発。
福岡県	福岡県食品産業協議会	熊本製粉 福岡県生麺協同組合連合会	県産穀物使用の薬膳パン、弁当、新博多ラーメン	県産穀物（米、麦、大豆等）を原料に健康に役立つ高付加価値食品を開発。

(2) 国産小麦に関連した生産者、加工業者、消費者、行政（地域公共団体）が一体となった取組事例

県名	事業等の名称	実施者	取組内容	製品化等の状況
北海道	江別麦の会	製粉業者：江別製粉 その他：JA、道立食品加工研究センター、酪農学園大学、株式会社菊水、江別市等	・ハルコタカの農業者向け技術講習会の開催 ・平成11年に香川県小豆島の製麺会社と江別産小麦を使ったそうめんを共同開発	品名（商品名）：そうめん（北こがね）
福島県	新品種「ゆきちから」における関係者の連携と情報交換	製粉業者：東北製粉協同組合 その他：生産者、県農業研究センター、製麺、製パン団体等	・新品種の作付け拡大と消費拡大を図るため、県農業研究センターを中心に情報交換会、二次加工品の試食会を実施。	品名（商品名）：ゆきちからを使用したパン、麺
栃木県	栃木県産小麦消費拡大事業	(麦わら帽子の会) 製粉業者：笠原産業 その他：製麺業者、パン製造業者、菓子製造業者等	・消費宣伝活動の一体的な展開 ・統一的なブランド化の展開 ・情報の収集、発信活動	品名（商品名）：うどん（麦わらぼうし）、カステラ（朝香花カステラ）
静岡県	地域と連携したそうめんの開発	製粉業者：寺彦製粉 その他：地元営農組合、町役場、醤油製造業者、乾麺製造業者	・地元農家で栽培された小麦（農林61号）、駿河湾深層水の塩など、地域素材のこだわった商品開発。	品名（商品名）：『「うめぞこれは」そうめんとそうめんつゆ』
香川県	さぬきうどん用小麦の開発からブランド化の推進	製粉業者：吉原食糧（県製粉製麺組合） その他：JA、さぬきうどん協同組合、香川県等	・さぬきの夢2000のブランド化 ・さぬきの夢2000の特性を紹介する講習会の実施 ・さぬきの夢2000こだわり店の認証	品名（商品名）：さぬきうどん用小麦「さぬきの夢2000」を使用したうどん

(3) 国産小麦を使用した商品の概要

製粉企業名等	県名	使用国産小麦の銘柄	商品名	商品概要
株式会社 菊水 (江別製粉)	北海道	北海道産ハルコタカ 北海道産ホロシロコムギ	江別小麦ラーメン	江別市内で生産されている数種類の小麦と「初冬蒔き」で全国的に名を馳せた江別産ハルコタカをラーメン専用の配合でブレンドし、ツルツル・もちもちとした食感と小麦の香り豊かな100%江別産のラーメン。
曾我製粉	群馬県	群馬県産W8号	レトロバケット	群馬県産W8号を100%使用したバケットタイプのパン。 子会社の焼きたてパン専門店「ペーカーストリート」前橋北店で、日・月・木・金に販売。
紅葉堂 (前田食品)	埼玉県	埼玉県産あやひかり 埼玉県産農林61号	嵐山ゆずカステラ	嵐山町と(株)紅葉堂が地産地消を合言葉に嵐山町の特産品として共同開発したもので、原料には、地元産のゆず、県内産の小麦を使用。
吉原食糧	香川県	香川県産さぬきの夢2000	サククリ+ハーブなスペイン菓子 全粒のビスコティ	口だけの優しさ、香りの美味しさ、健康をコンセプトに女性向けに開発。 「さぬきの夢2000」100%の石臼挽き小麦粉、もしくは石臼挽き全粒粉を使用。

生産関係

1 麦種別作付面積、単収、収穫量の推移

(単位：千ha、kg/10a、千トン)

年産	麦種 区分	4 麦 計		小 麦		二条大麦			六条大麦			はだか麦			
		作付面積	収穫量	作付面積	10a 当たり 収 量	収穫量	作付面積	10a 当たり 収 量	収穫量	作付面積	10a 当たり 収 量	収穫量	作付面積	10a 当たり 収 量	収穫量
昭和25		1,784	3,298	764	175	1,338			429	209	897	591	180	1,063	
30		1,659	3,875	663	221	1,468			434	265	1,148	562	224	1,260	
35		1,440	3,831	602	254	1,531	83	279	231	319	305	975	436	251	1,095
40		898	2,521	476	270	1,287	113	281	318	132	305	403	177	290	513
45		455	1,046	229	207	474	99	271	269	46	320	148	80	193	155
48		155	419	75	270	202	48	262	124	14	332	47	18	246	45
50		168	462	90	269	241	50	276	137	11	334	37	17	271	47
55		313	968	191	305	583	85	317	269	19	325	63	18	296	53
58		353	1,075	229	303	695	84	297	249	27	343	91	14	291	39
59		349	1,136	232	319	741	82	362	295	24	241	58	11	383	43
60		347	1,252	234	374	874	80	331	264	23	331	76	10	366	38
61		353	1,220	246	357	876	76	329	249	22	295	65	10	314	30
62		383	1,217	271	319	864	76	312	237	27	330	89	8	317	27
63		396	1,420	282	362	1,021	74	356	265	31	339	105	9	340	29
平成元		397	1,356	284	347	985	76	344	260	29	298	86	9	296	25
2		366	1,297	260	365	952	74	344	254	25	282	69	8	298	23
3		334	1,042	239	318	759	68	303	207	21	300	63	6	225	14
4		299	1,045	215	354	759	63	357	225	17	291	49	4	269	12
5		261	921	184	347	638	61	375	228	13	328	44	3	375	12
6		214	790	152	372	565	55	362	200	4	345	14	3	356	12
7		210	662	151	293	444	51	375	192	4	324	12	4	358	14
8		216	711	159	302	478	46	411	190	7	374	26	4	438	18
9		215	766	158	364	573	44	337	148	9	334	29	5	332	17
10		217	713	162	351	570	39	273	107	10	253	26	5	199	11
11		221	788	169	345	583	37	411	151	10	338	35	5	392	20
12		237	903	183	376	688	37	419	154	11	336	38	5	409	22
13		257	906	197	355	700	40	351	139	15	320	48	6	328	20
14		272	1,047	207	401	829	41	334	136	18	348	61	6	325	20
15		276	1,054	212	403	856	40	312	123	18	312	57	6	312	18
16		272	1,059	213	405	860	37	355	132	18	291	51	5	306	16
17		268	1,058	214	410	875	35	357	124	16	303	47	5	267	12
18		272	1,012	218	384	837	34	347	118	15	278	43	4	303	13
19		264	1,105	210	434	910	35	373	129	16	334	53	4	356	14
増減率 (%)	(19/48)	170	264	280	161	450	73	142	104	114	101	113	22	145	31
	(19/元)	66	81	74	125	92	46	108	50	55	112	62	44	120	56
	(19/18)	97	109	96	113	109	103	107	109	107	120	123	100	117	108

資料：農林水産省「作物統計」による。なお、平成19年産の数値は、「平成19年産4麦の収穫量（概数）」（平成19年11月30日公表）による。

注：1）30年以前の六条大麦欄は二条大麦を含む数値である。

2）四捨五入の関係で、4麦計と内訳の計が一致しない場合がある。

2 地域別、田畑別作付面積と収穫量

(1) 4麦計

田畑	地域	項目 年産	作付面積(100ha)						収穫量(玄麦千トン)							
			昭和60	平成2	7	12	17	18	19	昭和60	平成2	7	12	17	18	19
田 作	北海道		276	291	84	202	264	274	268	110	98	16	39	97	83	...
	東北		110	134	25	61	93	88	88	31	36	...	16	16	17	...
	北陸		92	136	4	51	69	70	76	26	31	...	17	17	20	...
	関東・東山		599	629	376	361	387	377	346	217	231	...	152	148	133	...
	東海		78	133	60	111	142	143	144	22	37	...	39	44	39	...
	近畿		66	120	36	78	93	96	97	21	34	...	22	24	26	...
	中国		84	85	35	37	40	41	39	29	27	...	15	13	15	...
	四国		156	132	46	41	44	44	38	62	43	...	18	12	14	...
	九州		911	755	471	456	539	543	533	294	252	...	198	205	200	...
	全 国		2,371	2,415	1,137	1,396	1,671	1,673	1,629	813	790	412	516	575	546	...
畑 作	北海道		708	953	827	857	915	955	926	315	416	202	347	451	440	...
	東北		42	44	17	13	10	8	8	14	14	...	4	2	1	...
	北陸		7	5	3	3	5	5	5	2	1	...	1	1	x	...
	関東・東山		217	175	92	77	66	63	57	75	57	...	28	24	18	...
	東海		6	6	3	3	3	3	3	2	2	...	1	1	1	...
	近畿		1	1	0	0	0	0	0	0	0	...	0	0	0	...
	中国		7	5	3	2	1	1	1	2	2	...	1	0	0	...
	四国		5	3	1	1	1	1	1	2	1	...	0	0	0	...
	九州		104	57	18	13	12	12	11	28	15	...	5	4	4	...
	全 国		1,098	1,249	965	969	1,012	1,048	1,011	439	508	250	387	483	465	...
計	北海道		984	1,244	912	1,059	1,179	1,229	1,194	425	515	218	386	548	523	588
	東北		152	177	42	74	103	96	96	45	50	11	20	18	19	20
	北陸		99	141	7	54	74	75	81	29	33	2	17	18	21	29
	関東・東山		816	805	468	438	453	440	403	292	288	193	180	172	151	131
	東海		84	139	63	114	145	146	146	23	39	18	40	45	39	46
	近畿		67	121	37	78	94	96	98	21	34	10	22	24	26	28
	中国		91	90	38	38	41	42	40	31	29	16	16	13	15	16
	四国		161	136	47	41	45	44	39	64	44	18	18	12	14	14
	九州		1,015	812	489	469	551	554	543	323	267	176	203	209	203	234
	全 国		3,469	3,664	2,102	2,366	2,683	2,721	2,640	1,252	1,297	662	903	1,058	1,012	1,105

資料：農林水産省「作物統計」による。なお、平成19年産の数値は、田作及び畑作欄については、「平成19年産麦類の作付面積」（平成19年10月31日公表）、計欄については「平成19年産4麦の収穫量（概数）」（平成19年11月30日公表）による。田作・畑作別の収穫量については、平成18年産をもって調査が廃止された。

注：1）地域別の積上げと計がラウンドの関係から必ずしも一致しない場合がある。

2）「-」は事実のないもの、「...」は事実不詳又は調査を欠くもの、「」は個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値は公表しないものである。

(2) 小麦

田畑	地域	項目 年産	作付面積(100ha)						10a当たり収量(玄麦kg)						収穫量(玄麦千トン)								
			昭和60	平成2	7	12	17	18	19	昭和60	平成2	7	12	17	18	19	昭和60	平成2	7	12	17	18	19
田作	北海道		276	290	84	201	263	273	268	398	339	188	191	367	303	...	110	98	16	38	97	83	...
	東北		75	87	16	42	79	75	75	264	251	...	258	151	177	...	20	22	...	11	12	13	...
	北陸		9	9	0	0	0	×	×	268	180	...	100	×	×	...	2	2	...	0	×	×	...
	関東・東山		362	358	192	209	220	215	191	385	373	...	419	383	371	...	139	133	...	88	84	80	...
	東海		74	130	59	110	140	140	140	277	282	296	355	308	272	...	21	37	17	39	43	38	...
	近畿		55	112	33	71	85	87	88	319	282	...	279	250	264	...	18	32	...	20	21	23	...
	中国		24	24	6	9	12	12	13	309	248	...	373	292	292	...	7	6	...	3	4	4	...
	四国		40	43	14	7	16	17	16	408	369	...	414	287	320	...	16	16	...	3	5	5	...
	九州		540	451	233	276	364	372	351	318	328	...	437	400	385	...	172	148	...	121	146	143	...
全	国		1,454	1,504	637	925	1,180	1,191	1,140	347	328	351	349	348	327	...	505	493	224	323	411	389	...
畑作	北海道		669	918	793	831	892	932	903	448	439	242	409	497	463	...	300	403	192	340	444	431	...
	東北		26	29	12	11	9	7	7	317	290	...	275	168	168	...	8	8	...	3	2	1	...
	北陸		1	0	0	0	0	0	×	297	192	...	100	×	×	...	0	0	...	0	×	×	...
	関東・東山		132	113	60	54	44	43	38	342	322	...	357	354	301	...	45	36	...	19	16	13	...
	東海		6	6	3	3	3	3	3	273	274	272	338	336	294	...	2	2	1	1	1	1	...
	近畿		0	1	0	0	0	0	0	221	254	...	259	205	176	...	0	0	...	0	0	0	...
	中国		3	3	1	1	0	0	0	285	312	...	286	234	179	...	1	1	...	0	0	0	...
	四国		1	1	0	0	0	0	0	301	279	...	330	264	295	...	0	0	...	0	0	0	...
	九州		48	28	6	6	6	5	5	273	266	...	360	331	337	...	13	7	...	2	2	2	...
全	国		886	1,099	876	906	955	992	957	417	417	251	403	486	452	...	369	458	220	365	464	448	...
計(平均)	北海道		945	1,209	877	1,032	1,155	1,205	1,171	433	414	236	366	468	427	495	409	501	207	378	540	514	580
	東北		101	116	28	53	88	82	82	276	261	258	261	152	177	197	28	30	7	14	13	15	16
	北陸		9	9	0	0	0	×	×	270	179	400	100	×	×	157	3	2	0	0	×	×	×
	関東・東山		494	470	252	263	264	257	228	374	362	416	406	378	360	336	185	170	105	107	100	93	77
	東海		80	136	62	113	143	142	143	278	281	295	354	308	274	311	22	38	18	40	44	39	45
	近畿		56	113	33	71	85	87	88	318	281	275	280	249	263	286	18	32	9	20	21	23	25
	中国		27	27	7	9	13	13	13	306	257	355	368	291	289	343	8	7	3	3	4	4	4
	四国		42	44	14	8	16	17	16	407	366	418	411	286	319	367	17	16	6	3	5	5	6
	九州		587	479	238	281	370	378	356	315	324	370	437	399	383	442	185	155	88	123	148	145	157
全	国		2,340	2,604	1,513	1,830	2,135	2,183	2,097	374	365	293	376	410	384	434	874	952	444	688	875	837	910

資料：農林水産省「作物統計」による。なお、平成19年産の数値は、田作及び畑作欄については、「平成19年産麦類の作付面積」（平成19年10月31日公表）、計欄については「平成19年産4麦の収穫量（概数）」（平成19年11月30日公表）による。田作・畑作別の10a当たり収量及び収穫量については、平成18年産をもって調査が廃止された。

注：1）地域別の積上げと計がラウンドの関係から必ずしも一致しない場合がある。

2）「-」は事実のないもの、「...」は事実不詳又は調査を欠くもの、「」は個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値は公表しないものである。

(3) 二条大麦

田畑	地域	項目 年産	作付面積(100ha)						10a当たり収量(玄麦kg)						収穫量(玄麦千トン)								
			昭和60	平成2	7	12	17	18	19	昭和60	平成2	7	12	17	18	19	昭和60	平成2	7	12	17	18	19
田作	北海道		1	1	1	1	1	1	1	354	322	290	228	265	277	...	0	0	0	0	0	0	...
	東北		-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	29	-	-	...	-	-	-	0	-	-	...
	北陸		-	-	-	0	0	x	x	-	-	-	173	117	x	...	-	-	-	0	0	x	...
	関東・東山		187	240	174	127	123	120	115	314	358	...	429	382	348	...	59	86	...	55	47	42	...
	東海		4	1	0	0	0	0	0	274	252	253	291	267	200	...	1	0	0	0	0	0	...
	近畿		6	5	1	1	1	1	2	332	262	...	302	259	306	...	2	1	...	0	0	0	...
	中国		57	58	28	25	26	26	24	362	350	...	448	347	405	...	21	20	...	11	9	11	...
	四国		47	25	4	0	0	x	0	379	308	...	430	261	x	...	18	8	...	0	0	x	...
	九州		359	301	232	165	162	158	169	331	341	...	435	344	336	...	119	103	...	72	56	53	...
全	国		660	631	440	320	313	306	311	332	346	381	433	359	347	...	219	218	168	139	113	106	...
畑作	北海道		38	35	34	26	23	23	22	387	389	312	284	330	387	...	15	14	11	7	7	9	...
	東北		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	0	-	-	...
	北陸		-	-	-	-	-	-	x	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	0	-	-	...
	関東・東山		50	45	26	14	6	6	x	331	321	...	382	360	253	...	17	14	...	5	2	2	...
	東海		0	0	-	0	0	0	0	281	300	-	200	5	45	...	0	0	-	0	0	0	...
	近畿		0	0	0	0	0	0	0	329	257	150	165	...	0	0	...	0	0	0	...
	中国		1	1	2	1	1	1	x	313	343	...	354	318	370	...	0	0	...	0	0	0	...
	四国		1	0	0	0	0	0	0	335	289	...	375	212	250	...	0	0	...	0	0	0	...
	九州		46	27	12	6	5	5	5	274	272	...	380	340	304	...	13	7	...	2	2	2	...
全	国		136	107	74	47	35	35	35	328	333	339	327	335	347	...	45	36	25	15	12	12	...
計(平均)	北海道		39	36	35	27	23	23	23	387	388	310	282	329	385	344	15	14	11	8	8	9	8
	東北		-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-
	北陸		-	-	-	0	0	x	0	-	-	-	173	117	x	190	-	-	-	0	0	x	0
	関東・東山		237	285	200	141	129	126	121	318	352	407	425	382	344	307	75	100	81	60	49	43	37
	東海		4	2	0	0	0	0	0	273	254	253	283	188	83	72	1	0	0	0	0	0	0
	近畿		6	5	1	1	1	1	2	333	260	308	302	259	306	268	2	1	0	0	0	0	0
	中国		58	58	30	26	27	27	25	359	351	451	446	346	407	454	21	20	13	12	9	11	11
	四国		48	26	4	1	0	x	0	379	308	311	422	257	x	392	18	8	1	0	0	x	0
	九州		405	327	243	171	167	163	174	324	336	351	433	346	336	413	131	110	85	74	58	55	72
全	国		796	739	513	367	348	341	345	331	344	375	419	357	347	373	264	254	192	154	132	124	129

資料：農林水産省「作物統計」による。なお、平成19年産の数値は、田作及び畑作欄については、「平成19年産麦類の作付面積」（平成19年10月31日公表）、計欄については「平成19年産4麦の収穫量（概数）」（平成19年11月30日公表）による。田作・畑作別の10a当たり収量及び収穫量については、平成18年産をもって調査が廃止された。

注：1）地域別の積上げと計がラウンドの関係から必ずしも一致しない場合がある。

2）「-」は事実のないもの、「...」は事実不詳又は調査を欠くもの、「」は個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値は公表しないものである。

(4) 六条大麦

田畑	地域	項目 年産	作付面積(100ha)						10a当たり収量(玄麦kg)						収穫量(玄麦千トン)								
			昭和60	平成2	7	12	17	18	19	昭和60	平成2	7	12	17	18	19	昭和60	平成2	7	12	17	18	19
田作	北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	-	-	-	-	...
	東北	35	47	9	18	14	13	13	321	313	...	284	319	315	...	11	15	...	5	4	4	...	
	北陸	83	127	4	51	69	70	76	288	232	242	327	239	286	...	24	30	1	17	17	20	...	
	関東・東山	49	32	10	25	43	42	40	387	378	...	389	390	280	...	19	12	...	10	17	12	...	
	東海	0	0	-	1	2	3	3	245	184	-	332	251	186	...	0	0	-	0	1	1	...	
	近畿	0	1	1	4	5	6	6	245	229	...	335	287	340	...	0	0	...	1	2	2	...	
	中国	1	2	0	0	1	1	1	306	258	...	186	196	121	...	0	0	...	0	0	0	...	
	四国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	-	-	-	...	
九州	1	0	0	0	0	0	0	412	403	...	190	308	145	...	1	0	...	-	0	0	...		
全	国	171	209	24	100	134	134	139	325	272	317	334	298	285	...	56	57	8	33	40	38	...	
畑作	北海道	1	-	-	-	-	-	-	463	-	-	-	-	-	...	0	-	-	-	-	-	...	
	東北	16	15	4	2	1	×	1	329	359	...	297	276	×	...	5	5	...	1	0	×	...	
	北陸	6	4	3	3	4	×	4	309	282	338	272	236	×	...	2	1	1	1	1	×	...	
	関東・東山	34	18	6	9	15	14	14	360	323	...	391	381	231	...	12	6	...	3	6	3	...	
	東海	0	0	-	0	0	0	0	250	220	-	...	279	218	...	0	0	-	0	0	0	...	
	近畿	0	0	0	0	0	0	0	300	313	90	100	...	0	0	...	0	0	0	...	
	中国	1	0	0	0	0	0	0	288	275	292	214	...	0	0	...	0	0	0	...	
	四国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	-	-	-	...	
九州	1	0	0	-	-	-	-	394	393	...	-	-	-	-	...	0	0	...	-	-	-	...	
全	国	58	38	14	14	21	19	19	345	332	334	347	344	222	...	20	13	5	5	7	4	...	
計 (平均)	北海道	1	-	-	-	-	-	-	463	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	
	東北	51	61	14	21	15	14	14	324	324	236	287	315	309	257	17	20	3	6	5	4	4	
	北陸	90	132	7	54	73	74	80	290	233	286	322	240	280	360	26	31	2	17	18	21	29	
	関東・東山	83	50	16	34	58	56	53	376	359	415	389	387	267	315	31	18	7	13	23	15	17	
	東海	0	0	-	1	2	3	3	246	190	-	332	251	186	309	0	0	-	0	1	1	1	
	近畿	0	1	1	4	5	6	6	250	229	306	335	287	340	353	0	0	0	1	2	2	2	
	中国	2	2	0	0	1	1	1	299	262	323	193	196	126	263	1	1	0	0	0	0	0	
	四国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
九州	2	0	0	0	0	0	0	407	403	410	190	308	145	383	1	0	0	0	0	0	0		
全	国	229	246	38	114	155	153	157	331	282	324	336	303	278	334	76	69	12	38	47	43	53	

資料：農林水産省「作物統計」による。なお、平成19年産の数値は、田作及び畑作欄については、「平成19年産麦類の作付面積」（平成19年10月31日公表）、計欄については「平成19年産4麦の収穫量（概数）」（平成19年11月30日公表）による。田作・畑作別の10a当たり収量及び収穫量については、平成18年産をもって調査が廃止された。

注：1）地域別の積上げと計がラウンドの関係から必ずしも一致しない場合がある。

2）「-」は事実のないもの、「...」は事実不詳又は調査を欠くもの、「」は個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値は公表しないものである。

(5) はだか麦

田畑	地域	項目 年産	作付面積(100ha)						10a当たり収量(玄麦kg)						収穫量(玄麦千トン)								
			昭和60	平成2	7	12	17	18	19	昭和60	平成2	7	12	17	18	19	昭和60	平成2	7	12	17	18	19
田作	北海道		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	-	-	-	-	...
	東北		0	-	-	-	-	-	-	297	-	-	-	-	...	0	-	-	-	-	-	-	...
	北陸		-	0	-	-	-	-	-	-	366	-	-	-	...	-	0	-	-	-	-	-	...
	関東・東山		0	0	0	0	0	0	x	360	382	...	505	356	402	...	0	0	...	0	0	0	...
	東海		0	0	0	0	0	0	-	316	262	...	300	220	180	...	0	0	...	0	0	0	...
	近畿		4	2	1	1	2	2	2	328	296	...	269	249	271	...	1	0	...	0	0	1	...
	中国		2	2	0	2	1	1	1	297	236	...	325	247	235	...	1	0	...	1	0	0	...
	四国		68	64	28	33	28	27	23	408	303	380	439	264	322	...	28	20	11	14	7	9	...
九州		11	3	6	15	13	13	13	266	282	...	380	274	283	...	3	1	...	6	4	4	...	
全	国		87	71	36	52	44	43	39	383	300	364	412	267	305	...	33	21	13	21	12	13	...
畑作	北海道		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	-	-	-	-	...
	東北		0	0	-	-	-	-	-	308	313	-	-	-	...	0	0	-	-	-	-	-	...
	北陸		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	-	-	-	-	...
	関東・東山		2	0	0	0	0	0	x	313	323	...	400	223	147	...	1	0	...	0	0	0	...
	東海		0	0	0	0	0	0	0	260	275	...	233	267	181	...	0	0	...	0	0	0	...
	近畿		0	0	0	0	0	0	0	263	287	100	100	...	0	0	...	0	0	0	...
	中国		2	1	0	0	0	0	x	293	253	...	326	269	267	...	1	0	...	0	0	0	...
	四国		3	2	1	0	0	0	0	300	238	281	324	271	279	...	1	0	0	0	0	0	...
九州		10	2	1	2	1	1	1	259	275	...	330	264	217	...	3	1	...	1	0	0	...	
全	国		17	5	2	2	1	1	1	277	261	285	328	265	229	...	5	1	0	1	0	0	...
計(平均)	北海道		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	東北		0	0	-	-	-	-	-	308	313	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-
	北陸		-	0	-	-	-	-	-	-	366	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-
	関東・東山		2	0	0	0	0	0	x	322	381	283	495	350	402	331	1	0	0	0	0	0	x
	東海		0	1	1	0	0	0	0	295	268	196	250	267	181	300	0	0	0	0	x	0	0
	近畿		4	2	1	1	2	2	2	325	296	195	269	249	271	341	1	1	0	0	0	1	1
	中国		4	2	1	3	1	1	x	294	240	248	325	249	238	303	1	1	0	1	0	0	x
	四国		72	66	29	33	28	27	23	404	301	376	438	263	320	367	29	20	11	15	7	9	8
九州		21	5	7	17	14	14	13	264	280	330	374	273	277	344	6	1	2	6	4	4	5	
全	国		104	76	38	54	45	44	40	366	298	358	409	267	303	356	38	23	14	22	12	13	14

資料：農林水産省「作物統計」による。なお、平成19年産の数値は、田作及び畑作欄については、「平成19年産麦類の作付面積」（平成19年10月31日公表）、計欄については「平成19年産4麦の収穫量（概数）」（平成19年11月30日公表）による。田作・畑作別の10a当たり収量及び収穫量については、平成18年産をもって調査が廃止された。

注：1) 地域別の積上げと計がラウンドの関係から必ずしも一致しない場合がある。

2) 「-」は事実のないもの、「...」は事実不詳又は調査を欠くもの、「x」は個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値は公表しないものである。

3 都道府県別・麦種別作付面積（平成17～19年産）

（単位：ha）

年産 種別	平成 17				18				19						
	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦			
北海道	115,500	2,320	-	-	117,900	120,500	2,330	-	122,900	117,100	2,300	-	119,400		
青森	2,410	-	-	-	2,410	2,120	-	2	2,120	2,180	-	1	2,180		
岩手	3,890	-	56	-	3,950	3,640	-	45	3,690	3,650	-	49	3,700		
宮城	1,660	-	1,330	-	2,990	1,670	-	1,280	2,950	1,440	-	1,280	2,720		
秋田	307	-	9	-	316	268	-	12	280	261	-	15	296		
山形	98	-	12	-	108	124	-	10	134	125	-	15	140		
福島	453	-	36	-	492	411	-	54	465	491	-	47	538		
茨城	6,610	977	2,920	-	10,500	5,990	1,050	2,720	9,760	5,190	1,040	2,450	8,670		
栃木	2,900	9,930	1,760	-	14,600	2,990	9,590	1,760	14,300	2,690	9,110	1,800	13,600		
群馬	7,680	1,310	328	-	9,320	7,610	1,250	355	9,220	6,310	1,220	364	7,890		
埼玉	6,610	7,130	293	35	7,650	6,530	722	230	7,530	6,150	734	205	7,160		
千葉	818	1	72	0	891	81	-	44	855	674	-	x	711		
東京	31	0	1	1	33	30	0	0	30	28	0	0	x		
神奈川	42	-	7	-	49	36	0	7	43	28	x	x	35		
山梨	27	-	35	-	62	24	-	32	56	25	-	30	55		
長野	1,720	-	426	-	2,150	1,730	-	440	2,170	1,760	-	440	2,200		
静岡	945	17	12	0	974	912	29	13	954	875	23	11	909		
新潟	0	-	506	-	506	0	-	453	453	x	x	444	445		
富山	5	9	1,690	-	1,700	4	x	1,810	1,820	4	x	2,170	2,180		
石川	43	3	1,110	-	1,150	63	x	1,030	1,090	65	x	1,160	1,220		
福井	0	-	4,030	-	4,030	x	-	4,100	4,100	0	-	4,230	4,230		
岐阜	2,510	-	81	-	2,590	2,510	-	90	2,600	2,650	-	110	2,760		
愛知	5,660	-	71	x	5,730	5,580	-	65	5,640	5,320	-	73	5,600		
三重	5,160	0	85	x	5,240	5,260	0	114	5,370	5,230	2	133	5,370		
滋賀	6,600	45	164	144	6,950	6,760	55	168	7,150	6,730	56	196	7,150		
京都	176	67	22	0	265	16	75	19	255	145	98	12	255		
大阪	0	-	-	-	0	x	-	-	x	x	-	-	x		
兵庫	1,630	-	347	25	2,000	1,640	-	381	2,050	1,810	0	388	2,230		
奈良	134	-	-	0	134	130	-	0	130	119	-	0	119		
和歌山	1	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	1		
鳥取	5	95	21	-	121	3	87	21	111	2	100	22	124		
島根	97	367	1	-	465	106	430	4	540	112	467	2	585		
岡山	411	2,120	0	53	2,590	430	2,040	0	57	2,530	411	1,800	0	45	2,260
広島	69	0	32	0	101	69	1	40	0	110	74	x	51	x	128
山口	675	113	-	78	866	664	126	-	75	865	674	115	-	99	888
徳島	110	18	-	1	129	10	17	-	1	119	81	16	-	7	104
香川	1,330	0	-	1,040	2,370	1,420	x	-	948	2,370	1,350	-	-	743	2,090
愛媛	176	0	-	1,780	1,950	175	0	-	1,750	1,920	157	-	-	1,520	1,670
高知	4	12	-	-	16	3	12	-	-	15	3	8	-	-	11
福岡	16,100	3,520	-	266	19,900	16,300	3,720	-	244	20,300	15,200	4,720	-	286	20,300
佐賀	11,300	10,100	-	97	21,500	11,600	9,610	-	75	21,300	11,500	9,620	-	92	21,200
長崎	1,020	654	-	314	1,990	963	674	-	302	1,940	828	688	-	202	1,700
熊本	5,110	1,570	-	17	6,700	5,410	1,460	-	22	6,890	4,940	1,640	-	26	6,610
大分	3,390	653	7	683	4,730	3,400	713	12	698	4,820	3,000	638	6	722	4,360
宮崎	45	26	-	4	75	33	27	-	3	63	43	32	-	3	78
鹿児島	23	140	-	0	163	26	120	-	1	147	19	113	-	2	134
沖縄	8	-	-	-	8	10	-	-	-	10	14	-	-	-	14
都府県	98,000	32,500	15,500	4,540	150,500	97,700	31,800	15,300	4,420	149,300	92,600	32,200	15,700	4,020	144,600
全国計	213,500	34,800	15,500	4,540	268,300	218,300	34,100	15,300	4,420	272,100	209,700	34,500	15,700	4,020	264,000

資料：農林水産省「作物統計」による。なお、平成19年産の数値は、「平成19年産4麦の収穫量（概数）」（平成19年11月30日公表）による。

注：1）四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

2）×印は、統計数値が公表されていないものである。

4 都道府県別・麦種別実単収（平成17～19年産）

（単位：kg / 10a）

年産 種別	平成 17				18				19				
	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	
北海道	468	329	-	-	427	385	-	-	495	344	-	-	-
青森	131	-	-	-	165	-	-	-	193	-	-	-	-
岩手	111	-	257	-	132	-	164	-	159	-	224	-	-
宮城	267	-	320	-	275	-	316	-	299	-	258	-	-
秋田	182	-	156	-	232	-	42	-	262	-	320	-	-
山形	166	-	175	-	169	-	120	-	160	-	167	-	-
福島	171	-	325	-	207	-	346	-	181	-	309	-	-
茨城	331	345	347	-	223	233	195	-	285	276	253	-	-
栃木	414	384	433	-	356	344	287	-	351	306	354	-	-
群馬	417	390	409	-	440	381	355	-	393	337	354	-	-
埼玉	380	383	455	356	384	425	457	402	305	299	359	331	-
千葉	298	300	178	125	233	-	195	125	252	-	276	x	-
東京	332	203	457	171	324	281	330	339	334	252	325	x	-
神奈川	313	-	380	-	272	160	262	-	262	x	271	-	-
山梨	333	-	387	-	300	-	393	-	328	-	416	-	-
長野	357	-	423	-	455	-	464	-	393	-	438	-	-
静岡	245	190	235	276	229	79	162	240	229	61	200	-	-
新潟	267	-	233	-	141	-	190	-	226	x	168	-	-
富山	208	x	247	-	261	x	267	-	200	x	340	-	-
石川	x	x	231	-	52	x	251	-	155	x	304	-	-
福井	217	-	233	-	x	-	302	-	300	-	404	-	-
岐阜	306	-	188	-	251	-	154	-	336	-	235	-	-
愛知	359	-	303	x	301	-	206	x	342	-	374	x	-
三重	295	184	270	133	x	260	155	203	210	282	185	344	235
滋賀	261	318	267	247	274	384	285	282	290	365	323	348	-
京都	144	219	100	100	161	245	132	100	202	212	158	100	-
大阪	x	-	-	-	x	-	-	-	x	-	-	-	-
兵庫	218	-	308	260	237	-	376	200	280	168	373	296	-
奈良	249	-	205	229	-	50	188	303	-	108	174	-	-
和歌山	204	-	-	-	168	-	-	-	174	-	-	-	-
鳥取	118	296	233	-	74	185	114	-	210	375	273	-	-
島根	227	359	320	-	188	252	209	-	246	331	435	186	-
岡山	319	349	274	297	395	456	290	305	381	501	346	347	-
広島	174	330	169	242	162	290	125	214	262	x	249	278	-
山口	298	273	-	213	250	247	-	186	343	297	-	288	-
徳島	270	261	-	245	333	365	-	252	358	438	-	286	-
香川	288	150	-	245	322	x	-	318	361	-	-	327	-
愛媛	283	295	-	274	296	308	-	322	416	-	-	387	-
高知	244	239	-	-	218	267	-	-	240	305	-	-	-
福岡	419	324	-	308	417	320	-	333	475	402	-	435	-
佐賀	435	369	-	344	389	354	-	351	457	432	-	408	-
長崎	357	355	-	254	338	329	-	224	413	409	-	304	-
熊本	357	275	-	288	355	296	-	300	389	356	-	323	-
大分	266	302	308	259	274	265	145	274	322	359	383	313	-
宮崎	293	277	-	262	276	248	-	235	277	244	-	233	-
鹿児島	255	196	-	231	238	243	-	241	242	252	-	148	-
沖縄	176	-	-	-	140	-	-	-	171	-	-	-	-
都府県	341	359	308	267	331	344	278	303	356	375	334	356	-
全国	410	357	303	267	384	347	278	303	434	373	334	356	-

資料：農林水産省「作物統計」による。なお、平成19年産の数値は、「平成19年産4麦の収穫量（概数）」（平成19年11月30日公表）による。

注：×印は、統計数値が公表されていないものである。

5 都道府県別・麦種別収穫量（平成17～19年産）

（単位：トン）

年産 種別	平成 17				18				19						
	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	4麦計	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	4麦計	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	4麦計
北海道	540,100	7,630	-	-	547,700	514,100	8,980	-	-	523,100	579,600	7,910	-	-	587,500
青森	3,160	-	-	-	3,160	3,500	-	-	-	3,500	4,210	-	-	-	4,210
岩手	4,320	-	144	-	4,460	4,800	-	74	-	4,870	5,800	-	110	-	5,910
宮城	4,430	-	4,260	-	8,690	4,590	-	4,040	-	8,630	4,310	-	3,300	-	7,610
秋田	560	-	14	-	574	623	-	5	-	628	736	-	48	-	784
山形	159	-	21	-	180	209	-	12	-	221	200	-	25	-	225
福島	775	-	127	-	902	851	-	187	-	1,040	889	-	145	-	1,030
茨城	21,900	3,370	10,100	-	35,400	13,400	2,450	5,300	-	21,200	14,800	2,870	6,200	-	23,900
栃木	12,000	38,100	7,730	-	57,800	10,600	33,000	5,050	-	48,700	9,440	27,900	6,370	-	43,700
群馬	32,000	5,110	1,340	-	38,500	33,500	4,760	1,260	-	39,500	24,800	4,110	1,290	-	30,200
埼玉	25,100	2,730	1,360	125	29,300	25,100	3,070	1,050	190	29,400	18,800	2,190	735	238	22,000
千葉	2,440	3	128	0	2,570	1,890	-	86	0	1,980	1,700	-	x	x	1,800
東京	103	1	3	1	108	97	0	0	0	97	94	0	0	x	x
神奈川	131	-	28	-	159	98	0	20	-	118	79	x	x	-	98
山梨	90	-	135	-	225	72	-	126	-	198	82	-	125	-	207
長野	6,140	-	1,800	-	7,940	7,870	-	2,040	-	9,910	6,910	-	1,930	-	8,840
静岡	2,320	32	28	0	2,380	2,090	23	21	0	2,130	2,000	14	22	-	2,040
新潟	1	-	1,180	-	1,180	0	-	861	-	861	x	x	748	-	751
富山	11	x	4,180	-	4,210	14	x	4,840	-	4,850	7	x	7,380	-	7,400
石川	x	x	2,560	-	2,610	33	x	2,590	-	2,620	101	x	3,530	-	3,630
福井	0	-	9,640	-	9,640	x	-	12,400	-	12,400	0	-	17,100	-	17,100
岐阜	7,690	-	152	-	7,840	6,300	-	139	-	6,440	8,900	-	258	-	9,160
愛知	20,300	-	215	x	20,500	16,800	-	134	x	16,900	18,900	-	273	x	19,200
三重	13,700	0	230	x	13,900	13,700	1	231	x	13,900	14,700	4	457	x	15,200
滋賀	17,200	143	438	356	18,100	18,500	211	479	465	19,700	19,500	204	640	574	20,900
京都	253	147	22	0	422	260	187	25	0	472	293	208	19	0	520
大阪	x	-	-	-	x	x	-	-	-	x	x	-	-	-	x
兵庫	3,550	-	1,070	65	4,690	3,880	-	1,430	50	5,380	5,060	0	1,450	77	6,590
奈良	333	-	-	0	333	298	-	0	0	298	361	-	0	0	361
和歌山	1	-	-	-	1	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2
鳥取	6	281	49	-	336	2	161	24	-	187	4	375	60	-	438
島根	220	1,320	3	-	1,540	199	1,080	8	-	1,290	276	1,550	10	8	1,840
岡山	1,310	7,400	0	172	8,880	1,700	9,300	0	174	11,200	1,570	9,020	0	156	10,700
広島	120	0	54	1	175	112	4	50	0	166	194	x	127	x	327
山口	2,010	308	-	166	2,480	1,660	311	-	140	2,110	2,310	342	-	285	2,940
徳島	297	47	-	2	346	336	62	-	3	401	290	70	-	20	380
香川	3,830	1	-	2,550	6,380	4,570	x	-	3,010	7,580	4,880	-	-	2,430	7,310
愛媛	498	0	-	4,880	5,380	518	0	-	5,640	6,180	656	-	-	5,880	6,540
高知	10	29	-	-	39	7	32	-	-	39	7	24	-	-	31
福岡	67,400	11,400	-	805	79,600	67,900	11,900	-	812	80,600	72,200	19,000	-	1,240	92,400
佐賀	49,100	37,300	-	334	86,700	45,100	34,000	-	233	79,400	52,600	41,600	-	404	94,600
長崎	3,640	2,320	-	796	6,760	3,260	2,220	-	676	6,180	3,420	2,730	-	614	6,760
熊本	18,200	4,320	-	49	22,600	19,200	4,080	-	66	23,600	19,200	5,840	-	84	25,100
大分	9,030	1,970	20	1,770	12,800	9,330	1,850	17	1,910	13,100	9,660	2,290	23	2,260	14,200
宮崎	132	72	-	12	216	91	67	-	7	165	119	78	-	7	204
鹿児島	61	274	-	0	335	62	292	-	2	356	46	285	-	3	334
沖縄	15	-	-	-	15	14	-	-	-	14	24	-	-	-	24
都府県	334,600	116,700	47,000	12,100	510,400	323,100	109,300	42,500	13,400	488,500	330,100	120,700	52,500	14,300	517,600
全国計	874,700	124,300	47,000	12,100	1,058,000	837,200	118,300	42,500	13,400	1,012,000	909,700	128,600	52,500	14,300	1,105,000

資料：農林水産省「作物統計」による。なお、平成19年産の数値は、「平成19年産4麦の収穫量（概数）」（平成19年11月30日公表）による。

注：1）四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

2）x印は、統計数値が公表されていないものである。

6 麦の作付面積上位10県の生産状況（平成19年産）

（1）小麦

県名	作付面積(ha)	生産量(トン)	単収(kg)
北海道	120,500	514,100	427
福岡	16,300	67,900	417
佐賀	11,600	45,100	389
群馬	7,610	33,500	440
滋賀	6,760	18,500	274
埼玉	6,530	25,100	384
茨城	5,990	13,400	223
愛知	5,580	16,800	301
熊本	5,410	19,200	355
三重	5,260	13,700	260
上位10県計 (全国計に占める割合)	191,540 (87.7%)	767,300 (91.7%)	-
全国計	218,300	837,200	

（2）二条大麦

県名	作付面積(ha)	生産量(トン)	単収(kg)
佐賀	9,610	34,000	354
栃木	9,590	33,000	344
福岡	3,720	11,900	320
北海道	2,330	8,980	385
岡山	2,040	9,300	456
熊本	1,460	4,320	296
群馬	1,250	4,760	381
茨城	1,050	2,450	233
埼玉	722	3,070	425
大分	713	1,890	265
上位10県計 (全国計に占める割合)	32,485 (95.3%)	113,670 (96.1%)	-
全国計	34,100	118,300	

（3）六条大麦

県名	作付面積(ha)	生産量(トン)	単収(kg)
福井	4,100	12,400	302
茨城	2,720	5,300	195
栃木	1,760	5,050	287
富山	1,810	4,840	267
宮城	1,280	4,040	316
石川	1,030	2,590	251
新潟	453	861	190
長野	440	2,040	464
兵庫	381	1,430	376
群馬	355	1,260	355
上位10県計 (全国計に占める割合)	14,329 (93.7%)	39,811 (93.7%)	-
全国計	15,300	42,500	

（4）はだか麦

県名	作付面積(ha)	生産量(トン)	単収(kg)
愛媛	1,750	5,640	322
香川	948	3,010	318
大分	698	1,910	274
長崎	302	676	224
福岡	244	812	333
滋賀	165	465	282
佐賀	75	263	351
山口	75	140	186
岡山	57	174	305
埼玉	47	190	402
上位10県計 (全国計に占める割合)	4,361 (98.7%)	13,280 (99.1%)	-
全国計	4,420	13,400	

資料：農林水産省「平成19年産4麦の収穫量（概数）」（平成19年11月30日公表）による。

7 平成18年産麦の用途別作付面積

(1) 小麦

(単位：ha、%)

用途	品種名	作付面積	シェア
日本めん用	ホクシン	104,789	53.5
	農林61号	36,081	18.4
	シロガネコムギ	19,460	9.9
	チクゴイズミ	13,747	7.0
	ナンブコムギ	2,606	1.3
	シラネコムギ	2,261	1.2
	イワイノダイチ	2,002	1.0
	あやひかり	1,803	0.9
	ニシホナミ	1,717	0.9
	ネバリゴシ	1,629	0.8
	つるぴかり	1,461	0.7
	さぬきの夢2000	1,329	0.7
	ふくさやか	1,316	0.7
	きたもえ	1,137	0.6
	きぬの波	1,049	0.5
	ホロシリコムギ	913	0.5
	キタカミコムギ	853	0.4
	シラサギコムギ	426	0.2
	しゅんよう	370	0.2
	ユメセイキ	326	0.2
	きぬあずま	149	0.1
	きぬいろは	126	0.1
	タイセツコムギ	57	0.0
	春のかがやき	33	0.0
	コユキコムギ	28	0.0
	アブクマワセ	19	0.0
	ふくほのか	17	0.0
	フウセツ	4	0.0
	キヌヒメ	4	0.0
	計		195,712

資料：農林水産省「米麦の出荷等に関する基本調査」

(単位：ha、%)

用途	品種名	作付面積	シェア	
パン・中華めん用	春よ恋	8,501	54.9	
	キタノカオリ	1,628	10.5	
	ニシノカオリ	1,584	10.2	
	ハルユタカ	838	5.4	
	ゆきちから	752	4.9	
	タマイズミ	673	4.3	
	ナンブコムギ	618	4.0	
	ミナミノカオリ	514	3.3	
	ダブル8号	288	1.9	
	アオバコムギ	29	0.2	
	ユメアサヒ	25	0.2	
	ハナマンテン	19	0.1	
	ハルイブキ	15	0.1	
	計		15,484	7.3
	醸造用	タクネコムギ	1,161	51.8
		タマイズミ	616	27.5
ニシノカオリ		319	14.2	
ミナミノカオリ		147	6.6	
計		2,243	1.1	
その他	農林61号	9	8.5	
	ニシカゼコムギ	8	7.5	
	アサカゼコムギ	8	7.5	
	チクゴイズミ	7	6.6	
	農林26号	3	2.8	
	ナンブコムギ	3	2.8	
	イワイノダイチ	2	1.9	
	ゆきちから	2	1.9	
	春のかがやき	1	0.9	
	アイラコムギ	1	0.9	
	シラサギコムギ	0	0.0	
	オマセコムギ	0	0.0	
	その他	62	58.5	
	計		106	0.0
合計		213,545	-	

(2) 二条大麦

(単位: ha, %)

用途	品種名	作付面積	シェア
主食等用	ミカモゴールド	4,568	14.0
	ニシノホシ	4,430	13.6
	ほうしゅん	3,818	11.7
	スカイゴールド	3,764	11.5
	ニシノチカラ	3,677	11.3
	りょうふう	2,225	6.8
	あまぎ二条	2,209	6.8
	ミハルゴールド	1,821	5.6
	なす二条	1,306	4.0
	おうみゆたか	1,184	3.6
	みょうぎ二条	1,039	3.2
	アサカゴールド	745	2.3
	ミサトゴールド	723	2.2
	ニシノゴールド	560	1.7
	きぬか二条	362	1.1
	しゅんれい	101	0.3
	サチホゴールド	46	0.1
	はるしずく	36	0.1
	とね二条	3	0.0
	ダイセンゴールド	0	0.0
計		32,617	94.2
麦茶用	ミカモゴールド	1,031	66.3
	アサカゴールド	513	33.0
	ニシノチカラ	10	0.6
計		1,554	4.5
その他	はるな二条	213	46.8
	さきたま二条	106	23.3
	ダイセンゴールド	6	1.3
	あまぎ二条	3	0.7
	ニシノチカラ	0	0.0
	イシュクシラス	0	0.0
	その他	127	27.9
計		455	1.3
合計		34,626	-

資料: 農林水産省「米麦の出荷等に関する基本調査」

(3) 六条大麦

(単位: ha, %)

用途	品種名	作付面積	シェア
主食等用	ファイバースノウ	6,848	61.8
	シュンライ	2,936	26.5
	ミノリムギ	1,241	11.2
	シルキースノウ	57	0.5
	べんけいむぎ	1	0.0
	計		11,083
麦茶用	カシマムギ	2,517	66.7
	ファイバースノウ	385	10.2
	すずかぜ	323	8.6
	シュンライ	323	8.6
	マサカドムギ	162	4.3
	さやかぜ	35	0.9
	ミノリムギ	23	0.6
	べんけいむぎ	3	0.1
計		3,771	25.3
その他	シュンライ	10	30.3
	東山皮94号	0	0.0
	その他	23	69.7
計		33	0.2
合計		14,887	-

(4) はだか麦

(単位: ha, %)

用途	品種名	作付面積	シェア
主食等用	イチバンボシ	2,205	54.7
	マンネンボシ	1,369	34.0
	御島裸	206	5.1
	ヒノデハダカ	150	3.7
	サヌキハダカ	101	2.5
	ユウナギハダカ	0	0.0
計		4,031	97.7
その他	その他	94	100.0
計		94	2.3
合計		4,125	-

8 麦の品種別作付面積（上位10品種）の動向

(1) 小麦

年産	平成13				14			
	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	都府県における比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	都府県における比率 (%)
順位				北海道における比率 (%)				北海道における比率 (%)
1	ホクシン	63,064	47.6	87.2	ホクシン	98,287	47.5	87.3
2	農林61号	45,451	23.2	51.1	農林61号	49,943	24.1	53.0
3	シロガネコムギ	16,447	8.4	18.5	シロガネコムギ	18,478	8.9	19.6
4	チクゴイズミ	12,580	6.4	14.2	チクゴイズミ	10,649	5.1	11.3
5	ハルユタカ	8,866	4.5	8.3	ハルユタカ	6,644	3.2	5.9
6	ナンブコムギ	2,868	1.5	3.2	ナンブコムギ	3,750	1.8	4.0
7	シラネコムギ	2,831	1.4	3.2	春よ恋	2,950	1.4	2.6
8	バンドウワセ	2,534	1.3	2.9	シラネコムギ	2,787	1.3	3.0
9	キタカミコムギ	2,244	1.1	2.5	キタカミコムギ	2,331	1.1	2.5
10	チホクコムギ	1,585	0.8		ホロシリコムギ	1,504	0.7	1.3
	上位10品種計	188,470	96.4	92.2	上位10品種計	197,323	95.4	93.4
	全品種計	195,555	100.0	100.0	全品種計	206,872	100.0	100.0

年産	15				16			
	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	都府県における比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	都府県における比率 (%)
順位				北海道における比率 (%)				北海道における比率 (%)
1	ホクシン	99,201	47.5	87.7	ホクシン	99,789	47.3	88.1
2	農林61号	50,713	24.1	51.1	農林61号	45,674	21.7	46.8
3	シロガネコムギ	19,883	8.9	20.0	シロガネコムギ	19,131	9.1	19.6
4	チクゴイズミ	10,251	5.1	10.3	チクゴイズミ	11,660	5.5	12.0
5	春よ恋	4,961	3.2	4.4	春よ恋	5,746	2.7	5.1
6	ナンブコムギ	4,165	1.8	4.2	ナンブコムギ	2,956	1.9	4.1
7	シラネコムギ	2,765	1.4	2.8	シラネコムギ	2,395	1.1	2.5
8	タイセツコムギ	2,194	1.3	1.9	タイセツコムギ	2,279	1.1	2.0
9	キタカミコムギ	1,850	1.1	1.9	ネバリゴシ	2,017	1.0	2.1
10	ホロシリコムギ	1,803	0.7	1.6	ホロシリコムギ	1,760	0.8	1.6
	上位10品種計	197,786	95.4	90.2	上位10品種計	194,404	92.2	87.0
	全品種計	212,400	100.0	100.0	全品種計	210,789	100.0	100.0

年産	17				18			
	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	都府県における比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	都府県における比率 (%)
順位				北海道における比率 (%)				北海道における比率 (%)
1	ホクシン	102,516	48.9	89.7	ホクシン	104,789	49.1	88.0
2	農林61号	39,824	19.0	42.8	農林61号	36,090	16.9	38.2
3	シロガネコムギ	19,320	9.2	20.8	シロガネコムギ	19,460	9.1	20.6
4	チクゴイズミ	12,909	6.2	13.9	チクゴイズミ	13,754	6.4	14.6
5	春よ恋	6,148	2.9	5.4	春よ恋	8,501	4.0	7.1
6	ナンブコムギ	3,642	1.7	3.9	ナンブコムギ	3,227	1.5	3.4
7	シラネコムギ	2,300	1.1	2.5	シラネコムギ	2,261	1.1	2.4
8	ニシノカオリ	1,810	0.9	1.9	イワイノダイチ	2,004	0.9	2.1
9	ネバリゴシ	1,709	0.8	1.8	ニシノカオリ	1,903	0.9	2.0
10	あやひかり	1,397	0.7	1.5	あやひかり	1,803	0.8	1.9
	上位10品種計	191,575	91.4	89.1	上位10品種計	193,792	90.7	85.2
	全品種計	209,498	100.0	100.0	全品種計	213,545	100.0	100.0

資料：農林水産省「米麦の出荷等に関する基本調査」

(2) 二条大麦

年産	平成13			14			15		
	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)
順位									
1	ニシノチカラ	7,913	19.6	ニシノチカラ	8,350	19.9	ニシノチカラ	7,762	19.6
2	あまぎ二条	7,627	18.8	あまぎ二条	7,005	16.7	あまぎ二条	6,279	15.9
3	ミカモゴールド	5,697	14.1	ミカモゴールド	6,153	14.7	ミカモゴールド	5,722	14.5
4	アサカゴールド	4,906	12.1	アサカゴールド	5,179	12.4	アサカゴールド	4,403	11.1
5	りょうふう	2,632	6.5	なす二条	2,855	6.8	なす二条	3,046	7.7
6	なす二条	2,482	6.1	りょうふう	2,256	5.4	りょうふう	2,361	6.0
7	タカホゴールド	1,575	3.9	ミハルゴールド	1,700	4.1	ニシノホシ	2,178	5.5
8	ニシノゴールド	1,240	3.1	タカホゴールド	1,392	3.3	ミハルゴールド	1,885	4.8
9	ミサトゴールド	1,196	3.0	ニシノホシ	1,310	3.1	ミサトゴールド	1,201	3.0
10	みょうぎ二条	1,053	2.6	ミサトゴールド	1,288	3.1	ニシノゴールド	1,136	2.9
	上位10品種計	36,321	89.8	上位10品種計	37,488	89.4	上位10品種計	35,973	90.9
	全品種計	40,462	100.0	全品種計	41,912	100.0	全品種計	39,583	100.0

年産	16			17			18		
	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)
順位									
1	ミカモゴールド	61,710	16.8	ミカモゴールド	6,508	19.1	ミカモゴールド	5,599	16.2
2	ニシノチカラ	5,628	15.3	ほうしゅん	4,275	12.5	ニシノホシ	4,430	12.8
3	あまぎ二条	4,067	11.1	ニシノチカラ	4,175	12.3	ほうしゅん	3,818	11.0
4	ほうしゅん	3,167	8.6	ニシノホシ	3,833	11.3	スカイゴールド	3,764	10.9
5	アサカゴールド	3,009	8.2	なす二条	2,396	7.0	ニシノチカラ	3,687	10.6
6	なす二条	2,993	8.1	あまぎ二条	2,304	6.8	りょうふう	2,225	6.4
7	ニシノホシ	2,983	8.1	りょうふう	2,090	6.1	あまぎ二条	2,212	6.4
8	りょうふう	2,367	6.4	アサカゴールド	1,662	4.9	ミハルゴールド	1,821	5.3
9	ミハルゴールド	1,506	4.1	スカイゴールド	1,435	4.2	なす二条	1,306	3.8
10	ミサトゴールド	1,044	2.8	ミハルゴールド	1,258	3.7	アサカゴールド	1,258	3.6
	上位10品種計	32,934	89.6	上位10品種計	29,936	87.9	上位10品種計	30,120	87.0
	全品種計	36,760	100.0	全品種計	34,040	100.0	全品種計	34,626	100.0

資料：農林水産省「米麦の出荷等に関する基本調査」

(3) 六条大麦

年産 順位	平成13			14			15		
	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)
1	ミノリムギ	8,070	53.0	ミノリムギ	7,284	40.1	シュンライ	4,664	25.1
2	シュンライ	3,762	24.7	シュンライ	4,852	26.7	ファイバースノウ	4,645	25.0
3	カシマムギ	1,358	8.9	カシマムギ	2,127	11.7	ミノリムギ	4,452	23.9
4	マサカドムギ	852	5.6	ファイバースノウ	1,986	10.9	カシマムギ	3,815	20.5
5	すずかぜ	401	2.6	マサカドムギ	1,085	6.0	すずかぜ	557	3.0
6	東山皮96号	287	1.9	すずかぜ	538	3.0	マサカドムギ	307	1.7
7	べんけいむぎ	266	1.7	べんけいむぎ	165	0.9	べんけいむぎ	34	0.2
8	ハマユタカ	99	0.6	アサムギ	24	0.1	万力	9	0.0
9	アサムギ	78	0.5	万力	5	0.0	シンジュボシ	5	0.0
10	万力	14	0.1	関取埼1号	2	0.0			
上位10品種計		15,187	99.7	上位10品種計	17,338	99.4	上位10品種計	17,338	93.3
全品種計		15,236	100.0	全品種計	17,470	100.0	全品種計	18,593	100.0

年産 順位	16			17			18		
	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)
1	ファイバースノウ	7,842	44.1	ファイバースノウ	7,045	46.2	ファイバースノウ	7,233	48.6
2	シュンライ	3,991	22.4	シュンライ	3,461	22.7	シュンライ	3,269	22.0
3	カシマムギ	3,306	18.6	カシマムギ	2,706	17.7	カシマムギ	2,517	16.9
4	ミノリムギ	1,784	10.0	ミノリムギ	1,375	9.0	ミノリムギ	1,264	8.5
5	すずかぜ	536	3.0	すずかぜ	442	2.9	すずかぜ	323	2.2
6	マサカドムギ	197	1.1	アサカムギ	169	1.1	マサカドムギ	162	1.1
7	さやかぜ	25	0.1	さやかぜ	31	0.2	シルキースノウ	57	0.4
8	べんけいむぎ	15	0.1	べんけいむぎ	7	0.0	さやかぜ	4	0.2
9				関取埼1号	1	0.0	べんけいむぎ	4	0.0
10									
上位10品種計		17,696	99.5	上位10品種計	15,237	99.9	上位10品種計	14,864	99.8
全品種計		17,779	100.0	全品種計	15,257	100.0	全品種計	14,887	100.0

資料：農林水産省「米麦の出荷等に関する基本調査」

(4) はだか麦

年産 順位	13			14			15		
	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)
1	イチバンボシ	5,595	94.1	イチバンボシ	5,478	89.9	イチバンボシ	4,356	77.0
2	御島稈	205	3.4	御島稈	214	3.5	マンネンボシ	796	14.1
3	ヒノデハダカ	86	1.4	サヌキハダカ	169	2.8	サヌキハダカ	170	3.0
4	ユウナギハダカ	7	0.1	マンネンボシ	104	1.7	御島稈	168	3.0
5	サヌキハダカ	3	0.1	ヒノデハダカ	96	1.6	ヒノデハダカ	124	2.2
6	米澤モチ2号	2	0.0	ユウナギハダカ	6	0.1	米澤モチ2号	3	0.1
7	キカイハダカ	1	0.0	米澤モチ2号	1	0.0	ユウナギハダカ	2	0.0
8									
9									
10									
上位10品種計		5,899	99.2	上位10品種計	5,894	99.6	上位10品種計	5,619	99.3
全品種計		5,944	100.0	全品種計	5,914	100.0	全品種計	5,656	100.0

年産 順位	16			17			18		
	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)	品種名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)
1	イチバンボシ	3,345	71.6	イチバンボシ	2,438		イチバンボシ	2,205	53.5
2	マンネンボシ	820	17.6	マンネンボシ	1,167		マンネンボシ	1,369	33.2
3	御島稈	200	4.3	御島稈	215		御島稈	206	5.0
4	ヒノデハダカ	172	3.7	ヒノデハダカ	169		ヒノデハダカ	150	3.6
5	サヌキハダカ	108	2.3	サヌキハダカ	85		サヌキハダカ	101	2.4
6	米澤モチ2号	4	0.1	米澤モチ2号	2				
7									
8									
9									
10									
上位10品種計		4,649	99.5	上位10品種計	4,076	99.2	上位10品種計	4,031	97.7
全品種計		4,672	100.0	全品種計	4,110	100.0	全品種計	4,125	100.0

資料：農林水産省「米麦の出荷等に関する基本調査」

9 平成18年産麦の地域別・麦種別上位5品種作付面積

北海道

(単位: ha, %)

順位	小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率
1	ホクシン	104,789	88.0	りょうふう	2,225	96.7						
2	春よ恋	8,501	7.1									
3	キタノカオリ	1,628	1.4									
4	タネコムギ	1,161	1.0									
5	きたもえ	1,137	1.0									
上位5品種計			117,216	98.5	上位5品種計			2,225	96.7	上位5品種計		
全品種計			119,025	100.0	全品種計			2,302	100.0	全品種計		

東北

順位	小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率
1	ナツコムギ	3,198	40.1				シュンライ	751	57.2			
2	ネバリゴシ	1,629	20.4				ミノリムギ	543	41.4			
3	シラネコムギ	1,315	16.5				ファバ'-スガ	9	0.7			
4	キカコムギ	853	10.7				べんけいむぎ	4	0.3			
5	ゆきちから	752	9.4									
上位5品種計			7,747	97.1	上位5品種計			1,307	99.5	上位5品種計		
全品種計			7,976	100.0	全品種計			1,313	100.0	全品種計		

北陸

順位	小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率
1	シロガネコムギ	33	48.5	あまぎ二条	3	30.0	ファバ'-スガ	6,890	93.7			
2	ナンブコムギ	26	38.2				ミノリムギ	466	6.3			
3	キヌヒメ	4	2.9									
4												
5												
上位5品種計			63	92.6	上位5品種計			7,356	100.0	上位5品種計		
全品種計			68	100.0	全品種計			7,356	100.0	全品種計		

関東

順位	小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率
1	農林61号	18,340	74.6	ミカエ-ルネン	5,575	41.8	カシマムギ	2,446	45.2	イチバンボシ	47	100.0
2	つるびかり	1,461	5.9	カイコ-ルネン	3,764	28.2	シュンライ	2,181	40.3			
3	きぬの波	1,049	4.3	なす二条	1,306	9.8	すずかぜ	293	5.4			
4	シラネコムギ	946	3.8	みよぎ二条	1,039	7.8	ファバ'-スガ	231	4.3			
5	タマイズミ	616	2.5	あまぎ二条	927	6.9	マサカドムギ	162	3.0			
上位5品種計			22,412	91.2	上位5品種計			12,611	94.4	上位5品種計		
全品種計			24,581	100.0	全品種計			13,353	100.0	全品種計		

東海

順位	小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率
1	農林61号	9,767	70.4	ミカエ-ルネン	24	100.0	ファバ'-スガ	103	39.0			
2	イワイダイチ	1,400	10.1				カシマムギ	71	26.9			
3	あやひかり	1,304	9.4				ミノリムギ	68	25.8			
4	ニシノカオリ	720	5.2				シュンライ	14	5.3			
5	タマイズミ	673	4.9									
上位5品種計			13,864	100.0	上位5品種計			24	100.0	上位5品種計		
全品種計			13,868	100.0	全品種計			24	100.0	全品種計		

近畿

順位	小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率
1	農林61号	4,976	58.5	アヲ加-ルネン	84	60.4	シュンライ	295	61.0	イチバンボシ	164	86.8
2	シロガネコムギ	2,078	24.4				ミノリムギ	187	38.6			
3	ふくさやか	1,291	15.2									
4	きぬいろは	126	1.5									
5	ふくほのか	17	0.2									
上位5品種計			8,488	99.8	上位5品種計			84	60.4	上位5品種計		
全品種計			8,508	100.0	全品種計			139	100.0	全品種計		

中国

順位	小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率
1	農林61号	470	37.4	おうみゆたか	1,184	46.3	すずかぜ	30	54.5	イチバンボシ	128	98.5
2	シラネコムギ	426	33.9	ミハル-ルネン	730	28.6	シュンライ	20	36.4			
3	ニシノカオリ	185	14.7	アヲ加-ルネン	641	25.1						
4	チクゴイズミ	112	8.9									
5	ふくさやか	25	2.0									
上位5品種計			1,218	97.0	上位5品種計			2,555	100.0	上位5品種計		
全品種計			1,256	100.0	全品種計			2,555	100.0	全品種計		

四国

順位	小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率
1	さぬきの夢2000	1,325	82.5	ニシノボシ	16	55.2				マンネンボシ	1,368	52.8
2	チクゴイズミ	259	16.1	ニシノチカラ	10	34.5				イチバンボシ	1,029	39.7
3				とね二条	3	10.3				ヒノデハダカ	150	5.8
4												
5												
上位5品種計			1,588	98.6	上位5品種計			29	100.0	上位5品種計		
全品種計			1,611	100.0	全品種計			29	100.0	全品種計		

九州

順位	小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率	品種名	作付面積	比率
1	シロガネコムギ	17,348	47.3	ニシノボシ	4,414	27.0	シュンライ	8	100.0	イチバンボシ	837	71.8
2	チクゴイズミ	13,383	36.5	ほうしゅん	3,763	23.2				御島裸	206	17.7
3	農林61号	2,535	6.9	ニシノチカラ	3,677	22.7				サヌキハダカ	101	8.7
4	ニシノナミ	1,717	4.7	あまぎ二条	1,282	7.9						
5	ニシノカオリ	982	2.7	ミハル-ルネン	1,091	6.7						
上位5品種計			35,965	98.1	上位5品種計			14,227	87.8	上位5品種計		
全品種計			36,651	100.0	全品種計			16,211	100.0	全品種計		

資料：総合食料局「小麦の出荷等に関する基本調査」

10 主要品種の特性

表種	品 種 名	育成年次	育 成 場 所	主 な 特 性	栽 培 地 域
小	農林61号	昭和19	佐賀農試	中生、やや長稈、良質、安定多収、穂発芽性難	関東、東海、近畿、中国、九州
	ナンブコムギ	26	盛岡改良実験所	中生、やや長稈、耐寒雪性強	北東北
	キタカミコムギ	34	東北農試	中晩生、やや長稈、良質多収	北東北
	ホロシリコムギ	49	北見農試	中生、強稈、多収	北海道
	タクネコムギ	49	北見農試	早生、強稈、タンパク質含有量高	北海道
	シロガネコムギ	49	九州農試	中早生、短強稈、良質多収	近畿、九州
	チホクコムギ	56	北見農試	中生、短稈、良質多収、耐雪性やや難	北海道
	ニシカゼコムギ	59	九州農試	早生、強稈、多収	九州
	ハルユタカ	60	北見農試	播種品種、短強稈、多収	北海道
	シラネコムギ	61	長野農試	やや早生、強稈、	南東北、北関東、東山
	コユキコムギ	63	東北農試	多収、短強稈、製粉歩留高、めん色相良	北東北
	ダイチノミノリ	平成元	九州農試	多収、縮萎縮・赤さび・縮萎縮病抵抗性強	中国、四国
	バンドウワセ	2	農研センター	早生、製粉歩留高、耐倒伏性強	関東
	タイセツコムギ	2	北見農試	製粉歩留高、めん色相良、耐雪性強	北海道
	あきたっこ	4	東北農試	中生、耐雪性強、製粉歩留高	北東北
	アブクマワセ	4	九州農試	極早生、製粉特性良	南東北
	春のあけぼの	5	北見農試	播種品種、やや晩生、耐穂発芽性難	北海道
	きぬいろは	5	九州農試	極早生、穂発芽性極難、製めん適性良	近畿
	チクゴイズミ	5	九州農試	早生多収、低アミロース、製めん適性良	中国、四国、九州
	ホクシン	6	北見農試	早生多収、耐雪性・うどんこ病抵抗性強、粉色相良	北海道
	しゅんよう	6	長野農試	多収、穂発芽性難、良質	南東北、関東
	ニシホナミ	7	九州農試	やや早生、耐倒伏性、製めん適性良、萎縮病耐性強	九州
	つるびかり	9	群馬農試	早生、製めん性良、穂発芽性難、耐倒伏性強	関東
	イワノダイチ	11	九州農試	早播適性、早生、縮萎縮病抵抗性強、製めん適性良	九州
	ニシノカオリ	11	九州農試	早生、菓子パン適性良	九州
	あやひかり	11	農研センター	早生、多収、低アミロース、製めん適性良	関東、東海
	キヌヒメ	11	長野農試	早生、多収、穂発芽性難、製めん適性良	関東、東山、南東北
	ダブル8号	11	群馬農試	耐倒伏性強、縮萎縮病抵抗性強、硬質	関東
	きたもえ	12	北見農試	縮萎縮病抵抗性強、色相良、穂発芽性やや難	北海道（縮萎縮病発生地帯）
	はるひので	12	北見農試	赤かび病抵抗性良、多収、製パン性良、穂発芽性やや難	北海道
	ネバリゴシ	12	東北農試	早生、多収、低アミロース、製めん適性良、耐穂発芽性強	北東北
	きぬあずま	12	農研センター	穂発芽耐性、縮萎縮病抵抗性、耐倒伏性強、多収、低アミロース	南東北、関東、東海
	春よ恋	12	ホクレン	多収、赤かび病抵抗性強、耐穂発芽性やや難、製パン性良	北海道
	さめきの夢2000	12	香川県農試	耐倒伏性強、めん色・食感良	香川
	ハルイブキ	13	東北農研センター	製パン適性良、耐倒伏性強、縮萎縮病抵抗性、穂発芽耐性中	東北
	ユメセイキ	13	長野農試	穂発芽性難、短稈、多収	南東北、北陸、東山
	きぬの波	13	群馬農試	短稈、耐倒伏性強、めん色・粘弾性良	関東
	タイムズミ	14	作物研究所	短稈、耐倒伏性やや強、硬質、製粉歩留良	関東、東海、中国
	ふくさやか	14	近中四農研センター	短稈、耐倒伏性強、粉色・ゆでめん・食感良	関東、東海、近畿、中国、九州
	ゆきちから	14	東北農研センター	早生、耐病性、耐寒雪性強、製パン性良	東北
	キタノカオリ	15	北海道農研センター	短稈、赤さび病抵抗性、耐倒伏性強、製パン性良	北海道
	ミナミノカオリ	15	九州沖縄農研センター	やや早生、耐倒伏性強、パン・醤油用に適する	九州
	フウセツ	15	長野農試	製めん適性、穂発芽耐性、耐雪性が優れる	南東北、北陸、東山
	春のかがやき	16	群馬農試	早生、多収、製粉性・めん色・粘弾性に優れる	関東
	ユメアサヒ	16	長野農試	穂発芽性はやや難、パン用硬質小麦	北関東、東山
うららもち	17	作物研究所	もち性、ブレンド用・地域特産の用途、「あけぼのもち」と比べ収量性・製粉性優れ、穂発芽しにくい。	温暖地の平地地（三重県等）	
ふくほのか	17	近中四農研センター	早生、多収、赤さび病に強く製粉性・粘弾性に優れる	温暖地以西	
ハナマンテン	17	長野農試	早生、穂発芽性難、中華めん用硬質小麦	関東北部・東山、南東北・北陸	

表種	品 種 名	育成年次	育 成 場 所	主 な 特 性	栽 培 地 域	
二条大麦	あまぎ二条	53	キリンビール	中早生、醸造適性良、多収	関東、東海、近畿、中国、九州	
	はるな二条	54	サッポロビール	早生、醸造適性良、耐寒性やや弱	関東、九州	
	ミサトゴールド	60	栃木農試栃木分場	早生多収、縮萎縮病抵抗性	関東、中国、九州	
	ニシノゴールド	61	福岡農試	早生、縮萎縮病抵抗性	九州	
	きぬゆたか	61	キリンビール	早生、醸造適性良、縮萎縮病抵抗性	関東、中国	
	ニシノチカラ	62	九州農試	早生、多収、縮萎縮病抵抗性、精麦適性良	四国、九州	
	ミカモゴールド	62	栃木農試栃木分場	早生、醸造適性良、縮萎縮病抵抗性	関東	
	なす二条	63	キリンビール	早生、縮萎縮病抵抗性、麦芽エキス高	関東	
	りょうふう	平成元	北見農試	醸造適性良、短稈、耐倒伏性強、蛋白含量低	北海道	
	とね二条	元	サッポロビール	早生、縮萎縮病、うどんこ病抵抗性	四国	
	アサカゴールド	2	福岡農試	醸造適性良、外観品質良、縮萎縮病抵抗性	近畿、中国、九州	
	タカホゴールド	6	栃木農試栃木分場	早生多収、縮萎縮病・うどんこ病抵抗性、醸造適性良	関東	
	ミハルゴールド	7	福岡農試	醸造適性良、縮萎縮病・うどんこ病抵抗性極強	九州	
	ニシノホシ	9	九州農試	縮萎縮病・うどんこ病抵抗性極強、焼酎醸造適性	九州	
	ほうしゅん	10	福岡農試	縮萎縮病・うどんこ病抵抗性極強、醸造適性良	関東、近畿、中国、九州	
	スカイゴールド	12	栃木農試栃木分場	縮萎縮病・うどんこ病抵抗性極強、早生、醸造適性良	関東	
	しゅんれい	16	福岡農試	早生多収、醸造適性良	九州、中国	
	サチホゴールド	17	栃木農試栃木分場	縮萎縮病・うどんこ病抵抗性、早生、多収、醸造適性良	温暖地平坦地（関東）	
	はるしずく	17	福岡農試	縮萎縮病・うどんこ病抵抗性、多収、白度高い、焼酎醸造適性良	九州	
	六条大麦	べんけいむぎ	41	福島農試会津分場	中生、強稈、耐雪性強	東北・北陸
ミノリムギ		44	長野農試	中生、長稈、多収、耐雪性強	南東北、北陸、東山	
カシマムギ		44	農事試験場	早生、短強稈、うどんこ病抵抗性強	関東	
アサマムギ		52	長野農試	中生、強稈、多収	関東、東海	
マサカドムギ		平成元	農研センター	縮萎縮病抵抗性、強稈、多収	関東	
ハマユタカ		元	長野農試	良質、強稈、多収	南東北、北陸、東山	
シュンライ		2	長野農試	早生、強稈、外観品質良、精麦白度大	南東北、関東、東山、北陸	
すずかぜ		5	農研センター	中生、多収、麦茶適性良、縮萎縮病抵抗性	関東	
セツケンモチ		11	長野農試	早生、耐倒伏性強、もち性、精麦白度大	関東、東山、南東北	
ファイバースノウ		12	長野農試	早生、耐倒伏性・耐雪性強、精麦白度大	北陸、東山	
シンジュボシ		14	東北農研センター	精麦白度、炊飯白度大、耐寒性やや強	東北	
さやかぜ		15	作物研究所	多収、縮萎縮病抵抗性強、精麦及び麦芽用	関東	
シルキースノウ		17	長野農試	早生、多収、耐倒伏性・縮萎縮病抵抗性、精麦白度高	関東、東山	
はだか麦		ヒノデタカ	昭和32	鳥取農試東伯分場	早生、耐倒伏性弱	中国、四国、九州
		ユウナギハダカ	32	四国農試	中晩生、やや長稈、良質多収	関東、四国、九州
	サヌキハダカ	52	四国農試	中生、多収	四国	
	サンシュウ	平成元	南東北	高蛋白・高リジン、縮萎縮病抵抗性	四国	
	イチバンボシ	4	四国農試	早生、多収、縮萎縮病抵抗性	近畿、中国、四国、九州	
	ダイシモチ	9	四国農試	もち性、早生、耐倒伏性強、うどんこ病やや弱	四国	
	マンネンボシ	13	近中四農研センター	強稈、耐倒伏性、精麦品質良	四国	
トヨノカゼ	17	近中四農研センター	多収、精麦品質良、味噌加工適性優れ、糖度・明度高	東海以西の平地地		

記載条件

小 麦：銘柄区分 以上又は平成元年以降育成品種
 二条大麦：契約対象品種の内命名済みのもの又は食糧用の銘柄区分 以上又は平成元年以降育成品種
 六条大麦：現在作付されている品種
 はだか麦：現在作付されている品種

11 全国平均生産費（小麦）

（単位：円）

年 産 項 目		平成11	12	13	14	15	16	17	18
		10 a 当 たり	物 財 費 労 働 費 費 用 合 計 副 産 物 価 額 生 産 費 支 払 利 子 支 払 地 代 支 払 利 子・地 代 算 入 生 産 費 自 己 資 本 利 子 自 作 地 代 全 算 入 生 産 費	39,461 10,718 50,179 1,396 48,783 813 2,928 52,524 2,050 8,786 63,360	39,484 9,997 49,481 1,418 48,063 748 3,138 51,949 2,042 8,368 62,359	39,212 9,539 48,751 1,360 47,391 679 3,006 51,076 1,925 8,049 61,050	40,084 9,288 49,372 1,359 48,013 571 3,349 51,933 2,032 7,370 61,335	41,048 9,057 50,105 1,333 48,772 542 3,470 52,784 1,990 7,382 62,156	41,389 8,703 50,092 1,646 48,446 483 3,367 52,296 2,064 7,211 61,571
60 kg 当 たり	費 用 合 計 生 産 費 全 算 入 生 産 費	7,795 7,578 9,842	7,193 6,987 9,065	7,503 7,294 9,396	6,781 6,594 8,423	6,886 6,703 8,543	6,843 6,618 8,411	6,757 6,501 8,256	6,961 6,762 8,560
10 a 当 たり 収 量 (Kg)		386	413	390	437	437	439	441	417
10 a 当 たり 投 下 労 働 時 間 (時 間)		6.46	6.14	5.96	5.89	5.93	5.72	5.59	5.56

資料：農林水産省「農業経営統計調査（麦類生産費統計）」

注：「全算入生産費」とは「資本利子・地代全額算入生産費」の略称である。

12 小麦の10a当たり費用合計の内訳

(単位：円)

年産 項目	平成11	12	13	14	15	16	17	18
種 苗 費	2,863	2,767	2,758	2,679	2,681	2,718	2,595	2,555
肥 料 費	6,455	6,567	6,695	6,746	6,712	6,953	6,923	6,960
農 業 薬 剤 費	3,527	3,770	3,670	3,665	3,955	3,958	4,176	4,099
光 熱 動 力 費	1,112	1,154	1,253	1,226	1,291	1,311	1,575	1,722
そ の 他 の 諸 材 料 費	259	419	364	256	300	422	387	365
土 地 改 良 及 び 水 利 費	990	957	1,026	941	977	1,014	1,053	1,015
賃 借 料 及 び 料 金	12,464	12,756	12,703	13,663	14,032	13,920	13,888	12,778
物 件 税 及 び 担 公 課 諸 負	1,304	1,215	1,215	1,244	1,282	1,292	1,308	1,272
建 物 費	1,190	1,160	1,138	1,130	1,137	1,126	1,052	923
農 機 具 費	9,040	8,484	8,194	8,290	8,465	8,443	8,099	7,941
生 産 管 理 費	257	235	196	244	216	232	224	235
労 働 費	10,718	9,997	9,539	9,288	9,057	8,703	8,606	8,486
家 族 労 働 費	10,504	9,782	9,304	9,048	8,763	8,493	8,390	8,213
雇 用 労 働 費	214	215	235	240	294	210	216	273
費 用 合 計	50,179	49,481	48,751	49,372	50,105	50,092	49,886	48,351

資料：農林水産省「農業経営統計調査（麦類生産費統計）」

13 小麦の地域別10a当たり投下労働時間の推移

(単位：時間)

年産 農業地域	平成11	12	13	14	15	16	17	18
全 国	6.46	6.14	5.96	5.89	5.93	5.72	5.59	5.56
北 海 道	3.50	3.40	3.35	3.34	3.50	3.45	3.41	3.42
都 府 県	9.98	9.60	9.01	8.74	8.70	8.42	8.49	8.33
関 東 ・ 東 山	10.75	10.63	10.21	9.73	9.54	9.24	9.35	9.64
九 州	10.07	9.90	9.70	9.46	9.38	9.27	8.98	8.79

資料：農林水産省「農業経営統計調査（麦類生産費統計）」

14 小麦の作付規模別・地域別生産費（18年産）

（1）作付規模別

区 分	10a当たり生産費（円）					60kg当たり生産費（円）			10a当たり 収量 （kg）	10a当たり 投下労働時間（時間）		
	物財費	労働費	費用合計	生産費	全算入 生産費	費用合計	生産費	全算入 生産費		うち家族労働 時間		
平 均	39,865	8,486	48,351	46,959	59,446	6,961	6,762	8,560	417	5.56	5.40	
作 付 規 模 別	0.5 ha 未満	44,290	16,760	61,050	60,901	75,346	10,757	10,731	13,276	340	11.28	11.25
	0.5 ～ 1.0	37,292	16,319	53,611	53,467	67,023	8,432	8,410	10,544	382	11.09	10.94
	1.0 ～ 2.0	37,238	13,613	50,851	50,362	63,118	8,431	8,350	10,465	361	9.43	9.32
	2.0 ～ 3.0	36,341	11,197	47,538	46,826	59,695	7,859	7,741	9,868	362	7.38	7.24
	3.0 ～ 5.0	39,897	8,640	48,537	47,067	59,473	7,406	7,181	9,076	392	5.63	5.46
	5.0 ～ 7.0	41,182	6,766	47,948	46,843	59,387	6,495	6,346	8,046	443	4.39	4.20
	7.0 ～ 10.0	42,456	5,342	47,798	45,196	58,590	6,146	5,811	7,534	467	3.36	3.34
10.0ha以上	40,219	5,747	45,966	44,252	55,811	6,271	6,037	7,614	440	3.56	3.28	

資料：農林水産省「農業経営統計調査（小麦生産費統計）」

注：「全算入生産費」とは「資本利子・地代全額算入生産費」の略称である。

（2）地域別

区 分	10a当たり生産費（円）					60kg当たり生産費（円）			10a当たり 収量 （kg）	10a当たり 投下労働時間（時間）	
	物財費	労働費	費用合計	生産費	全算入 生産費	費用合計	生産費	全算入 生産費		うち家族労働 時間	
全 国	39,865	8,486	48,351	46,959	59,446	6,961	6,762	8,560	417	5.56	5.40
北 海 道	45,138	5,401	50,539	48,312	61,250	6,669	6,375	8,082	454	3.42	3.38
都 府 県	33,088	12,462	45,550	45,235	57,139	7,422	7,371	9,312	369	8.33	8.00
関 東 ・ 東 山	33,235	14,455	47,690	47,566	60,561	7,357	7,339	9,343	389	9.64	9.21
九 州	34,049	12,727	46,776	46,248	58,241	7,172	7,092	8,932	391	8.79	8.60

資料：農林水産省「農業経営統計調査（小麦生産費統計）」

注：「全算入生産費」とは「資本利子・地代全額算入生産費」の略称である。

15 小麦の作付規模別生産費及び収益性の推移

(1) 10a当たり生産費

年産		平成11	12	13	14	15	16	17	18
平均		48,783	48,063	47,391	48,013	48,772	48,446	47,990	46,959
作付規模別	0.5 ha 未満	70,543	76,772	74,456	70,220	69,509	58,970	63,794	60,901
	0.5 ~ 1.0	60,263	57,324	56,399	60,849	58,636	57,263	52,822	53,467
	1.0 ~ 2.0	53,161	53,087	47,979	47,493	48,866	50,901	52,214	50,362
	2.0 ~ 3.0	45,361	48,781	45,838	47,125	47,484	47,413	47,164	46,826
	3.0 ~ 5.0	42,284	43,580	43,149	42,912	45,957	46,773	48,667	47,067
	5.0 ~ 7.0	45,659	43,156	43,199	42,381	46,446	47,494	46,619	46,843
	7.0 ~ 10.0	-	-	-	-	-	-	45,871	45,196
	7.0ha以上	45,407	44,317	45,314	46,952	46,753	46,395	-	-
	10.0ha以上	-	-	-	-	-	-	45,457	44,252

資料：農林水産省「農業経営統計調査（小麦生産費統計）」

(2) 10a当たり全算入生産費

年産		平成11	12	13	14	15	16	17	18
平均		63,360	62,359	61,050	61,335	62,156	61,571	60,941	59,446
作付規模別	0.5 ha 未満	85,744	94,238	90,994	85,859	84,382	74,190	79,083	75,346
	0.5 ~ 1.0	77,169	74,122	71,218	75,635	73,312	71,789	66,553	67,023
	1.0 ~ 2.0	68,585	67,731	62,200	61,981	63,544	64,150	66,427	63,118
	2.0 ~ 3.0	60,821	63,703	61,224	60,145	60,285	60,755	61,120	59,695
	3.0 ~ 5.0	57,186	56,738	58,743	56,780	58,798	60,489	61,208	59,473
	5.0 ~ 7.0	57,739	55,715	54,984	55,362	59,763	60,924	59,741	59,387
	7.0 ~ 10.0	-	-	-	-	-	-	59,186	58,590
	7.0ha以上	59,498	58,333	57,926	59,291	59,666	58,800	-	-
	10.0ha以上	-	-	-	-	-	-	57,262	55,811

資料：農林水産省「農業経営統計調査（小麦生産費統計）」

注：「全算入生産費」とは「資本利子・地代全額算入生産費」の略称である。

(3) 10a当たり投下労働時間

年 産		平成11	12	13	14	15	16	17	18
平 均		6.46	6.14	5.96	5.89	5.93	5.72	5.59	5.56
作 付 規 模 別	0.5 ha 未満	15.09	15.63	14.68	14.45	13.86	13.38	12.79	11.28
	0.5 ~ 1.0	11.96	11.49	11.06	11.49	12.59	10.76	10.97	11.09
	1.0 ~ 2.0	10.24	9.77	9.09	9.41	9.54	9.68	9.43	9.43
	2.0 ~ 3.0	7.42	7.92	7.36	7.35	6.43	7.38	7.16	7.38
	3.0 ~ 5.0	5.39	4.81	5.14	4.80	5.22	5.59	5.85	5.63
	5.0 ~ 7.0	3.65	4.06	4.06	4.36	4.04	3.94	4.32	4.39
	7.0 ~ 10.0	-	-	-	-	-	-	3.32	3.36
	7.0ha以上 10.0ha以上	3.24 -	3.41 -	3.16 -	3.27 -	3.49 -	3.47 -	- 3.50	- 3.56

資料：農林水産省「農業経営統計調査（小麦生産費統計）」

(4) 10a当たり所得

年 産		平成11	12	13	14	15	16	17	18
平 均		17,392 (20,931)	19,198 (22,929)	15,075 (18,437)	19,707 (24,187)	17,533 (21,043)	15,822 (18,422)	15,313 (19,299)	14,096 (18,664)
作 付 規 模 別	0.5 ha 未満	4,872 (7,368)	2,361 (5,297)	2,800 (54)	4,679 (8,759)	10,351 (8,318)	2,757 (1,185)	2,690 (187)	6,313 (4,365)
	0.5 ~ 1.0	12,419 (15,000)	9,745 (12,537)	1,172 (3,700)	8,648 (12,630)	753 (3,537)	1,169 (887)	8,986 (11,840)	6,748 (10,042)
	1.0 ~ 2.0	9,524 (11,938)	12,370 (15,117)	12,420 (15,542)	10,498 (13,394)	5,133 (7,603)	8,049 (10,831)	7,363 (10,737)	5,200 (7,937)
	2.0 ~ 3.0	15,503 (18,183)	11,285 (14,218)	5,914 (8,698)	12,288 (15,426)	12,232 (15,892)	3,743 (5,666)	10,714 (13,272)	6,719 (11,467)
	3.0 ~ 5.0	16,350 (19,167)	19,823 (23,148)	6,915 (8,801)	12,792 (15,008)	23,908 (27,174)	20,678 (23,166)	16,623 (20,983)	11,458 (17,007)
	5.0 ~ 7.0	20,105 (24,534)	27,847 (32,220)	17,036 (19,890)	27,911 (32,917)	27,204 (30,993)	22,948 (26,043)	21,449 (26,097)	19,428 (24,949)
	7.0 ~ 10.0	-	-	-	-	-	-	19,871 (24,018)	21,893 (26,944)
	7.0ha以上 10.0ha以上	24,285 (28,990)	24,370 (28,880)	25,590 (30,119)	28,087 (34,146)	23,784 (27,849)	21,036 (23,781)	- -	- -
	-	-	-	-	-	-	17,389 (21,871)	17,692 (22,491)	

資料：農林水産省「農業経営統計調査（小麦生産費統計）」

注1：「全算入生産費」とは「資本利子・地代全額算入生産費」の略称である。

注2：()は奨励金等（品質向上支援対策、契約生産奨励金及び産地づくり対策のうち麦・大豆品質向上対策による助成額）を加えた数値である。

16 麦作農家数の推移

(1) 農家戸数

(単位：千戸)

年産	総農家数	麦作農家数	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦
昭和45	(5,402)	1,185	843	265	173	322
50	(4,953)	369	246	97	37	66
55	(4,661)	493	323	114	52	57
60	(4,376)	437	310	90	48	28
平成2	(3,835)	362	262	76	37	15
4	3,742	255	187	57	22	8
5	3,691	211	153	52	17	5
6	3,644	151	110	46	4	5
7	(3,444)	140	103	41	3	5
8	3,888	137	102	35	7	5
9	3,344	130	97	32	7	6
10	3,291	125	94	29	8	6
11	3,239	119	91	26	7	5
12	(3,120)	121	93	26	8	5
13	3,072	128	98	26	10	6
14	3,028	127	97	27	10	6
15	2,981	123	94	24	10	5
16	2,934	111	88	22	9	4
17	2,848	97	78	20	7	3
18	1,881	-	73	-	-	-

資料：総農家数は、農林水産省「農業構造動態調査」、平成4年は「農業動態調査」、平成3年以前は「農業調査」による1月1日現在の農家数である。
 また、45年、50年、55年、60年、2年、7年及び12年の()内は「世界農林業センサス」又は「農業センサス」による2月1日現在の農家数である。
 なお、平成18年産の数値については、販売農家数である。
 注：麦作農家数は、農林水産省「米麦の出荷等に関する基本調査」によるものであり、麦の合計作付面積が、5アール以上(北海道は10アール以上、ただし、61年以降は5アール以上)の農家数である。
 なお、大麦・はだか麦については、平成17年産をもって調査が廃止された。

(2) 1戸当たり作付面積

(単位：10a)

年産	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦
昭和45	2.72	3.75	2.68	2.49
50	3.64	5.15	2.99	2.61
55	5.91	7.45	3.69	3.19
60	7.54	8.85	4.73	3.75
平成2	9.93	9.75	6.71	5.15
4	11.47	11.01	7.69	5.65
5	12.01	11.60	7.88	6.08
6	13.82	11.99	8.96	6.42
7	14.63	12.52	10.91	7.11
8	15.54	13.14	10.07	7.76
9	16.22	13.53	11.70	8.47
10	17.19	12.90	13.70	9.07
11	18.45	13.98	13.75	9.81
12	19.63	14.37	13.46	9.89
13	20.11	15.13	15.35	10.10
14	21.43	15.34	16.83	10.69
15	22.56	16.20	17.38	11.04
16	24.40	16.90	19.64	11.80
17	27.74	17.33	23.55	13.73
18	29.74	-	-	-

資料：農林水産省「作物統計」による作付面積を「米麦の出荷等に関する基本調査」による麦の作付面積が平成17年産までは、5アール以上(北海道は10アール以上、ただし、61年以降は5アール以上)の農家数、平成18年産は全農家数で除した数値である。
 なお、大麦・はだか麦については、平成17年産をもって調査が廃止された。

(3) 小麦の作付規模別農家戸数

(単位：千戸)

年産	作付面積 5～30a 未満	30～ 50a 未満	50～ 100a 未満	100a以上			計	
				100～ 300a 未満	300～ 500a 未満	500a 以上		
昭和63	(36.4) 113	(20.1) 63	(22.2) 69	(21.3) 66	(15.3) 48	(2.9) 9	(3.1) 10	(100.0) 312
平成 3	(32.6) 73	(19.9) 45	(23.2) 52	(24.3) 54	(16.5) 37	(3.6) 8	(4.2) 9	(100.0) 224
6	(29.2) 32	(17.9) 20	(23.1) 25	(29.8) 33	(18.2) 20	(4.7) 5	(7.0) 8	(100.0) 110
9	(24.4) 24	(16.7) 16	(23.9) 23	(35.0) 34	(21.0) 20	(5.4) 5	(8.6) 8	(100.0) 97
12	(20.3) 19	(15.3) 14	(23.4) 22	(41.0) 38	(23.9) 22	(6.4) 6	(10.7) 10	(100.0) 93
15	(17.8) 17	(14.0) 13	(23.2) 22	(45.1) 42	(25.0) 23	(7.3) 7	(12.8) 12	(100.0) 94
16	(16.7) 15	(13.5) 12	(22.6) 20	(47.2) 41	(25.7) 22	(7.5) 7	(14.0) 12	(100.0) 87
17	(13.9) 11	(12.6) 10	(22.2) 17	(51.3) 39	(27.0) 21	(8.2) 6	(16.0) 12	(100.0) 77
18	(14.0) 10	(11.6) 8	(22.1) 16	(52.3) 38	(26.9) 20	(8.2) 6	(17.2) 13	(100.0) 73

資料：農林水産省「米麦の出荷等に関する基本調査」（平成18年産の5～30a未満の欄については、5a未満の農家数も含む）

注：1）（ ）内は構成比である。

3）ラウンドの関係で内訳と計が一致しない場合がある。

17 麦の都道府県別検査数量及び等級比率

(1) 普通小麦

都道府県名	19年産				18年産				過去5年平均(14～18年産)			
	検査数量 (トン)	等級比率(%)			検査数量 (トン)	等級比率(%)			検査数量 (トン)	等級比率(%)		
		1等	2等	規格外		1等	2等	規格外		1等	2等	規格外
北海道	641,270	86.3	2.8	10.9	549,175	85.2	6.8	8.1	599,184	69.2	18.1	12.8
東北農政局	15,235	62.7	30.0	7.3	14,719	37.9	40.0	22.2	16,814	49.3	37.2	13.6
青森	3,810	86.6	7.4	6.0	3,246	72.5	18.7	8.8	4,382	69.0	25.0	5.9
岩手	5,659	87.3	9.1	3.6	4,769	56.3	36.1	7.6	5,778	61.0	31.1	7.9
宮城	4,193	21.0	64.6	14.4	5,249	7.8	45.3	46.9	5,042	31.5	42.9	25.6
秋田	721	32.2	67.1	0.7	611	-	88.4	11.6	715	1.3	81.2	17.5
山形	189	26.4	70.6	3.0	200	29.9	69.0	1.1	191	35.5	59.8	4.7
福島	663	22.4	67.0	10.6	643	10.2	76.5	13.3	706	10.5	70.1	19.4
関東農政局	71,086	86.5	11.4	2.0	90,513	68.7	26.9	4.4	94,182	69.1	27.1	3.9
茨城	12,965	54.8	43.0	2.2	13,180	19.6	70.7	9.7	18,444	32.3	61.1	6.6
栃木	8,709	94.3	2.7	3.0	9,929	80.0	12.4	7.6	9,651	85.3	8.3	6.4
群馬	23,150	96.3	1.6	2.1	33,035	83.9	12.9	3.1	32,243	83.4	14.1	2.4
埼玉	16,396	94.0	4.9	1.1	23,267	69.9	28.4	1.7	22,835	71.7	26.3	2.0
千葉	1,430	86.6	11.3	2.1	1,661	51.4	35.1	13.5	2,132	57.8	36.1	6.1
東京	-	-	-	-	4	-	100.0	-	8	0.9	98.0	1.2
神奈川	31	14.3	77.6	8.1	56	6.2	86.4	7.3	74	17.9	76.1	6.0
山梨	33	38.7	49.1	12.2	34	90.5	9.5	-	29	88.9	10.6	0.5
長野	6,463	92.4	7.4	0.2	7,330	89.8	10.1	0.2	6,318	87.4	11.7	1.0
静岡	1,910	65.7	25.1	9.2	2,018	11.5	75.5	13.0	2,449	33.0	52.1	14.9
北陸農政局	64	11.5	88.5	-	21	59.1	40.9	-	26	19.0	81.0	-
新潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山	7	100.0	-	-	12	100.0	-	-	5	100.0	-	-
石川	57	0.0	100.0	-	9	-	100.0	-	21	-	100.0	-
福井	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東海農政局	42,113	87.2	6.1	6.7	36,580	35.8	50.1	14.1	39,279	49.6	34.2	16.2
岐阜	8,769	87.0	4.1	8.9	6,245	78.0	13.3	8.6	6,838	50.6	33.2	16.2
愛知	18,593	87.4	8.6	4.0	16,585	34.1	55.3	10.6	18,211	60.6	28.6	10.7
三重	14,751	87.1	4.1	8.8	13,750	18.8	60.5	20.7	14,230	35.0	41.8	23.1
近畿農政局	24,936	68.0	28.1	4.0	22,772	72.1	24.6	3.3	23,900	64.6	28.2	7.2
滋賀	19,240	74.5	21.6	3.9	18,390	80.2	16.5	3.3	19,367	66.6	26.1	7.3
京都	287	36.0	58.5	5.5	239	79.0	20.1	0.9	365	42.3	37.1	20.6
大阪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	5,052	43.1	52.6	4.3	3,845	34.0	62.2	3.7	3,854	57.0	37.4	5.6
奈良	357	96.3	3.7	-	298	53.8	46.2	-	314	60.1	38.9	1.0
和歌山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中国四国農政局	9,891	79.5	17.6	2.9	8,913	28.5	66.3	5.2	8,535	59.5	35.3	5.1
鳥取	262	-	96.2	3.8	186	4.3	95.7	-	197	16.9	79.7	3.4
岡山	1,582	90.1	7.3	2.6	1,749	81.7	10.3	8.1	1,629	82.9	11.5	5.5
広島	142	16.6	79.4	4.1	76	4.3	77.3	18.4	69	25.9	55.2	18.9
山口	2,249	73.7	22.6	3.6	1,603	31.8	61.7	6.5	1,840	28.5	63.6	7.9
徳島	279	78.9	20.8	0.2	322	67.8	31.6	0.5	378	67.8	32.0	0.1
香川	4,746	84.6	12.8	2.6	4,497	0.8	95.5	3.7	3,924	63.9	32.3	3.8
愛媛	631	82.3	14.1	3.6	480	70.9	22.2	6.9	499	78.6	15.2	6.2
高松	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
九州農政局	156,679	93.6	2.9	3.5	147,641	71.9	22.4	5.7	124,367	79.1	16.1	4.8
福岡	70,660	96.7	0.5	2.8	68,084	86.6	7.9	5.5	57,979	83.4	11.1	5.5
佐賀	54,384	89.4	5.4	5.2	47,791	63.1	30.5	6.5	38,571	82.7	12.6	4.7
長崎	3,283	87.6	10.5	1.9	3,300	14.8	77.3	7.8	3,071	32.0	62.3	5.7
熊本	18,896	96.0	1.7	2.3	19,225	64.7	29.2	6.1	16,595	74.2	21.9	3.9
大分	9,446	92.3	6.0	1.7	9,204	45.5	53.4	1.1	8,133	59.6	38.8	1.6
宮崎	9	-	100.0	-	30	-	4.1	95.9	17	38.5	16.7	44.8
鹿児島	-	-	-	-	7	-	-	100.0	1	-	-	100.0
沖縄	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	961,274	86.6	4.9	8.5	870,333	77.4	15.0	7.6	906,286	69.1	20.2	10.7

注：1) 19年産は20年2月末日現在の値で、18年産及び過去5年平均は最終(翌年4月末日)の値である。

2) 普通小麦の検査数量及び等級比率には、強力小麦の検査数量を含む。

3) ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

(2) 大・はだか麦(19年産)

都道府県名	普通小粒大麦		普通大粒大麦		普通はだか麦		ビール大麦	
	検査数量(トン)	1等比率(%)	検査数量(トン)	1等比率(%)	検査数量(トン)	1等比率(%)	検査数量(トン)	上位等級比率 (1等+2等)(%)
北海道	-	-	2,450	-	-	-	5,679	100.0
東北農政局	3,523	19.6	-	-	-	-	-	-
青森	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手	106	72.3	-	-	-	-	-	-
宮城	3,215	17.7	-	-	-	-	-	-
秋田	48	-	-	-	-	-	-	-
山形	25	-	-	-	-	-	-	-
福島	129	35.0	-	-	-	-	-	-
関東農政局	15,596	55.8	11,533	39.2	219	33.0	23,660	93.9
茨城	5,567	29.5	2,376	93.0	-	-	-	-
栃木	6,005	69.3	7,403	25.4	-	-	19,376	95.3
群馬	1,232	74.9	1,390	30.3	-	-	2,594	82.0
埼玉	645	19.6	361	2.3	219	33.0	1,690	96.0
千葉	95	57.9	-	-	-	-	-	-
東京	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	19	80.4	-	-	-	-	-	-
山梨	122	94.6	-	-	-	-	-	-
長野	1,889	88.0	-	-	-	-	-	-
静岡	22	3.4	3	68.1	-	-	-	-
北陸農政局	27,748	76.6	4	-	-	-	9	63.8
新潟	731	18.5	1	-	-	-	-	-
富山	7,067	76.4	4	-	-	-	9	63.8
石川	3,353	57.3	-	-	-	-	-	-
福井	16,596	83.2	-	-	-	-	-	-
東海農政局	977	71.2	-	-	-	-	-	-
岐阜	248	36.1	-	-	-	-	-	-
愛知	272	71.4	-	-	-	-	-	-
三重	458	90.1	-	-	-	-	-	-
近畿農政局	2,104	90.7	163	53.9	633	43.6	250	84.2
滋賀	640	77.7	104	32.2	551	50.1	100	100.0
京都	19	-	59	92.5	-	-	150	73.7
大阪	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	1,444	97.7	-	-	82	-	-	-
奈良	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山	-	-	-	-	-	-	-	-
中国四国農政局	170	35.2	5,769	76.1	8,360	77.5	5,549	90.9
鳥取	61	96.3	195	80.5	-	-	180	80.0
島根	-	-	1,179	98.8	8	-	350	100.0
岡山	-	-	4,027	69.0	149	3.1	4,970	90.8
広島	109	0.8	-	-	-	-	-	-
山口	-	-	277	73.0	272	62.7	49	68.4
徳島	-	-	69	96.2	-	-	-	-
香川	-	-	-	-	2,345	48.1	-	-
愛媛	-	-	-	-	5,586	92.7	-	-
高知	-	-	23	100.0	-	-	-	-
九州農政局	22	6.0	54,478	77.8	4,417	89.0	16,191	90.5
福岡	-	-	14,682	85.5	1,209	88.6	4,179	99.0
佐賀	-	-	29,318	69.6	395	75.2	11,761	87.3
長崎	-	-	2,671	85.0	610	82.1	-	-
熊本	-	-	5,638	93.1	29	100.0	-	-
大分	22	6.0	1,895	92.2	2,175	93.4	250	100.0
宮崎	-	-	59	11.7	-	-	-	-
鹿児島	-	-	215	80.4	-	-	-	-
沖縄	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	50,141	66.5	74,397	69.1	13,629	78.9	51,338	93.1

注：1) 19年産は20年2月末日現在の値である。
 2) ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

18 平成19年産麦の品質評価結果

(単位：トン)

麦種	用途	ランク別数量及び割合								
		A	割合	B	割合	C	割合	D	割合	合計
小麦	日本めん用	695,678	85.5%	85,890	10.6%	25,190	3.1%	6,688	0.8%	813,446
	パン・中華めん用	46,907	98.3%	96	0.2%	693	1.5%	0	0.0%	47,697
	醸造用	5,557	59.7%	1,652	17.8%	2,093	22.5%	0	0.0%	9,301
	計	748,142	85.9%	87,637	10.1%	27,976	3.2%	6,688	0.8%	870,443
二条大麦	主食等用	48,070	95.9%	1,735	3.5%	316	0.6%	12	0.0%	50,133
	麦茶用	1,647	44.9%	2,019	55.1%	0	0.0%	0	0.0%	3,665
	計	49,717	92.4%	3,754	7.0%	316	0.6%	12	0.0%	53,799
六条大麦	主食等用	25,447	75.2%	601	1.8%	7,774	23.0%	0	0.0%	33,821
	麦茶用	4,860	57.9%	1,712	20.4%	1,826	21.7%	0	0.0%	8,398
	計	30,307	71.8%	2,313	5.5%	9,600	22.7%	0	0.0%	42,220
はだか麦	主食等用	10,597	83.7%	312	2.5%	1,722	13.6%	29	0.2%	12,660
	麦茶用	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
	計	10,597	83.7%	312	2.5%	1,722	13.6%	29	0.2%	12,660

注：平成20年2月25日現在の数値である。

19 麦の品質評価項目とその基準値及び許容値

日本めん用小麦

評価項目	基準値	許容値
たんぱく (低アミロース品種等)	9.7～11.3%	8.5～12.5% (8.0～13.0%)
灰分	1.60%以下	1.65%以下
容積重	840g/以上	-
フォーリングナンバー	300以上	200以上

注：「低アミロース品種等」は、粘弾性（もちもち感）を高め、製麺適性を向上させた品種であり、最近の品種転換の主流となっているが、従来品種と比べたんぱくが上がりにくい特性をもつ。

パン・中華めん用小麦

評価項目	基準値	許容値
たんぱく	11.5～14.0%	10.0～15.5%
灰分	1.75%以下	1.80%以下
容積重	833g/以上	-
フォーリングナンバー	300以上	200以上

醸造用小麦

評価項目	基準値	許容値
たんぱく	11.5%以上 12.0%未満	10.0%以上
	12.0%以上 13.5%未満	
	13.5%以上	
容積重	760g/以上	-

注：たんぱく は品質評価項目の基準値を1つ達成、たんぱく は2つ達成、たんぱく は3つ達成したものとす。

六条大麦・はだか麦（麦茶用以外）

評価項目	基準値	許容値
容積重	六条大麦 690g/ 以上 はだか麦 840g/ 以上	-
細麦率	六条大麦 2.2mm（篩）下に2.0%以下 はだか麦 2.0mm（篩）下に2.0%以下	-
白度	43以上 基準歩留：六条大麦 55% はだか麦 60% 農産物検査時から1ヶ月経過したサンプル	40以上
硝子率	六条大麦 40%以下 はだか麦 50%以下	50%以下 60%以下

二条大麦（麦茶用以外）

評価項目	基準値	許容値
容積重	709g/ 以上	-
細麦率	2.5mm（篩）下に3.0%以下	-
白度	40以上 基準歩留：55% 農産物検査時から1ヶ月経過したサンプル	37以上
正常粒率	80%以上（65%歩留時） 1.8mm（篩）上（砕粒を除く）	70%以上

麦茶用二条大麦・六条大麦・はだか麦

評価項目	基準値	許容値
たんぱく	7.5%以上 9.0%未満	6.5%以上
	9.0%以上 10.5%未満	
	10.5%以上	
細麦率	二条大麦 2.2mm（篩）下に2.0%以下 六条大麦 2.0mm（篩）下に2.0%以下 はだか麦 2.0mm（篩）下に2.0%以下	-

注：たんぱく は品質評価項目の基準値を1つ達成、たんぱく は2つ達成、たんぱく は3つ達成したものとす。

需給関係

1 全体需給の推移

(1) 小麦

(単位：千トン)

	国内生産量	輸入量	在庫の増減	国内消費 仕向量					
					粗食料	純食料	1人1年当たり 純食料(kg)	加工用	その他
昭和35	1,531	2,613	179	3,965	3,125	2,406	25.8	235	605
40	1,287	3,444	100	4,631	3,700	2,849	29.0	261	670
45	474	4,574	159	5,207	4,092	3,192	30.8	276	839
50	241	5,681	344	5,578	4,522	3,527	31.5	317	739
55	583	5,559	88	6,054	4,839	3,774	32.2	390	825
60	874	5,194	33	6,101	4,920	3,838	31.7	435	746
平成2	952	5,307	11	6,270	5,028	3,922	31.7	450	792
3	759	5,413	168	6,340	5,046	3,936	31.7	442	852
4	759	5,650	135	6,274	5,046	3,936	31.6	438	790
5	638	5,607	99	6,344	5,149	4,016	32.1	424	771
6	565	6,044	194	6,415	5,306	4,139	33.0	420	689
7	444	5,750	161	6,355	5,278	4,117	32.8	412	665
8	478	5,907	16	6,401	5,328	4,156	33.0	416	657
9	573	5,993	276	6,290	5,248	4,093	32.4	398	644
10	570	5,674	20	6,224	5,216	4,068	32.2	398	610
11	583	5,613	86	6,282	5,255	4,099	32.4	390	637
12	688	5,688	65	6,311	5,299	4,133	32.6	383	629
13	700	5,624	97	6,227	5,234	4,083	32.1	373	620
14	829	4,973	401	6,203	5,207	4,061	31.9	375	621
15	856	5,539	79	6,316	5,338	4,164	32.6	366	612
16	860	5,484	78	6,266	5,286	4,123	32.3	364	616
17	875	5,292	46	6,213	5,198	4,054	31.7	357	658
18	837	5,464	73	6,228	5,207	4,061	31.8	357	664

資料：農林水産省「食料需給表」

注：1) 「輸入量」は、輸入量から輸出量を差し引いた数量である。

2) 「その他」は、飼料用、種子用及び減耗量の計である。

3) 平成18年度の数値は概算値である。

(2) 大・はだか麦

(単位：千トン)

	国内生産量	輸入量	在庫の増減	国内消費 仕向量					
					粗食料	純食料	1人1年当たり 純食料(kg)	加工用	その他
昭和35	2,301	29	189	2,141	1,308	758	8.1	210	623
40	1,234	512	58	1,688	630	353	3.6	354	704
45	573	1,070	42	1,685	297	163	1.6	507	881
50	221	2,117	143	2,195	285	127	1.1	719	1,191
55	385	2,087	104	2,576	170	77	0.7	871	1,535
60	378	2,071	6	2,455	108	52	0.4	881	1,466
平成2	346	2,211	58	2,615	67	32	0.3	1,148	1,400
3	283	2,478	34	2,727	61	29	0.2	1,167	1,499
4	286	2,550	89	2,747	70	33	0.3	1,135	1,542
5	283	2,369	111	2,763	72	34	0.3	1,145	1,546
6	225	2,619	23	2,821	68	32	0.3	1,169	1,584
7	219	2,640	115	2,744	73	35	0.3	1,187	1,484
8	234	2,455	30	2,719	76	37	0.3	1,220	1,423
9	194	2,352	162	2,708	72	35	0.3	1,225	1,411
10	144	2,548	2	2,694	68	33	0.3	1,208	1,418
11	205	2,475	88	2,768	80	38	0.3	1,229	1,459
12	214	2,439	26	2,627	95	45	0.4	1,150	1,382
13	207	2,154	187	2,548	95	45	0.4	1,115	1,338
14	217	2,142	86	2,445	90	42	0.3	1,065	1,290
15	199	1,999	85	2,282	86	41	0.3	994	1,202
16	199	2,094	42	2,335	79	38	0.3	1,063	1,193
17	183	2,030	68	2,281	64	31	0.2	984	1,233
18	174	2,153	12	2,315	56	26	0.2	1,004	1,247

資料：農林水産省「食料需給表」

- 注：1) 「輸入量」は、輸入量から輸出货量を差し引いた数量である。
2) 「その他」は、飼料用、種子用及び減耗量の計である。
3) 平成18年度の数値は概算値である。

2 国内産麦の産地別・銘柄別入札指標価格の推移

(1) 小麦

(単位：円/トン)

麦種	産地	銘柄	地域区分	平成12年産			平成13年産			平成14年産			平成15年産			平成16年産			平成17年産			平成18年産			平成19年産			平成20年産				
				基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)		
小麦	北海道	タクネコム	全地区	42,245	44,345	105.0%	44,345	46,550	105.0%	46,550	48,878	105.0%	48,878	49,700	101.7%	49,700	50,057	100.7%	50,057	50,770	101.4%	50,770	47,216	93.0%	47,216	43,912	93.0%	43,912	43,557	99.2%		
小麦	北海道	ホクシン	全地区	42,245	41,965	99.3%	41,965	41,108	98.0%	41,108	39,585	96.3%	39,585	38,850	98.1%	38,850	38,621	99.4%	38,621	38,757	100.4%	38,757	39,603	102.2%	39,603	41,081	103.7%	41,081	43,955	107.0%		
小麦	北海道	春よ恋	全地区							44,800	47,040	105.0%	47,040	49,385	105.0%	49,385	51,853	105.0%	51,853	55,482	107.0%	55,482	59,365	107.0%	59,365	62,915	106.0%	62,915	66,870	106.3%		
小麦	北海道	きたもえ	全地区							41,108	40,285	98.0%	40,285	38,517	95.6%	38,517	36,833	95.6%	36,833	34,504	93.7%	34,504	34,539	100.1%	34,539	35,814	103.7%	35,814	38,160	106.6%		
小麦	北海道	キタノカオリ	全地区																38,465	41,157	107.0%	41,157	44,037	107.0%	44,037	45,670	103.7%	45,670	48,647	106.5%		
小麦	北海道	タイセツコム	全地区	42,245	44,345	105.0%	44,345	46,550	105.0%	46,550	48,878	105.0%	48,878	48,335	98.9%	48,335	47,498	98.3%														
小麦	北海道	チホクコム	網走	42,245	43,995	104.1%	43,995	46,182	105.0%	46,182	48,475	105.0%	48,475	50,172	103.5%	50,172	47,959	95.6%														
小麦	北海道	チホクコム	十勝	42,245	44,345	105.0%																										
小麦	北海道	チホクコム	その他	42,245	42,402	100.4%	42,455	44,397	104.6%	44,397	44,397	100.0%	44,397	45,728	103.0%	45,728	45,728	100.0%														
小麦	北海道	チホクコム	地区	40,495	42,507	105.0%	42,507	43,960	103.4%	43,960	43,960	100.0%	43,960	42,648	97.0%																	
小麦	北海道	ハルユタカ	全地区	42,245	44,345	105.0%	44,345	46,550	105.0%	46,550	48,878	105.0%	48,878	51,310	105.0%	51,310	53,876	105.0%	53,876	57,646	107.0%	57,646	61,681	107.0%				62,915	67,319	107.0%		
小麦	北海道	ホロシコム	全地区	40,495	42,507	105.0%	42,507	44,625	105.0%	44,625	46,848	105.0%	46,848	49,175	105.0%	49,175	51,633	105.0%	51,633	54,887	106.3%	54,887	56,999	103.8%								
小麦	青森	キタカミコム	全地区				38,465	36,575	95.1%	36,575	34,808	95.2%	34,808	33,075	95.0%																	
小麦	青森	ネバリゴシ	全地区										34,808	33,635	96.6%	33,635	32,960	98.0%	32,960	32,300	98.0%											
小麦	岩手	ナンブコム	全地区													38,105	37,343	98.0%														
小麦	岩手	ナンブコム	地区																37,343	37,363	100.1%	37,363	37,367	100.0%	37,367	37,389	100.1%	37,389	38,126	102.0%		
小麦	宮城	シラネコム	全地区				38,465	36,558	95.0%	36,558	34,737	95.0%	34,737	33,005	95.0%	33,005	31,894	96.6%	31,894	31,303	98.1%	31,303	31,740	101.4%	31,740	32,379	102.0%	32,379	34,490	106.5%		
小麦	茨城	農林61号	全地区	42,245	41,073	97.2%	41,073	39,060	95.1%	39,060	37,118	95.0%	37,118	35,262	95.0%	35,262	33,598	95.3%	33,598	32,250	96.0%	32,250	31,652	98.1%	31,652	31,708	100.2%	31,708	33,171	104.6%		
小麦	茨城	バンドウセ	全地区	40,495	38,658	95.5%	38,658	36,732	95.0%	36,732	34,913	95.0%																				
小麦	栃木	農林61号	全地区	42,245	40,548	96.0%	40,548	38,605	95.2%	38,605	36,680	95.0%	36,680	34,860	95.0%	34,860	33,233	95.3%	33,233	31,555	95.0%	31,555	30,563	96.9%	30,563	31,302	102.4%	31,302	33,343	106.5%		
小麦	栃木	バンドウセ	全地区	40,495	38,483	95.0%	38,483	36,575	95.0%																							
小麦	群馬	つるびかり	全地区	40,495	41,108	101.5%	41,108	42,333	103.0%	42,333	42,158	99.6%	42,158	40,653	96.4%	40,653	40,549	99.7%	40,549	40,866	100.8%	40,866	41,379	101.3%	41,379	41,133	99.4%	41,133	42,318	102.9%		
小麦	群馬	農林61号	全地区	42,245	42,053	99.5%	42,053	41,213	98.0%	41,213	39,620	96.1%	39,620	38,815	98.0%	38,815	37,443	96.5%	37,443	36,582	97.7%	36,582	36,047	98.5%	36,047	37,519	104.1%	37,519	40,108	106.9%		
小麦	群馬	きぬの波	全地区							41,213	41,230	100.0%	41,230	41,825	101.4%	41,825	43,330	103.6%	43,330	45,309	104.6%	45,309	47,514	104.9%	47,514	48,906	102.9%	48,906	50,262	102.8%		
小麦	群馬	ダブル8号	全地区							42,333	44,433	105.0%	44,433	46,638	105.0%	46,638	48,969	105.0%	48,969	49,935	102.0%	49,935	49,459	99.0%	49,459	46,435	93.9%					
小麦	群馬	バンドウセ	全地区	42,245	40,670	96.3%	40,670	39,445	97.0%	39,445	38,255	97.0%																				
小麦	埼玉	農林61号	全地区	42,245	42,805	101.3%	42,805	42,473	99.2%	42,473	41,633	98.0%	41,633	41,335	99.3%	41,335	39,692	96.0%	39,692	38,621	97.3%	38,621	38,593	99.9%	38,593	39,563	102.5%	39,563	42,047	106.3%		
小麦	埼玉	あやひかり	全地区							38,202	40,110	105.0%	40,110	41,772	104.1%	41,772	43,170	103.3%	43,170	43,298	100.3%	43,298	43,462	100.4%	43,462	41,288	95.0%	41,288	39,224	95.0%		
小麦	埼玉	バンドウセ	全地区	40,495	39,130	96.6%	39,130	37,677	96.3%																							
小麦	岐阜	農林61号	全地区	40,495	40,023	98.8%	40,023	38,483	96.2%	38,483	36,709	95.4%	36,715	35,088	95.6%	35,088	33,389	95.2%	33,389	32,444	97.2%	32,444	32,598	100.5%	32,598	33,339	102.3%	33,339	35,548	106.6%		
小麦	愛知	農林61号	全地区	42,245	42,000	99.4%	42,000	40,163	95.6%	40,163	38,259	95.3%	38,255	36,435	95.2%	36,435	34,926	95.9%	34,926	34,234	98.0%	34,234	35,156	102.7%	35,156	36,408	103.6%	36,408	38,733	106.4%		
小麦	愛知	イワノダイチ	全地区																													
小麦	三重	農林61号	全地区				41,948	39,935	95.2%	39,935	37,940	95.0%	37,940	36,050	95.0%	36,050	34,430	95.5%	34,430	33,538	97.4%	33,538	33,607	100.2%	33,607	33,728	100.4%	33,728	36,084	107.0%		
小麦	滋賀	農林61号	全地区	42,245	40,215	95.2%	40,215	38,255	95.1%	38,255	36,348	95.0%	36,348	34,598	95.2%	34,598	33,142	95.8%	33,142	33,173	100.1%	33,173	33,871	102.1%	33,871	35,635	105.2%	35,635	38,129	107.0%		
小麦	滋賀	ふくさやか	全地区																													
小麦	兵庫	シロガネコム	全地区										35,630	34,545	97.0%	34,545	33,489	96.9%	33,489	34,653	103.5%	34,653	36,513	105.4%	36,513	38,913	106.6%	38,913	41,637	107.0%		
小麦	香川	さぬきの夢2000	全地区													40,407	42,427	105.0%	42,427	45,397	107.0%	45,397	48,574	107.0%	48,574	51,974	107.0%	51,974	55,554	106.9%		
小麦	福岡	シロガネコム	全地区	42,245	42,123	99.7%	42,123	40,985	97.3%	40,985	39,197	95.6%	39,200	38,483	98.2%	38,483	37,084	96.4%	37,084	36,234	97.7%	36,234	35,728	98.6%	35,728	35,844	100.3%	35,844	37,760	105.3%		
小麦	福岡	チクゴイズミ	全地区	40,495	40,005	98.8%	40,005	38,150	95.4%	38,150	36,312	95.2%	36,312	34,965	96.3%	34,965	36,015	103.0%	36,015	36,387	101.0%	36,387	36,532	100.4%	36,532	35,998	98.5%	35,998	37,762	104.9%		
小麦	福岡	ニシホナミ	全地区	39,620	39,620	100.0%	39,620	40,653	102.6%				38,780	38,868	100.2%	38,868	38,378															

(2) 大・はだか麦

(単位：円/トン)

麦種	産地	銘柄	地域区分	平成12年産			平成13年産			平成14年産			平成15年産			平成16年産			平成17年産			平成18年産			平成19年産			平成20年産			
				基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (1)/(2)	
小粒大麦	宮城	シュンライ	全地区				33,600	34,986	104.1%	34,986	34,041	97.3%	34,041	32,340	95.0%	32,340	31,655	97.9%	31,655	31,889	100.7%	31,889	33,299	104.4%	33,299	35,587	106.9%	35,587	38,077	107.0%	
小粒大麦	宮城	ミノリムギ	全地区				33,600	35,070	104.4%	35,070	34,272	97.7%	34,272	32,592	95.1%	32,592	32,209	98.8%	32,209	32,221	100.0%	32,221	33,832	105.0%	33,832	36,200	107.0%	36,200	38,733	107.0%	
小粒大麦	茨城	カシムムギ	全地区	37,044	38,892	105.0%	38,892	40,740	104.8%	40,740	41,559	102.0%	41,559	40,362	97.1%	40,362	39,586	98.1%	39,586	39,190	99.0%	39,190	39,992	102.0%	39,992	42,792	107.0%	42,792	45,786	107.0%	
小粒大麦	茨城	マサカドムギ	全地区							40,740	40,110	98.5%	40,110	38,115	95.0%																
小粒大麦	栃木	シュンライ	全地区	37,044	37,443	101.1%	37,443	38,598	103.1%	38,598	37,737	97.8%	37,737	35,889	95.1%	35,889	34,179	95.2%	34,179	33,070	96.8%	33,070	34,719	105.0%	34,719	37,149	107.0%	37,149	39,749	107.0%	
小粒大麦	群馬	シュンライ	全地区													35,889	35,171	98.0%	35,171	34,467	98.0%	34,467	34,892	101.2%	34,892	36,965	105.9%	36,965	39,552	107.0%	
小粒大麦	埼玉	すずかぜ	全地区												40,362	38,347	95.0%	38,347	37,581	98.0%	37,581	38,708	103.0%	38,708	41,417	107.0%	41,417	44,316	107.0%		
小粒大麦	長野	ファイバースノウ	全地区																32,424	32,471	100.1%	32,471	33,907	104.4%	33,907	36,280	107.0%				
小粒大麦	長野	シュンライ	全地区				38,409	39,921	103.9%	39,921	38,464	96.4%	38,472	36,582	95.1%	36,582	36,089	98.7%													
小粒大麦	新潟	ミノリムギ	全地区										35,280	33,794	95.8%	33,789	32,130	95.1%	32,130	32,221	100.3%	32,221	32,232	100.0%	32,232	33,843	105.0%				
小粒大麦	新潟	ファイバースノウ	全地区													33,789	32,109	95.0%													
小粒大麦	富山	ファイバースノウ	全地区													39,963	40,551	101.5%	40,551	40,992	101.1%	40,992	40,996	100.0%	40,996	41,009	100.0%	41,009	43,058	105.0%	
小粒大麦	富山	ミノリムギ	全地区	37,044	38,409	103.7%	38,409	39,963	104.0%																	43,058	46,072	107.0%	46,072	49,296	107.0%
小粒大麦	石川	ファイバースノウ	全地区										38,724	38,745	100.1%	38,745	38,745	100.0%	38,745	39,128	101.0%								43,445	46,486	107.0%
小粒大麦	石川	ファイバースノウ	地区																			39,128	40,604	103.8%	40,604	43,445	107.0%				
小粒大麦	石川	ミノリムギ	全地区	37,044	36,960	99.8%	36,960	38,052	103.0%	38,052	38,735	101.8%																			
小粒大麦	福井	ファイバースノウ	全地区										40,152	40,614	101.2%	40,614	40,630	100.0%	40,630	40,845	100.5%	40,845	42,887	105.0%	42,887	45,889	107.0%	45,889	49,101	107.0%	
小粒大麦	福井	ミノリムギ	全地区	37,044	38,115	102.9%	38,115	39,585	103.9%	39,585	39,648	100.2%	39,648	39,186	98.8%																
小粒大麦	兵庫	シュンライ	全地区										35,028	35,721	102.0%	35,721	36,436	102.0%	36,436	36,436	100.0%	36,436	37,529	103.0%	37,529	40,155	107.0%	40,155	42,966	107.0%	
大粒大麦	北海道	りょうふう	全地区	31,269	29,715	95.0%	29,715	29,274	98.5%	29,274	28,413	97.1%	28,413	27,720	97.6%	27,720	26,334	95.0%	26,334	25,536	97.0%	25,536	26,794	104.9%	26,794	28,669	107.0%	28,669	30,676	107.0%	
大粒大麦	茨城	ミカモゴールド	全地区	31,269	30,639	98.0%	30,639	31,605	103.2%	31,605	30,358	96.1%				28,854	28,278	98.0%	28,278	27,843	98.5%	27,843	28,566	102.6%	28,566	30,201	105.7%	30,201	31,967	105.8%	
大粒大麦	栃木	スカイゴールド	全地区																												
大粒大麦	栃木	あまぎ二条	全地区	31,269	32,214	103.0%	32,214	33,642	104.4%	33,642	32,970	98.0%	32,970	31,836	96.6%	31,836	31,560	99.1%													
大粒大麦	栃木	ミカモゴールド	全地区																31,560	31,542	99.9%	31,542	32,950	104.5%							
大粒大麦	群馬	ミカモゴールド	全地区										30,240	28,728	95.0%	28,728	27,292	95.0%	27,292	26,200	96.0%	26,200	27,509	105.0%	27,509	29,434	107.0%				
大粒大麦	群馬	あまぎ二条	全地区							31,269																		29,434	31,494	107.0%	
大粒大麦	島根	アサカゴールド	全地区																									29,660	31,736	107.0%	
大粒大麦	岡山	おうみゆたか	全地区																			31,535	32,485	103.0%	32,485	34,108	105.0%	34,108	36,495	107.0%	
大粒大麦	岡山	ミハルゴールド	全地区																								34,108	36,444	106.8%		
大粒大麦	岡山	アサカゴールド	全地区				29,652	30,891	104.2%	30,891	30,240	97.9%	30,240	30,576	101.1%	30,576	31,535	103.1%													
大粒大麦	福岡	ニシノチカラ	全地区	32,214	32,214	100.0%	32,214	31,731	98.5%	31,731	31,521	99.3%	31,521	30,933	98.1%	30,933	30,618	99.0%													
大粒大麦	佐賀	あまぎ二条	全地区	31,269	31,248	99.9%	31,248	30,534	97.7%	30,534	29,358	96.1%	29,358	28,833	98.2%	28,833	29,226	101.4%								30,608	32,750	107.0%	32,750	35,042	107.0%
大粒大麦	佐賀	ニシノチカラ	全地区	32,214	31,899	99.0%	31,899	31,311	98.2%	31,311	31,101	99.3%	31,101	30,261	97.3%	30,261	30,604	101.1%	30,604	31,414	102.6%	31,414	32,946	104.9%	32,946	35,252	107.0%	35,252	37,719	107.0%	
大粒大麦	佐賀	ニシノホシ	全地区				31,269	31,290	100.1%	31,290	31,374	100.3%	31,374	31,689	101.0%	31,689	31,780	100.3%	31,780	32,306	101.7%	32,306	33,911	105.0%	33,911	36,284	107.0%	36,284	38,823	107.0%	
大粒大麦	佐賀	ほうしゅん	全地区												28,497	28,498	100.0%	28,498	29,286	102.8%	29,286	30,608	104.5%	30,608	32,635	106.6%	32,635	34,919	107.0%		
大粒大麦	佐賀	ミハルゴールド	全地区																						30,608	32,750	107.0%	32,750	35,042	107.0%	
大粒大麦	佐賀	ニシノゴールド	全地区	31,269	30,387	97.2%	30,387	29,736	97.9%	29,736	29,027	97.6%																			
大粒大麦	熊本	ニシノホシ	全地区										30,534	29,190	95.6%																
大粒大麦	大分	ニシノホシ	全地区										32,340	-	-																
はだか麦	香川	イチバンボン	全地区	40,250	40,775	101.3%	40,775	40,163	98.5%	40,163	38,808	96.6%	38,815	37,240	95.9%	37,240	35,987	96.6%	35,987	37,203	103.4%	37,203	39,062	105.0%	39,062	41,796	107.0%	41,796	44,722	107.0%	
はだか麦	愛媛	イチバンボン	全地区	40,250	40,250	100.0%	40,250	39,340	97.7%	39,340	37,699	95.8%	37,695	36,138	95.9%	36,138	34,982	96.8%	34,982	35,906	102.6%	35,906	37,700	105.0%	37,700	40,339	107.0%				
はだか麦	愛媛	ヒノデハダカ	全地区	40,250	42,263	105.0%	42,263	42,280	100.0%	42,280	40,215	95.1%	40,215	38,605	96.0%	38,605	37,079	96.0%	37,079	37,036	99.9%	37,036	38,887	105.0%	38,887	41,608	107.0%	41,608	44,520	107.0%	
はだか麦	愛媛	マンネンボン	全地区										37,695	35,823	95.0%	35,823	34,121	95.2%	34,121	34,294	100.5%	34,294	35,873	104.6%	35,873	38,384	107.0%	3			

3 平成20年産麦の産地別・銘柄別入札結果

(1) 小麦

(単位：円/トン、%)

麦種	産地	銘柄	地域区分	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (2)÷(1)	上場数量 (3)	申込数量 (4)	落札数量	落札 残数量	申込倍率 (4)÷(3)
小麦	北海道	タクネコムギ	全地区	43,912	43,557	99.2%	1,050	1,600	1,050	0	1.5
小麦	北海道	ハルユタカ	全地区	62,915	67,319	107.0%	960	1,320	960	0	1.4
小麦	北海道	ホクシン	全地区	41,081	43,955	107.0%	158,740	226,040	158,740	0	1.4
小麦	北海道	きたもえ	全地区	35,814	38,160	106.6%	1,350	2,210	1,350	0	1.6
小麦	北海道	春よ恋	全地区	62,915	66,870	106.3%	7,050	6,920	6,480	570	1.0
小麦	北海道	キタノカオリ	全地区	45,670	48,647	106.5%	2,390	3,460	2,310	80	1.4
小麦	岩手	ナンブコムギ	地区	37,389	38,126	102.0%	1,250	1,160	1,160	90	0.9
小麦	宮城	シラネコムギ	全地区	32,379	34,490	106.5%	920	1,620	920	0	1.8
小麦	茨城	農林61号	全地区	31,708	33,171	104.6%	5,230	3,410	3,410	1,820	0.7
小麦	栃木	農林61号	全地区	31,302	33,343	106.5%	1,430	3,820	1,370	60	2.7
小麦	群馬	つるびかり	全地区	41,133	42,318	102.9%	2,160	1,160	1,160	1,000	0.5
小麦	群馬	農林61号	全地区	37,519	40,108	106.9%	4,760	8,830	4,580	180	1.9
小麦	群馬	きぬの波	全地区	48,906	50,262	102.8%	1,090	1,150	1,090	0	1.1
小麦	埼玉	農林61号	全地区	39,563	42,047	106.3%	5,710	6,070	5,630	80	1.1
小麦	埼玉	あやひかり	全地区	41,288	39,224	95.0%	660	620	620	40	0.9
小麦	岐阜	農林61号	全地区	33,339	35,548	106.6%	1,510	3,030	1,510	0	2.0
小麦	愛知	農林61号	全地区	36,408	38,733	106.4%	3,310	5,190	3,310	0	1.6
小麦	愛知	イワイノダイチ	全地区	35,098	36,565	104.2%	2,060	3,130	2,060	0	1.5
小麦	三重	農林61号	全地区	33,728	36,084	107.0%	1,570	2,480	1,570	0	1.6
小麦	滋賀	農林61号	全地区	35,635	38,129	107.0%	4,110	9,950	4,110	0	2.4
小麦	滋賀	ふくさやか	全地区	36,506	39,061	107.0%	1,270	2,080	1,210	60	1.6
小麦	兵庫	シロガネコムギ	全地区	38,913	41,637	107.0%	1,290	2,040	1,290	0	1.6
小麦	香川	さめきの夢2000	全地区	51,974	55,554	106.9%	1,470	2,180	1,470	0	1.5
小麦	福岡	シロガネコムギ	全地区	35,844	37,760	105.3%	8,120	10,980	7,360	760	1.4
小麦	福岡	チクゴイズミ	全地区	35,998	37,762	104.9%	6,260	7,880	4,810	1,450	1.3
小麦	福岡	ニシホナミ	全地区	32,918	33,497	101.8%	1,870	400	400	1,470	0.2
小麦	福岡	農林61号	全地区	40,895	41,345	101.1%	820	420	420	400	0.5
小麦	福岡	ミナミカオリ	全地区	42,000	43,948	104.6%	950	550	550	400	0.6
小麦	佐賀	シロガネコムギ	全地区	34,357	36,762	107.0%	7,060	15,790	7,060	0	2.2
小麦	佐賀	チクゴイズミ	全地区	34,780	37,214	107.0%	4,370	7,590	4,370	0	1.7
小麦	佐賀	ニシノカオリ	全地区	37,739	40,004	106.0%	840	1,440	840	0	1.7
小麦	大分	チクゴイズミ	全地区	34,887	36,612	104.9%	1,040	1,720	920	120	1.7
小麦	大分	農林61号	全地区	33,968	35,847	105.5%	840	1,540	840	0	1.8

注：1) 基準価格及び指標価格は税込み価格である。
2) 建値条件は、ばら、1等、産地倉庫在姿である。

(2) 大・はだか麦

(単位：円/トン、%)

麦種	産地	銘柄	地域区分	基準価格 (1)	指標価格 (加重平均) (2)	(参考) 対比 (2)÷(1)	上場数量 (3)	申込数量 (4)	落札数量	落札 残数量	申込倍率 (4)÷(3)
小粒大麦	宮城	シュンライ	全地区	35,587	38,077	107.0%	540	1,010	540	0	1.9
小粒大麦	宮城	ミノリムギ	全地区	36,200	38,733	107.0%	340	640	340	0	1.9
小粒大麦	茨城	カシマムギ	全地区	42,792	45,786	107.0%	2,410	2,570	2,410	0	1.1
小粒大麦	栃木	シュンライ	全地区	37,149	39,749	107.0%	2,110	3,220	1,920	190	1.5
小粒大麦	群馬	シュンライ	全地区	36,965	39,552	107.0%	360	880	360	0	2.4
小粒大麦	埼玉	すずかぜ	全地区	41,417	44,316	107.0%	210	210	210	0	1.0
小粒大麦	富山	ファイバースノウ	全地区	46,072	49,296	107.0%	1,900	2,330	1,900	0	1.2
小粒大麦	石川	ファイバースノウ	地区	43,445	46,486	107.0%	580	1,260	580	0	2.2
小粒大麦	福井	ファイバースノウ	全地区	45,889	49,101	107.0%	3,360	5,030	3,360	0	1.5
小粒大麦	兵庫	シュンライ	全地区	40,155	42,966	107.0%	430	430	430	0	1.0
大粒大麦	北海道	りょうふう	全地区	28,669	30,676	107.0%	640	1,210	640	0	1.9
大粒大麦	茨城	ミカモゴールド	全地区	30,201	31,967	105.8%	1,300	480	450	850	0.4
大粒大麦	栃木	スカイゴールド	全地区	34,218	36,614	107.0%	630	990	630	0	1.6
大粒大麦	群馬	あまぎ二条	全地区	29,434	31,494	107.0%	30	60	30	0	2.0
大粒大麦	島根	アサカゴールド	全地区	29,660	31,736	107.0%	400	400	400	0	1.0
大粒大麦	岡山	おうみゆたか	全地区	36,495	39,048	107.0%	510	800	510	0	1.6
大粒大麦	佐賀	あまぎ二条	全地区	32,750	35,042	107.0%	550	260	260	290	0.5
大粒大麦	佐賀	ニシノチカラ	全地区	35,252	37,719	107.0%	480	970	480	0	2.0
大粒大麦	佐賀	ニシノホシ	全地区	36,284	38,823	107.0%	3,870	6,940	3,870	0	1.8
大粒大麦	佐賀	ミハルゴールド	全地区	32,750	35,042	107.0%	660	1,070	660	0	1.6
大粒大麦	佐賀	ほうしゅん	全地区	32,635	34,919	107.0%	950	1,370	950	0	1.4
はだか麦	香川	イチバンボシ	全地区	41,796	44,722	107.0%	740	1,130	740	0	1.5
はだか麦	愛媛	ヒノデハダカ	全地区	41,608	44,520	107.0%	140	140	140	0	1.0
はだか麦	愛媛	マンネンボシ	全地区	38,384	41,070	107.0%	1,430	2,060	1,430	0	1.4
はだか麦	大分	イチバンボシ	全地区	38,644	41,349	107.0%	600	720	600	0	1.2

注：1) 基準価格及び指標価格は、税込み価格である。
2) 建値条件は、ばら、1等、産地倉庫在姿である。

4 外国産食糧用麦の国別・銘柄別政府輸入量の推移

(単位：千トン)

区分			会計年度		平成6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
			W	W													
小	米 国	W	W	711	822	786	692	549	736	649	564	611	571	646	425	426	
		S	H	257	253	248	323	346	494	627	599	712	921	885	704	823	
		H	P	383	466	517	434	453	295	280	308	167	200	161	144	62	
		D	N S	1,302	880	1,003	1,145	1,277	1,031	1,088	1,188	813	1,168	1,066	1,304	1,414	
		Durum		129	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	計			2,782	2,431	2,554	2,594	2,625	2,556	2,645	2,660	2,303	2,860	2,758	2,577	2,726	
	カナ ダ	C	W	1,477	1,306	1,281	1,362	1,200	1,159	1,168	1,177	1,029	798	896	919	860	
		Durum		36	168	194	189	198	198	188	187	192	205	196	223	226	
	計			1,513	1,474	1,475	1,551	1,398	1,357	1,357	1,365	1,221	1,004	1,092	1,142	1,086	
	豪 州	A	S W	592	570	627	593	515	643	691	717	741	971	881	815	872	
P		H	-	-	-	-	-	-	-	95	134	226	249	253	275		
計		592	570	627	593	515	643	691	812	876	1,198	1,129	1,068	1,148			
合 計			4,887	4,475	4,656	4,738	4,538	4,556	4,692	4,836	4,400	5,061	4,979	4,787	4,960		
大・ はだ か 麦	米 国		7	8	6	16	7	4	10	23	7	4	3	-	2		
	カ ナ ダ		37	88	60	35	51	27	36	30	27	20	20	43	49		
	豪 州		74	145	129	144	148	169	199	185	205	216	286	216	324		
	合 計		118	241	195	195	206	200	244	238	238	240	309	258	375		

注：1) 決算ベースの数値である。

2) ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

5 政府買入価格と政府売渡価格との価格関係の推移

(1) 外国産麦(食糧用小麦)

(単位:円/トン)

項目 年度	政府買入 価格	政府売渡 価格	政府管理 経費	コスト逆ざや -(+) =	/	売買価格差 - =	/
昭和35年	26,119	36,627	1,826	8,682	23.7	10,508	28.7
40	27,252	35,988	1,889	6,847	19.0	8,736	24.3
45	27,385	35,425	2,077	5,963	16.8	8,040	22.7
50	61,506	47,109	4,551	18,948	40.2	14,397	30.6
55	54,032	73,209	6,488	12,689	17.3	19,177	26.2
60	45,741	84,465	5,761	32,963	39.0	38,724	45.8
平成2年	29,391	67,891	8,362	30,138	44.4	38,500	56.7
3	27,119	64,644	8,920	28,605	44.3	37,525	58.0
4	29,294	62,704	8,150	25,260	40.3	33,410	53.3
5	27,308	60,421	7,359	25,754	42.6	33,113	54.8
6	26,097	55,423	6,493	22,833	41.2	29,326	52.9
7	26,556	52,829	7,764	18,509	35.0	26,273	49.7
8	31,934	51,972	8,722	11,316	21.8	20,038	38.6
9	30,435	52,745	9,012	13,298	25.2	22,310	42.3
10	28,628	52,562	8,952	14,982	28.5	23,934	45.5
11	24,479	50,455	8,629	17,347	34.4	25,976	51.5
12	23,741	48,608	8,347	16,520	34.0	24,867	51.2
13	27,867	48,555	8,032	12,656	26.1	20,688	42.6
14	29,340	47,966	7,948	10,678	22.3	18,626	38.8
15	27,506	48,065	4,815	15,744	32.8	20,559	42.8
16	28,707	47,994	4,101	15,186	31.6	19,287	40.2
17	27,955	48,097	3,813	16,329	34.0	20,142	41.9
18	32,997	47,918	2,920	12,001	25.0	14,921	31.1

注：1) 価格は、年度平均の実績価格(包装代込)である。

2) 政府管理経費は、実績の数値である。

3) 元年度以降における政府買入価格及び政府売渡価格は、消費税額分を含む値である。

(2) 国内産麦

ア 小麦

(単位: 円 / 60kg)

項目 年度	政府買入 価格	政府売渡 価格	政府管理 経費	コスト逆ざや -(+) =	/	売買価格差 =	/
昭和35年	2,149	2,004	264	409	20.4	145	7.2
40	2,713	1,956	376	1,133	57.9	757	38.7
45	3,431	1,915	338	1,854	96.8	1,516	79.2
50	6,129	2,954	734	3,909	132.3	3,175	107.5
55	10,704	3,622	1,293	8,375	231.2	7,082	195.5
60	11,092	4,135	1,403	8,360	202.2	6,957	168.2
平成2年	9,223	3,078	1,394	7,539	244.9	6,145	199.6
3	9,110	2,967	1,335	7,478	252.0	6,143	207.0
4	9,110	2,967	1,376	7,519	253.4	6,143	207.0
5	9,110	2,662	1,441	7,889	296.4	6,448	242.2
6	9,110	2,516	1,430	8,024	318.9	6,594	262.1
7	9,110	2,463	1,193	7,840	318.3	6,647	269.9
8	9,110	2,463	1,418	8,065	327.4	6,647	269.9
9	9,023	2,511	1,458	7,970	317.4	6,512	259.3
10	8,958	2,430	1,322	7,850	323.0	6,528	268.6
11	8,893	2,308	1,202	7,787	337.4	6,585	285.3
12	8,824	2,308	1,274	7,790	337.5	6,516	282.3
13	8,693	2,308	8,890	15,275	661.8	6,385	276.6
14	8,693	2,308	10,661	17,046	738.6	6,385	276.6
15	8,552	2,296	16,069	22,325	972.3	6,256	272.5
16	8,306	2,296	14,320	20,330	885.5	6,010	261.8
17	7,197	2,401	-	-	-	-	-
18	7,197	2,401	-	-	-	-	-

イ 大麦

(単位: 円 / 50kg)

項目 年度	政府買入 価格	政府売渡 価格	政府管理 経費	コスト逆ざや -(+) =	/	売買価格差 =	/
昭和35年	1,587	1,443	269	413	28.6	144	10.0
40	1,982	1,397	288	873	62.5	585	41.9
45	2,507	1,326	428	1,609	121.3	1,181	89.1
50	4,477	1,986	560	3,051	153.6	2,491	125.4
55	8,083	2,540	1,048	6,591	259.5	5,543	218.2
60	8,366	2,912	1,170	6,624	227.5	5,454	187.3
平成2年	6,589	2,227	752	5,114	229.6	4,362	195.9
3	6,540	2,149	1,469	5,860	272.7	4,391	204.3
4	6,540	2,149	1,024	5,415	252.0	4,391	204.3
5	6,540	1,925	1,270	5,885	305.7	4,615	239.7
6	6,540	1,819	1,017	5,738	315.4	4,721	259.5
7	6,540	1,792	1,360	6,108	340.8	4,748	265.0
8	6,540	1,792	1,082	5,830	325.3	4,748	265.0
9	6,478	1,827	1,015	5,666	310.1	4,651	254.6
10	6,431	1,768	855	5,518	312.1	4,663	263.7
11	6,384	1,680	1,035	5,739	341.6	4,704	280.0
12	6,334	1,680	1,308	5,962	354.9	4,654	277.0
13	6,240	1,680	9,003	13,563	807.3	4,560	271.4
14	6,240	1,680	10,354	14,914	887.7	4,560	271.4
15	6,138	1,675	12,151	16,614	991.9	4,463	266.4
16	5,961	1,675	10,191	14,477	864.3	4,286	255.9
17	5,060	1,759	-	-	-	-	-
18	5,060	1,759	-	-	-	-	-

注：1) 政府買入価格及び政府売渡価格は、ア 小麦については42年度までは2類3等、43年度から57年度までは2類2等、58年度から61年度までは1等、62年度からは銘柄区分・1等、17年度は1等の価格であり、イ 大麦については、42年度までは3類3等、43年度から57年度までは3類2等、58年度から61年度までは2類1等、62年度からは銘柄区分・1等、17年度は1等の価格である。

2) 政府管理経費は、総経費(58年度から62年度及び9年度については国内麦流通円滑化奨励金、12~16年度は麦作経営安定資金等助成金を除いたもの)を売却数量で除した数値であり、実績の数値である。なお、13年度以降については、民間流通化に伴い政府売却数量が減少したことから単位当たり経費が増高するものである。

3) 元年度以降における政府買入価格については、課税農家に対し、販売に係る消費税相当額を別途支払う。

4) 元年度以降における政府買入価格及び政府売渡価格については、消費税額分を含む。

5) 17年度、18年度の国内産麦については、売却実績はない。

ウ はだか麦

(単位:円/60kg)

項目 年度	政府買入 価格	政府売渡 価格	政府管理 経費	コスト逆ざや -(+) =	/	売買価格差 =	/
昭和35年	2,237	1,940	381	678	34.9	297	15.3
40	2,824	1,880	512	1,456	77.4	944	50.2
45	3,572	1,794	410	2,188	122.0	1,778	99.1
50	6,380	2,700	779	4,459	165.1	3,680	136.3
55	11,036	3,326	1,589	9,299	279.6	7,710	231.8
60	11,441	3,819	1,347	8,969	234.9	7,622	199.6
平成2年	9,538	2,922	1,427	8,043	275.3	6,616	226.4
3	9,421	2,820	1,257	7,858	278.7	6,601	234.1
4	9,421	2,820	1,395	7,996	283.5	6,601	234.1
5	9,421	2,527	1,815	8,709	344.6	6,894	272.8
6	9,421	2,388	1,454	8,487	355.4	7,033	294.5
7	9,421	2,351	1,456	8,526	362.7	7,070	300.7
8	9,421	2,351	1,832	8,902	378.6	7,070	300.7
9	9,331	2,397	1,332	8,266	344.8	6,934	289.3
10	9,264	2,321	1,015	7,958	342.9	6,943	299.1
11	9,197	2,205	1,522	8,514	386.1	6,992	317.1
12	9,126	2,205	1,744	8,665	393.0	6,921	313.9
13	8,991	2,205	10,797	17,583	797.4	6,786	307.8
14	8,991	2,205	22,720	29,506	1,338.1	6,786	307.8
15	8,845	2,201	9,388	16,032	728.4	6,644	301.9
16	8,590	2,201	9,831	16,220	736.9	6,389	290.3
17	7,473	2,295	-	-	-	-	-
18	7,473	2,295	-	-	-	-	-

エ 小麦(トン当たり)

(単位:円/トン)

項目 年度	政府買入 価格	政府売渡 価格	政府管理 経費	コスト逆ざや -(+) =	/	売買価格差 =	/
昭和35年	35,817	33,400	4,342	6,759	20.2	2,417	7.2
40	45,217	32,600	6,274	18,891	57.9	12,617	38.7
45	57,183	31,917	5,637	30,903	96.8	25,266	79.2
50	102,150	49,233	12,235	65,152	132.3	52,917	107.5
55	178,400	60,367	21,552	139,585	231.2	118,033	195.5
60	184,867	68,917	23,378	139,328	202.2	115,950	168.2
平成2年	153,717	51,300	23,233	125,650	244.9	102,417	199.6
3	151,833	49,450	22,256	124,639	252.1	102,383	207.0
4	151,833	49,450	22,930	125,313	253.4	102,383	207.0
5	151,833	44,367	24,012	131,478	296.3	107,466	242.2
6	151,833	41,933	23,834	133,734	318.9	109,900	262.1
7	151,833	41,050	19,881	130,664	318.3	110,783	269.9
8	151,833	41,050	23,639	134,422	327.5	110,783	269.9
9	150,383	41,840	24,296	132,839	317.5	108,543	259.4
10	149,300	40,500	22,042	130,842	323.1	108,800	268.6
11	148,217	38,460	20,029	129,786	337.5	109,757	285.4
12	147,067	38,460	21,226	129,833	337.6	108,607	282.4
13	144,883	38,460	148,161	254,584	661.9	106,423	276.7
14	144,883	38,460	177,682	284,105	738.7	106,423	276.7
15	142,530	38,270	267,823	372,083	972.3	104,260	272.4
16	138,430	38,270	238,669	338,829	885.4	100,160	261.7
17	119,950	40,020	-	-	-	-	-
18	119,950	40,020	-	-	-	-	-

注：1) 政府買入価格及び政府売渡価格は、ウ はだか麦については42年度までは3類3等、43年度から57年度までは3類2等、58年度から61年度までは2類1等、62年度からは銘柄区分・1等、17年度は1等の価格であり、エ 小麦(トン当たり)については、42年度までは2類3等、43年度から57年度までは2類2等、58年度から61年度までは1等、62年度からは銘柄区分・1等、17年度は1等の価格である。

2) 政府管理経費は、総経費(58年度から62年度及び9年度については国内麦流通円滑化奨励金、12~16年度は麦作経営安定資金等助成金を除いたもの)を売却数量で除した数値であり、実績の数値である。なお、13年度以降については、民間流通化に伴い政府売却数量が減少したことから単位当たり経費が増高するものである。

3) 元年度以降における政府買入価格については、課税農家に対し、販売に係る消費税相当額を別途支払う。

4) 元年度以降における政府買入価格及び政府売渡価格については、消費税額分を含む。

5) 17年度、18年度の国内産麦については、売却実績はない。

6 種類別・銘柄別の政府売渡価格の推移

(単位：円、%)

項目 年月	外国産小麦（正味100kg当たり）				
	アメリカ産 ウェスタン・ホワイト	アメリカ産 (ダーク)ノーザン・スプリング	アメリカ産 ハード・レッド・ウィンター	カナダ産 ウェスタン・レッド・スプリング NO.1	オーストラリア産 スタンダード・ホワイト
昭和35.7	3,591 (0.0)	3,698 (0.0)	3,513 (0.5)	3,686 (0.5)	- (-)
40.7	3,520 (0.0)	3,578 (0.0)	3,450 (0.0)	3,619 (0.0)	- (-)
45.7	3,446 (0.0)	3,603 (0.0)	3,492 (0.0)	3,716 (0.0)	- (-)
50.8	4,520 (0.1)	4,659 (0.1)	4,566 (0.1)	4,743 (0.1)	4,489 (-)
55.2	6,879 (14.2)	7,652 (12.5)	7,076 (13.7)	7,832 (13.8)	6,869 (14.5)
59.12	7,833 (0.0)	8,655 (0.0)	8,085 (0.0)	9,005 (0.0)	8,003 (0.0)
平成 2.2	6,463 (4.2)	6,982 (4.8)	6,517 (4.6)	7,274 (4.4)	6,487 (4.2)
3.2	6,157 (4.7)	6,629 (5.1)	6,186 (5.1)	6,898 (5.2)	6,180 (4.7)
4.2	5,944 (3.5)	6,400 (3.5)	5,970 (3.5)	6,653 (3.6)	5,967 (3.4)
4.12	5,944 (0.0)	6,400 (0.0)	5,970 (0.0)	6,653 (0.0)	5,967 (0.0)
5.12	5,326 (10.4)	5,750 (10.2)	5,349 (10.4)	5,961 (10.4)	5,341 (10.5)
7.2	5,035 (5.5)	5,434 (5.5)	5,054 (5.5)	5,633 (5.5)	5,048 (5.5)
8.2	4,928 (2.1)	5,320 (2.1)	4,948 (2.1)	5,515 (2.1)	4,941 (2.1)
9.4	5,023 (1.9)	5,423 (1.9)	5,044 (1.9)	5,622 (1.9)	5,037 (1.9)
9.12	5,023 (0.0)	5,423 (0.0)	5,044 (0.0)	5,622 (0.0)	5,037 (0.0)
11.2	4,863 (3.2)	5,250 (3.2)	4,883 (3.2)	5,442 (3.2)	4,875 (3.2)
12.2	4,579 (5.8)	4,994 (4.9)	4,631 (5.2)	5,174 (4.9)	4,647 (4.7)
12.12	4,579 (0.0)	4,994 (0.0)	4,631 (0.0)	5,174 (0.0)	4,647 (0.0)
13.12	4,579 (0.0)	4,994 (0.0)	4,631 (0.0)	5,174 (0.0)	4,647 (0.0)
14.12	4,579 (0.0)	4,994 (0.0)	4,631 (0.0)	5,174 (0.0)	4,647 (0.0)
16.2	4,556 (0.5)	4,969 (0.5)	4,608 (0.5)	5,148 (0.5)	4,624 (0.5)
17.2	4,535 (0.46)	4,960 (0.18)	4,608 (0.00)	5,114 (0.66)	4,635 (0.24)
18.2	4,497 (0.84)	4,927 (0.67)	4,592 (0.35)	5,114 (0.00)	4,635 (0.00)
19.4	4,273 (5.0)	4,927 (0.0)	4,744 (3.3)	5,114 (0.0)	4,866 (5.0)
19.10	4,699 (10.0)	5,419 (10.0)	5,217 (10.0)	5,625 (10.0)	5,353 (10.0)
20.4	6,109 (30.0)	7,045 (30.0)	6,783 (30.0)	7,313 (30.0)	6,959 (30.0)

注：1) 元年4月以降の値は、消費税額分を含む価格である(平成9年4月は、消費税率の見直し(3%→5%)による改定である)。

2) カナダ産ウェスタン・レッド・スプリング・ホワイト 1の欄の昭和45年7月以前は20H 2、45年8月から平成17年1月までは13.5%、17年2月以降は12.5%もの価格である。

3) ()内は対前期増減率である。なお、平成19年4月の外国産小麦の価格の平均増減率は、主要5銘柄平均で1.3%である。

(単位：円、%)

項目 年月	外国産大麦 (正味100kg当たり)		国内産麦		
	オーストラリア産 ツーロウ	カナダ産 シックスロウ	小麦 (正味60kg当たり)	大麦 (正味50kg当たり)	はだか麦 (正味60kg当たり)
昭和35. 7	2,948 (0.0)	- (-)	2,004 (0.0)	1,443 (2.2)	1,940 (1.5)
40. 7	2,839 (0.0)	- (-)	1,956 (0.0)	1,397 (0.0)	1,880 (0.0)
45. 7	- (-)	- (-)	1,915 (0.0)	1,326 (0.2)	1,794 (0.1)
50. 8	2,929 (0.2)	- (-)	2,561 (0.1)	1,670 (0.1)	2,320 (0.1)
55. 2	4,868 (17.3)	- (-)	3,622 (11.5)	2,540 (11.5)	3,326 (9.0)
59.12	5,563 (0.0)	- (-)	4,135 (0.0)	2,912 (0.0)	3,819 (0.0)
2. 2	4,484 (4.5)	- (-)	3,258 (5.1)	2,346 (4.6)	3,079 (4.5)
3. 2	4,256 (5.1)	- (-)	3,078 (5.5)	2,227 (5.1)	2,922 (5.1)
4. 2	4,107 (3.5)	4,112 (-)	2,967 (3.6)	2,149 (3.5)	2,820 (3.5)
4.12	4,107 (0.0)	4,112 (0.0)	2,967 (0.0)	2,149 (0.0)	2,820 (0.0)
5.12	3,679 (10.4)	3,684 (10.4)	2,662 (10.3)	1,925 (10.4)	2,527 (10.4)
7. 2	3,477 (5.5)	3,481 (5.5)	2,516 (5.5)	1,819 (5.5)	2,388 (5.5)
8. 2	3,425 (1.5)	3,429 (1.5)	2,463 (2.1)	1,792 (1.5)	2,351 (1.5)
9. 4	3,491 (1.9)	3,495 (1.9)	2,511 (1.9)	1,827 (2.0)	2,397 (2.0)
9.12	3,491 (0.0)	3,495 (0.0)	2,511 (0.0)	1,827 (0.0)	2,397 (0.0)
11. 2	3,380 (3.2)	3,383 (3.2)	2,430 (3.2)	1,768 (3.2)	2,321 (3.2)
12. 2	3,211 (5.0)	3,214 (5.0)	2,308 (5.0)	1,680 (5.0)	2,205 (5.0)
12.12	3,211 (0.0)	3,214 (0.0)	2,308 (0.0)	1,680 (0.0)	2,205 (0.0)
13.12	3,211 (0.0)	3,214 (0.0)	2,308 (0.0)	1,680 (0.0)	2,205 (0.0)
14.12	3,211 (0.0)	3,214 (0.0)	2,308 (0.0)	1,680 (0.0)	2,205 (0.0)
16. 2	3,201 (0.3)	3,204 (0.3)	2,296 (0.5)	1,675 (0.3)	2,201 (0.2)
17. 2	3,646 (13.9)	3,649 (13.9)	2,401 (0.0)	1,759 (0.0)	2,295 (0.0)
18. 2	3,785 (3.8)	3,649 (0.0)	2,401 (0.0)	1,759 (0.0)	2,295 (0.0)
19. 4	4,352 (15.0)	4,196 (15.0)	- (-)	- (-)	- (-)
19.10	- (-)	5,584 (33.1)	- (-)	- (-)	- (-)
20. 4	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)

注：1) 元年4月以降の値は、消費税額分を含む価格である(平成9年4月は、消費税率の見直し(3% 5%)による改定である)。

2) 国内産麦については、昭和42年までは小麦は2類3等、大麦及びはだか麦は3類3等、43年から58年2月までは小麦は2類2等、大麦及びはだか麦は3類2等、58年8月から62年2月までは小麦は1等、大麦及びはだか麦は2類1等、63年2月から平成16年2月まではいずれも銘柄区分・1等、17年2月以降はいずれも1等の価格である。なお、平成19年からは、政府の無制限買入制度が廃止されたため定めていない(国内産麦の価格については民間流通連絡協議会における入札により決定)。

3) 48年8月以降における8月の価格は、麦管理改善対策控除額を増額したことによる価格である。

4) ()内は対前期増減率で単位はパーセントである。ただし、17年2月の国内産麦は、前年の銘柄区分・1等の価格に対する増減率である。

7 外国産麦のFOB価格と食糧部買付価格の推移（主要銘柄）

種類 産地 銘柄	小 麦 （食糧用）										参 考		
	アメリカ産 ウエスタン・ホワイト		オーストラリア産 スタンダード・ホワイト		アメリカ産 ハード・レッド・ウィンター (11.5%もの)		カナダ産 ウエスタン・レッド・スプリング (13.5%もの)		アメリカ産 ダーク・ノーザン・スプリング (14.0%もの)		為 替 レ ー ト	海 上 運 賃	
	FOB 価 格	食糧部 買付価格	FOB 価 格	食糧部 買付価格	FOB 価 格	食糧部 買付価格	FOB 価 格	食糧部 買付価格	FOB 価 格	食糧部 買付価格			
単位	ドル/トン	円/トン	ドル/トン	円/トン	ドル/トン	円/トン	ドル/トン	円/トン	ドル/トン	円/トン	円/ドル	ドル/トン	
昭和 45	57.32	27,113	55.85	-	58.93	27,699	65.17	30,050	62.37	29,027	359	11.6	
50	149.31	24,750	146.79	50,900	157.22	56,228	190.92	64,453	186.06	64,856	300	14.5	
55	169.23	47,012	183.06	51,086	189.11	51,379	223.36	59,235	208.35	55,947	221	31.1	
60	140.66	36,585	137.49	36,825	145.01	37,630	182.52	47,205	167.70	42,787	224	18.0	
62	121.11	21,268	120.04	21,002	127.64	22,135	154.93	26,169	139.17	23,658	140	21.6	
63	169.31	27,296	163.35	25,897	170.67	27,551	215.62	32,471	189.51	29,956	129	26.2	
平成 元	173.70	30,536	172.27	30,602	178.03	31,417	201.47	34,678	181.35	31,758	143	27.3	
2	128.92	23,184	132.41	24,136	138.06	25,063	164.38	29,293	147.70	26,131	144	25.8	
3	159.42	26,691	152.29	25,766	154.31	25,912	178.16	29,300	161.17	27,043	134	28.4	
4	170.09	26,294	161.66	25,670	163.98	25,762	193.87	29,132	176.32	27,353	127	27.1	
5	143.21	20,334	153.45	22,052	156.23	22,296	213.78	28,018	219.64	30,100	109	29.2	
6	161.90	20,966	168.43	21,813	166.99	21,344	199.33	24,194	194.60	25,160	101	30.7	
7	195.99	23,881	211.95	25,186	210.32	25,127	233.70	27,058	223.38	26,640	97	36.5	
8	185.17	24,433	219.80	28,966	213.73	27,566	235.56	30,889	219.90	29,028	113	29.5	
9	159.02	22,996	179.01	25,922	172.00	24,721	204.29	29,179	189.05	26,846	124	28.4	
10	125.33	19,143	152.11	23,215	145.80	21,607	186.30	27,617	170.44	25,077	130	28.6	
11	137.50	18,664	140.46	19,327	139.39	18,748	179.45	23,955	161.51	21,319	112	31.5	
12	122.56	17,517	152.59	20,925	148.43	20,713	180.55	24,229	162.57	22,389	111	36.2	
13	141.51	22,312	160.35	24,354	153.35	23,495	180.96	27,274	165.46	24,965	126	35.0	
14	157.42	22,079	184.60	25,600	181.46	24,526	203.43	28,312	191.44	25,883	123	31.0	
15	152.07	21,767	179.02	24,667	167.99	23,173	197.59	27,275	183.09	24,920	115	47.9	
16	155.18	21,831	180.18	24,305	167.56	22,874	206.07	27,852	192.06	25,342	108	61.4	
17	140.64	20,467	181.81	24,577	169.50	23,259	207.85	28,319	195.10	26,041	114	48.6	
18	176.09	27,162	226.35	31,357	212.62	30,333	236.88	33,742	222.27	30,978	118	56.5	
19	1月	191.43	29,556	228.42	33,192	215.07	31,951	237.16	35,776	221.31	32,639	120	70.6
	2月	202.58	30,767	234.23	33,892	221.32	32,803	246.74	36,695	230.01	33,367	122	68.0
	3月	213.39	31,322	238.08	33,394	222.11	32,372	247.74	35,830	230.38	33,388	120	38.3
	4月	221.93	33,845	234.02	34,041	221.43	32,662	246.26	36,926	230.38	33,133	119	71.0
	5月	222.02	33,384	229.89	34,344	218.35	32,165	248.59	38,072	231.57	34,454	121	71.6
	6月	230.10	35,362	251.68	38,000	236.90	35,835	266.97	40,010	249.58	37,256	123	70.4
	7月	245.26	37,535	266.17	39,000	254.81	38,457	284.37	42,799	266.39	40,118	124	72.3
	8月	259.65	38,504	290.50	41,312	277.90	40,155	295.76	42,933	278.76	40,831	120	77.0
	9月	338.90	47,753	354.62	47,811	339.42	46,879	354.06	50,699	332.77	46,715	117	88.9
	10月	397.65	57,049	409.00	57,880	383.79	55,367	407.24	59,247	385.62	55,680	116	107.2
	11月	397.44	54,736	400.97	54,960	358.61	50,423	395.13	57,175	375.39	52,067	117	121.5
	12月	516.73	62,028	464.00	60,583	419.36	58,354	478.95	66,261	452.92	62,280	112	121.5

- 注：1）FOB価格は、小麦は北米大陸太平洋岸における価格、大麦は豪州における価格である。
 2）食糧部買付価格は、契約ベースの輸入港頭渡価格であり、58年度までは袋物（包装代込）の価格、59年度以降はばら物の価格である。
 3）為替レートは、月初の東京銀行（三菱東京UFJ銀行）の直物相場である。
 4）海上運賃は、14年度までは国際穀物理事会（IGC）資料の価格、15年度以降は、トランプデータサービス（不定期船市況情報提供企業）の北米大陸太平洋岸～日本間の価格である。
 5）カナダ産ウエスタン・レッド・スプリングのFOB価格は、5年度から9年度までは12.5%もの、10年度は4月から10月までの12.5%ものと11月から3月までの13.5%もの平均、16年度は4月から10月までの13.5%ものと11月から3月までの12.5%もの平均、17年1月以降は12.5%ものである。
 6）平成6年度以前の買付価格は受渡基準単価（小麦1,000円、大麦1,300円）を含む。

8 外国産小麦の食糧部買付価格と政府売渡価格との比較

(単位：円/トン)

区 分 \ 年 度	平成5	10	15	16	17	18	19	
							4～9月	10～3月
食糧部買付価格	23,155	24,376	25,900	25,520	25,806	32,925	42,027	60,858
政府売渡価格	59,670	50,370	46,470	46,240	46,350	46,350	48,660	53,530
倍 率 ÷	2.6	2.1	1.8	1.8	1.8	1.4	1.2	0.9

(単位：円/トン)

年 月 \ 区 分	食糧部買付価格	政府売渡価格	倍率 ÷	(参考) 為替レート (円/ドル)
平成18.12	33,965	46,350	1.4	116.75
平成19.1	34,852		1.3	120.42
2	35,587		1.3	121.96
3	35,064		1.3	119.87
4	35,743		1.4	118.99
5	36,061	48,660	1.3	120.59
6	39,900		1.2	122.82
7	40,950		1.2	124.29
8	43,378		1.1	119.58
9	50,202		1.0	116.74
10	60,774		0.9	115.96
11	57,708		0.9	116.55
12	63,612	53,530	0.8	111.91
平成20.1	63,911		0.8	110.28

注：1) 食糧部買付価格及び政府売渡価格は、A S W(オーストラリア産スタンダード・ホワイト)の価格(税込み)である。

2) 食糧部買付価格は各年度の平均価格である(平成19年度は20年1月末まで)。

3) 平成6年度以前の食糧部買付価格は受渡基準単価1,000円を含む。

4) 為替レートは、月初の東京銀行(三菱東京U F J銀行)の直物相場である。

9 麦の国際需給状況

(1) 小麦

(単位：百万トン)

年 度		2003 /04	2004 /05	2005 /06	2006 /07 見込	2007 /08 予測
生産量	E U - 27	110.6	146.9	132.4	124.8	119.6
	中 国	86.5	92.0	97.5	104.5	106.0
	F S U - 12	60.9	86.5	91.9	86.0	93.5
	イ ナ ド	65.1	72.2	68.6	69.4	75.8
	ア メ リ カ	63.8	58.7	57.3	49.3	56.2
	カ ナ ダ	23.0	24.8	25.7	25.3	20.1
	アルゼンチン	14.5	16.0	14.5	15.2	15.5
	オーストラリア	26.1	21.9	25.2	10.6	13.1
その他の	103.0	106.1	108.4	108.1	105.2	
世界計	553.5	625.1	621.5	593.2	605.0	
消費量	E U - 27	115.1	123.2	127.5	125.5	120.0
	中 国	104.5	102.0	101.0	101.0	100.5
	F S U - 12	65.9	73.2	75.7	73.6	76.6
	イ ナ ド	68.3	72.8	70.0	73.4	75.9
	ア メ リ カ	32.5	31.8	31.4	31.0	31.2
その他の	201.2	203.9	218.8	211.3	215.4	
世界計	587.5	606.9	624.4	615.8	619.6	
期末在庫量	E U - 27	11.5	27.5	23.4	14.0	11.1
	ア メ リ カ	14.9	14.7	15.5	12.4	6.6
	カ ナ ダ	6.0	7.9	9.6	6.8	4.1
	オーストラリア	5.4	6.8	9.6	4.2	3.2
	その他の	94.6	93.7	89.5	87.7	85.4
世界計	132.4	150.6	147.6	125.1	110.4	
在庫率(%)	22.5	24.8	23.6	20.3	17.8	
輸入量	ブラジル	5.2	5.2	6.7	7.8	7.0
	エジプト	7.3	8.2	7.8	7.3	7.0
	E U - 27	7.4	7.1	6.8	5.1	6.5
	日本	5.8	5.7	5.5	5.7	5.5
	インドネシア	4.5	4.7	5.0	5.6	5.3
	アルジェリア	3.9	5.4	5.5	4.9	4.4
	その他の	66.7	73.2	72.8	75.9	69.2
世界計	100.8	109.5	110.1	112.3	104.9	
輸出量	アメリカ	31.5	29.0	27.3	24.7	33.3
	F S U - 12	7.9	15.5	21.1	22.4	22.6
	カナダ	15.8	14.9	16.0	19.6	14.0
	アルゼンチン	9.4	11.8	9.6	10.5	9.5
	E U - 27	9.8	14.7	15.7	13.9	9.0
	オーストラリア	18.0	14.7	16.0	8.7	8.0
その他の	16.0	10.1	10.5	10.9	10.5	
世界計	108.4	110.7	116.2	110.7	106.9	
貿易比率(%)	19.6	17.7	18.7	18.7	17.7	

(2) 大麦

(単位：百万トン)

年 度		2003 /04	2004 /05	2005 /06	2006 /07 見込	2007 /08 予測
生産量	E U - 27	55.8	64.1	54.8	56.2	57.8
	F S U - 12	29.6	33.2	29.5	34.0	27.1
	カナダ	12.2	12.6	11.7	9.6	11.0
	トルコ	6.9	7.4	7.6	7.5	6.5
	オーストラリア	10.4	7.7	9.5	4.2	5.9
	アメリカ	6.1	6.1	4.6	3.9	4.6
	中国	2.7	3.2	3.4	3.6	3.6
	その他の	18.8	18.7	15.4	18.3	16.8
世界計	142.5	153.0	136.5	137.3	133.3	
消費量	E U - 27	58.0	54.6	54.1	55.9	54.4
	F S U - 12	29.5	27.6	25.2	27.0	25.1
	カナダ	9.7	10.1	9.6	10.2	9.1
	トルコ	7.1	7.3	7.3	7.3	7.0
	サウジアラビア	7.0	5.4	6.5	6.8	6.6
	アラブ各国	4.7	5.4	5.6	4.8	4.7
	アメリカ	5.0	5.7	4.6	4.6	4.5
	その他の	26.2	26.3	28.2	28.8	27.0
世界計	147.2	142.4	141.1	145.4	138.4	
期末在庫量	E U - 27	4.5	11.1	8.5	5.6	4.6
	F S U - 12	3.7	4.2	3.0	3.1	2.1
	サウジアラビア	2.4	2.7	3.2	2.9	1.7
	カナダ	2.1	3.4	3.3	1.5	1.2
	オーストラリア	1.9	1.9	2.7	1.2	1.2
	アメリカ	2.6	2.8	2.4	1.5	1.1
その他の	5.3	7.0	5.5	4.8	3.5	
世界計	22.5	33.1	28.6	20.6	15.4	
在庫率(%)	15.3	23.3	20.3	14.2	11.1	
輸入量	サウジアラビア	6.8	5.7	7.1	6.5	5.4
	日本	1.4	1.5	1.4	1.4	1.4
	中国	1.5	2.0	2.2	1.1	1.2
	E U - 27	0.7	0.3	0.1	0.2	0.2
	その他の	4.6	6.3	6.5	5.4	5.6
世界計	15.0	15.8	17.3	14.6	13.8	
輸出量	E U - 27	2.6	3.3	3.3	3.5	4.5
	F S U - 12	4.5	5.5	5.8	7.3	3.2
	オーストラリア	6.4	4.3	5.3	1.9	2.3
	カナダ	1.8	1.2	2.3	1.2	2.2
	アメリカ	0.4	0.5	0.6	0.4	1.0
	その他の	3.3	3.6	4.2	4.5	5.2
世界計	16.4	15.1	18.2	15.3	13.9	
貿易比率(%)	11.5	9.9	13.4	11.2	10.5	

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates (3/11)」、
(3/17現在)」、「Grain: World Markets and Trade (3/8)」、「Production, Supply and Distribution

注：1) 期末在庫率(%)は、消費量に対する在庫量の割合である。

2) 貿易比率(%)は、生産量に対する貿易量の割合である。

10 麦会計の損益の推移

(単位：億円)

勘定区分 年度	国内米管理勘定				国内麦管理勘定				輸入食糧管理勘定					合計	
	売買損益	管理経費	備蓄損失 補てん財源 受入れ	計	売買損益	麦作経営 安定資金 等助成金	管理経費	計	売買損益	管理経費	備蓄損失 補てん財源 繰入れ	計	内訳		
													外米		外麦
昭和45年	1,959	1,649	-	3,608	124	-	36	160	288	65	-	223	8	215	3,545
50	3,881	3,139	-	7,020	133	-	29	162	620	220	-	840	0	840	8,022
55	961	4,513	-	5,474	699	-	140	839	871	275	-	596	8	588	5,717
60	699	3,323	-	4,022	1,139	-	243	1,382	1,542	239	-	1,303	14	1,289	4,101
63	74	2,519	-	2,445	1,149	-	220	1,369	1,926	260	-	1,666	13	1,653	2,148
平成元年	308	2,638	-	2,330	995	-	213	1,208	1,507	301	-	1,206	11	1,195	2,332
2	315	2,813	-	2,498	906	-	221	1,127	1,455	323	-	1,132	10	1,122	2,493
3	305	2,603	-	2,298	702	-	185	887	1,527	370	-	1,157	9	1,148	2,028
4	262	2,423	-	2,161	757	-	165	922	1,425	334	-	1,081	11	1,070	2,002
5	1,120	2,093	-	973	707	-	168	875	2,031	954	-	1,077	12	1,065	771
6	1,059	1,602	-	2,661	641	-	135	776	2,812	1,696	-	1,116	20	1,096	2,321
7	596	2,087	-	2,683	542	-	109	651	1,127	546	-	581	261	842	2,753
8	394	1,685	-	2,079	570	-	119	689	1,116	540	-	576	2	578	2,192
9	106	2,262	-	2,156	683	-	139	822	1,165	581	-	584	4	588	2,394
10	219	2,874	-	2,655	656	-	128	784	1,205	561	-	644	2	646	2,795
11	106	2,492	62	2,536	739	-	124	863	1,359	566	62	731	0	731	2,668
12	353	2,419	31	2,741	14	850	75	911	1,386	577	31	778	0	778	2,874
13	166	2,681	203	2,644	2	885	34	921	1,244	412	203	629	0	629	2,936
14	439	2,530	-	2,969	1	956	4	961	1,043	588	-	455	69	524	3,475
15	915	1,998	-	2,913	1	1,163	3	1,167	1,022	426	-	596	159	755	3,484
16	610	342	-	952	0	1,054	1	1,055	766	397	-	369	384	753	1,638
17	388	369	-	757	0	1,042	1	1,043	962	382	-	580	207	787	1,220
18	296	1,676	-	1,216	0	996	2	998	821	403	-	418	224	642	1,795

- (注)1 実績の数値である。
 2 国内米管理勘定には、過剰米処分損失分は含まれていない。
 3 5年度及び6年度の輸入食糧管理勘定の管理経費に、農業共済再保険特別会計への繰入額(5年度525億円、6年度1,024億円)を含む。
 4 13年度の輸入食糧管理勘定の管理経費には、農業共済再保険特別会計からの受入額(164億円)を含む。
 5 11年度～13年度の国内米管理勘定の備蓄損失補てん財源受入れ及び、輸入食糧管理勘定の備蓄損失補てん財源繰入れは、食糧管理特別会計法第6条第3項による。
 6 ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

11 枠外税率を支払って輸入された麦の数量の推移

年 度		平成14	15	16	17	18
小 麦	数量(トン)	2,291	5,041	4,985	6,378	6,453
	件 数	71	89	97	117	124
	用 途		フランスパン・ 有機小麦醤油・ 有機小麦味噌用等	フランスパン・ 有機小麦醤油・ 有機小麦味噌用等	フランスパン・ 有機小麦醤油・ 有機小麦味噌用等	フランスパン・ 有機小麦醤油・ 有機小麦味噌用等
大 麦	数量(トン)	365	1,370	886	728	596
	件 数	28	34	39	54	42
	用 途		ビール用等	ビール用等	ビール用等	ビール用等

資料：農林水産省調べ

注：用途については輸入者からの聞き取りであり、平成14年度は、未確認のため不明である。

